

Ⅳ 調査結果 Ergebnisse der Untersuchungen

富士市は、海拔0.7～3,421mまでの海際から富士山頂近くまで多様な環境要因がからみあっている。そのため残されている自然植生は海岸の波打ちぎわより高山帯まで多彩な植生が発達している。さらに人為的影響におきかえられた代償植生まで多くの植生がみられる。潜在自然植生を判定するためには自然植生とその代償植生との関連も必要となる。富士愛鷹山麓地域の植生（奥富、松崎1974）も参考に、さらに新しく得られた群落も含め33群集21群落、その他植林4が富士市でみとめられた。同時に、総和群集による景観区分が行なわれた。潜在自然植生図は37の凡例で示され、凡例解説がヤブツバキクラス域、ブナクラス域、コケモモトウヒクラス域、コマクサーイワツメクサクラス域のそれぞれの凡例ごとに示された。

A. 植物群落（富士市でみとめられた植物群落）

Vegetationseinheiten in der Stadt Fuji

a. ヤブツバキクラス域（低地帯）

Camellietea japonicae-Gebiet (Tiefland)

富士市の、海拔0mから富士山麓で600m、愛鷹山城で850mまでは、水際や砂の動くところを除いては、冬でも緑の常緑広葉樹林；照葉樹林が生育する地域である。したがって、日本の常緑広葉樹林に普遍的にみられる、冬季赤い花をつけるヤブツバキの名をとり、ヤブツバキクラスと呼ばれている（宮脇1967）。富士市域を含める中部地方のおよそ0～600（場所によって800）mはヤブツバキクラス域としてまとめられる。

富士市では、神社や寺院の社叢林、あるいは山地斜面に常緑広葉樹林のタブノキ、スダジイ、アラカン、アカガン林や、針葉樹と常緑カンとの混生林；カンシーモミ林がわずかな面積で残されている。15～25年に一度伐採されるところでは夏緑広葉樹林のコナラ林が発達する。丸火自然公園では、自然の溶岩の影響によるコナラ林が広く発達している（p. 52）。ヤブツバキクラス域にはスギ、ヒノキ、クロマツ、クスギ、オオバヤシャブシなどの植林が行なわれている。浮島ヶ原の湿原地ではジャナギの植栽地がみられた。その他岩上、岩隙草本植物群落、路傍、路上、河辺、伐跡、畑地、水田雑草群落、湿生、砂丘草原などがヤブツバキクラス域に発達している。

1 常緑広葉樹林 Immergrüne Laubwälder

富士市の海拔0～600m（愛鷹山では約850m）では、スダジイ、タブノキ、カン類、モミの林分が海際から山地中腹まで配分されている。

海際の海岸砂丘地帯では、古砂丘の安定地では、宮島前浜毘羅神社に代表されるマサキートベラ群集が発達する。砂丘後背地に広がる沖積地には、神社に勢いよく育っているタブノキで代

表されるタブノキ林（岩本の残存林分で示されるイノデータブノキ群集）が潜在自然植生と判定される。現在の集落地は、海拔30～40mの沖積地まで含めてイノデータブノキ群集の潜在自然植生域に集まっている。富士川流域の水神社、間門町浅間神社裏手にはイズセンリョウ、ホソバカナワラビ、リンボク、アマクサシダなど南方系の植物を有するホソバカナワラビースダジイ群集が残され分布している。同町の尾根部、鵜無ヶ淵町神明宮、富士見台下、岩本山ではスダジイが優占するヤブコウジースダジイ群集が残されている。海拔 220m の今宮の浅間神社の溶岩流上にはモミ、カヤ、ウラジロガンがヒノキ植林に混生した、シキミーモミ群集の断片がみられる。

ヤブツバキクラスは、日本列島の北は秋田県、岩手県より、南は沖縄県まで、シイ、タブノキ、カン類を主とした林分で共通している（藤原 1981 他）。中部地方では富士市における常緑広葉樹林の分布域が垂直的に、およその標準分布である（藤原1982）。

1) マサキートベラ群集

Euonymo-Pittosporretum tobira Miyawaki et al. 1971 (Tab. 2)

形態：マサキ、トベラ、マルバノジャリンバイ、ヤブニッケイ、モチノキ、ヤブツバキ、マルバグミなど葉の厚い風衝に強い低木あるいは亜高木によって構成される。林床にはキヅタ、ヤブコウジがみられる程度で他は、木本の芽生えが多い。富士市では宮島新浜毘羅神社に 1 ケ所古砂丘上に残されているが、一般にはクロマツを伴った 3 層群落か、クロマツを欠く 2 層群落を形成し、海からの風衝に対し、頭をはさみで刈られたような形態（Schereform; マッキー状）の林分を形成する。富士市では古い砂丘上で、周辺はクロマツ植林におおわれており安定している。

生態：マサキートベラ群集は海拔10mの古砂丘上に残存している。土壌は砂質未熟土で、落葉層（L, F）は1～2 cm, 粗腐植層（H）は無, A₁層は漸7～8 cm, 10Y R 2/2を示し黒褐色。粒は粗で砂土である。A₂層も砂上で、10Y R 3/3暗。粗で A₁, A₂とも潤である。毘羅神社の社叢林として残されているため風衝低木林の形態は示していないが基盤の土壌が古砂丘で発達していないためしばらく持続する群落である。

分布：富士市では1ケ所残されているにすぎないが、マサキートベラ群集は、静岡県では駿河湾岸、遠州灘の御前崎などで代表されるように（宮脇・村上・鈴木 1982）、風衝低木林として海岸断崖地や斜面に発達している。伊豆半島ではウバメガシ林（トベラウバメガシ群集）が海岸風衝地凸状地に、凹状地に一部マサキートベラ群集が発達している。マサキートベラ群集は、ヤブツバキクラス北限域の風衝低木林である。日本海沿岸にも発達し、九州までみられる。日本海沿岸では、島根半島以西でオニヤブソテツハマビワ群集と共存する。

2) イノデータブノキ群集

Polysticho-Perseetum thunbergii Suz-Tok. 1952 (Tab. 3)

形態：高木層にタブノキ、エノキ、ケヤキ、ムクノキ、クロガネモチが優占しあう林分。高木第

Tab. 2 マサキートベラ群集
Euonymo-Pittosporretum tobira

Feld-Nr. 調査番号 : Fu-3, Größe d. Probefläche 調査面積 : 600m². Höhe ü. Meer 海拔高 : 10m. Exposition 方位 : NE. Neigung 傾斜 : 10°. Höhe u. Deckung d. Baumschicht 高木層の高さおよび植被率 : 10m, 90%. Höhe u. Deckung d. Strauchschicht 低木層の高さおよび植被率 : 4m, 80%. Höhe u. Deckung d. Krautschicht 草本層の高さおよび植被率 : 0.5m, 20%. Artenzahl 出現種数 28種.

Kenn- u. Trennarten d. Ass.: 群集標徴種および区分種							
<i>Cinnamomum japonicum</i>	ヤブニッケイ	B	5・4	<i>Ophiopogon japonicus</i>	ジャノヒゲ	K	+・2
<i>Camellia japonica</i>	ヤブツバキ	B	2・3	<i>Ardisia japonica</i>	ヤブコウジ	K	+
<i>Euonymus japonicus</i>	マサキ	K	+	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	ヒイラギ	K	+
		S	2・2	<i>Ardisia crenata</i>	マンリョウ	K	+
		K	1・2	<i>Elaeagnus glabra</i>	ツルグミ	K	+
<i>Pittosporum tobira</i>	トベラ	S	2・3	Begleiter:	随伴種		
		K	1・2	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	エノキ	B	2・1
<i>Ligustrum ovalifolium</i>	オオバイボタ	S	+・2			K	+
<i>Elaeagnus macrophylla</i>	マルバグミ	S	+	<i>Ficus erecta</i>	イスビワ	B	1・2
Kenn- u. Trennarten d. höheren Einheiten:						S	1・2
	上級単位の標徴種および区分種			<i>Euonymus sieboldianus</i>	マユミ	B	1・1
<i>Fatsia japonica</i>	ヤツデ	S	+			S	+
		K	+	<i>Pleioblastus simonii</i>	メダケ	S	1・2
<i>Hedera rhombea</i>	キヅタ	S	+	<i>Rhus succedanea</i>	ハゼ	S	+
		K	1・2	<i>Rosa multiflora</i>	ノイバラ	S	+
<i>Neolitsea sericea</i>	シロダモ	S	3・3	<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガシワ	S	+
<i>Ligustrum japonica</i>	ネズミモチ	S	+	<i>Lycoris radiata</i>	マンジュシャゲ	K	+
<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	S	+	<i>Oplismenus undulatifolius</i>	ケチヂミザサ	K	1・2
<i>Podocarpus macrophyllus</i>	イスマキ	K	+	<i>Akebia quinata</i>	アケビ	K	+
				<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ	K	+

調査地 Lege d. Aufn.: Miyajima-Niihama, Shinto-Schrein Konpira 宮島新浜毘比羅神社.

調査年月日 Datum d. Aufn.: 9. Apr. 1983.



Fig. 9 昆比羅神社叢林相観 (宮島新田, 海拔10m)。

Kleiner Shinto-Schreinwald von Konpira-jinja (Miyajima Shinden, 10m ü. NN).

2層にもタブノキ、モッコク、クロガネモチ、サカキなど、低木層にヤブツバキ、アオキ、ヒサカキ、クロガネモチ、シロダモ、マサキ、ヤツデ、ヤブニッケイなど、草本層にイノデ、ヤブラン、ベニシダ、キチジョウソウ、キツタ、オオバジャノヒゲなどが生育している。調査地が神社林で、人為的影響がかなり加わっており、均質な植分ではないが、参考として各植分の記載が行なわれた。岩本の岩松神社（海拔25m）は、比較的自然に近い形で残されたイノデータブノキ群残存林分がみられる。人為的破壊が今後とも加わらないようにしたい。高木第1層は22mに達し集の90%の植被率で林内を密閉している。タブノキは胸高直径45cm、クロガネモチは70cmに達している。高木第2層にはシロダモ、ヤブツバキ、タブノキ、トベラ、エノキ、ムクノキ、アラカシが生育している。低木層はタブノキ、シロダモ、ヤブツバキ、アオキ、ヤブニッケイ、マサキ、ヤツデ、イヌビロ他40%の植被率で液果をもつ植物が多い。草本層はキツタ、シュロ、キチジョウソウ、オオバジャノヒゲ他が20%の植被率で生育している。

これらの林分はイノデを標徴種、キチジョウソウ、エノキ、ムクノキ、ケヤキ、オオバジャノヒゲを区分種としてイノデータブノキ群集にまとめられる。

生態：岩本岩松神社では、地下水面より1mの高さの沖積地上に発達している。10cm大の円礫層があり、沖積地独特の黒土が堆積した適潤地である。一般に神社林は参拝者が歩いたり、子供達の遊び場になりやすい。したがって林床の土はふみかためられ固結しやすい。林床植物が貧弱

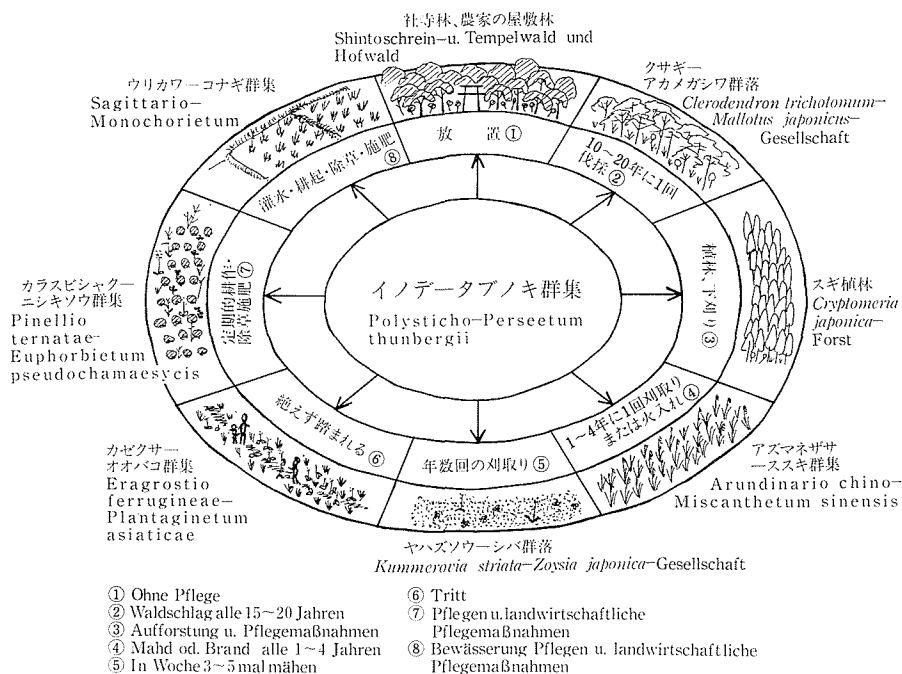


Fig. 10 イノデータブノキ群集域に対する人為的影響と代償植生。

Wechselbeziehung zwischen den Ersatzgesellschaften und ihren menschlichen Einwirkungen im *Polysticho-Perseetum thunbergii*.

になったり、反対に周辺から人為的影響と同時に雑草が入りやすい状態になっている。吉原本町の寺院、鶴無ヶ淵町神明宮、東田子ノ浦駅後の六王子神社、米の宮浅間神社などで植生調査資料が得られた。

分布：イノデータブノキ群集は、富士市では沖積地を中心に川沿に海拔 220m まであがっている。静岡県では広く沿岸部の沖積地に発達する。シキミーモミ群集、ヤブコウジースダジイ群集とともに関東地方の常緑広葉樹林の北限域林を代表する群集である（藤原1981）。

3) ホソバカナワラビースダジイ群集

Arachniodo-Castanopsietum sieboldii Miyawaki et al. 1971 (Tab. 3)

形態：高木層にスダジイ、タブノキが優占する。ホルトノキ、カゴノキなども混生する。

富士市では水神社裏手にきわめて狭い面積で、自然に近い形の林分が植生調査された。樹高15mと低いタブノキ、スダジイ、クロガネモチが混生し、一部ハリギリ、イヌシデなどの夏緑広葉樹もみられる。植被率80%を占めている。高木第2層にはアラカン、タブノキ、モチノキが生育し植被率30%を占めている。低木層では、アラカン、スダジイ、ヒサカキ、ヤブニッケイ、サカキ、ヤブツバキ、ツルグミ、トベラ、タブノキ、ヤツデなどの常緑広葉樹低木にホソバカナワラビースダジイ群集を区分するイズセンリョウが生育している。林床にはベニシダ、ヤマイタチ



Fig. 11 社叢林として残されてきたホソバカナワラビースダジイ群集
(富士市桑崎浅間神社, 海拔300m)。

Als Shintoistischer Schreinwald erhaltenes *Arachniodo-Castanopsietum sieboldii* (Kazaki, Shinto-Schrein Sengen 300m ü. NN).

シダ, オオイタチシダのシダ植物に, オオバジャノヒゲ, キチジョウソウなどの深い土壤地に生育する植物が生育している。一部西日本に分布するツルコウジがみられた。

間門町浅間神社では内陸部で海拔 150m と高いが, 樹高25mに達し, 林床に標徴種であるホソバカナワラビが生育している。その他リンボクもこの林分内に生育している。

生態, 分布: ホソバカナワラビースダジイ群集は富士山麓, 愛鷹山麓の南面に発達しているが, 富士山側では分布がみられない。東海, 中部地方のタブノキ林形成の可能な沖積地や斜面に発達する。間門町の残存林分は縄文時代後期, 現在より 3℃平均気温が高かった時代に分布したものであろう。南方系植物群落の遺存形を示しているものと考えられる。関東地方では, 房総半島, 伊豆半島に分布し, 関東平野にはイズセンリョウ, ホソバカナワラビが分布せず, わずかに茨城県, 埼玉県の北関東山地山麓部に個体的に谷部に細々と生育しているのがみられる(藤原1981)。

4) ヤブコウジースダジイ群集

***Ardisio-Castanopsietum sieboldii* Suz.-Tok. et Hatiya 1951 (Tab. 3)**

形態: スダジイが高木層に優占する。鵜無ヶ淵町神明宮には樹高28m, 胸高直径 100cm に達するスダジイが高木層を形成している。富士市では一度伐採されたあとの萌芽林や若齢林が多く12〜



Fig.12 岩本山に残されているヤブコウジースダジイ群集 (130m)。

Das *Ardisio-Castanopsietum sieboldii* ist auf dem Iwamotoyama noch erhalten (130m ü. NN).

15mの樹高の林分が多い。ウラジロガシ、アラカンなどのカン類を混生することがある。高木第2層にはスダジイ、ヤブツバキ、サカキ、タブノキなどが生育している。低木層は植被率30～50%が多く、ヒサカキ、アオキ、アラカン、スダジイ、アリドオシ、ジュズネノキ、シロダモ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、イヌガヤなど20～30種が生育している。草本層には、ナガバジャノヒゲ、テイカカズラ、ベニンダ、キヅタ、オオイタチンダ、ヤブラン、ヤブコウジ、シュンランなど20種前後が生育している。

生態：富士山麓、愛鷹山麓、岩本山など、山地下部の丘陵地や台地上、あるいは斜面の排水のよい立地に発達している。土壌は黄褐色森林土で、通気性がよい。

分布：富士市では海拔30～350mに生育している。関東地方や日本海沿岸の丘陵地にもっとも普通にみられる常緑広葉樹林北限域の乾性型林分を代表する群集である。北は福島県久美浜町、新潟県柏崎市まで分布している（宮脇・藤原・原田他1971, 藤原1981）。

上級単位：ヤブコウジースダジイ群集は、アカガシーシラカン群団、シキミーアカガシオーダー、ヤブツバキクラスにまとめられる。

5) シキミーモミ群集

***Illicio-Abietetum firmae* Suz-Tok. 1961 (Tab. 4)**

形態：高木層にモミ、カヤなどの針葉樹とともに、ウラジロガシ、アカガシの常緑広葉樹を混生

する。立地により、ウラジログシ、アカガシが優占林を形成することがある。高木第2層にはサカキ、スダジイ、タブノキ、ウラジログシ、アカガシ、アラカシなどが混生する。ときにユズリハ、ヤブツバキなどもみられる。低木層にはアオキ、ヤブニッケイ、ウラジログシ、ヒサカキ、ヒイラギ、ヤブツバキなどが混生している。ミヤマシキミ、シキミ、アセビなどを伴う。草本層にはテイカカズラ、ヤブコウジ、ヤマイタチンダ、ヤブラン、ベニシダなどに、微地形により生育する種や樹木の芽生えや幼苗が生育する。4層群落を形成する。

生態：富士市ではヒノキ植林、スギ植林が行なわれている地域が多く、残されている林分はほとんどない。今宮の浅間神社の溶岩流上にわずかに断片的な林分が調査された。

分布：海拔350～600mまで富士山麓に分布するものと考えられる。愛鷹山麓では、850mまで谷斜面沿いに上限域があがっている。

上級単位：アカガシーシラカシ群団、シキミーアカガシオーダー、ヤブツバキクラスに所属する。

6) アラカシ群落

Quercus glauca-Gesellschaft (Tab. 5)

形態：樹高8m、植被率80%を示すアラカシ林が植生調査された。シキミーモミ群集の代償植生で、高木層にアラカシが優占し、モミが混生している。低木層にアオキ、ヒサカキ、シロダモ、タブノキ、アラカシ、ヤブツバキ、イヌツゲなど常緑広葉樹低木が、エノキ、ハナйкаダ、ヤマツツジ、イヌビワの夏緑広葉樹と混生している。樹高8mと低く、屋敷周辺の土塁上に形成された林分である。草本層はテイカカズラが被度2と優占し、ジャガ、ヤブコウジ、ヤマイタチンダ、クマワラビ、ベニシダ、ビナンカズラ、オオバジャノヒゲ、ナンテンなどの常緑植物が生育している。モミ以外の種は、広く常緑広葉樹林に共通な種により構成されている。

生態：一般にアラカシは、常緑広葉樹林の伐採跡に二次林を形成しやすい。これは、アラカシが他のカシ類に対し競争力が弱い傾向があるためで、自然の生育地が、中部地方伊那谷にカシ林の北限として分布したり（藤原1982）、あるいは岩角地や石炭岩地に群落を形成しやすいことから明かである。

分布：関東地方を北限として、南は九州まで分布する。富士市では王子本町の屋敷林が調査されたが須津川溪谷などに二次林がみられる。

上級単位：アカガシーシラカシ群団、シキミーアカガシオーダー、ヤブツバキクラスに所属する。

2 夏緑広葉樹林 Sommergrüne Laubwälder

富士山麓のヤブツバキクラス域の上限は海拔約650mに判定されている。海拔650m以下に生育する夏緑広葉樹林は二次的に生育する代償植生で、その多くは、定期的に伐採、利用される薪炭林、あるいは復元途上のクヌギ、コナラ林である。

Tab. 4 シキミーモミ群集
Illicio-Abietetum firmae

Feld-Nr. 調査番号: Fu-35, Größe d. Probestfläche 調査面積: 100m², Höhe ü. Meer 海拔高: 260m,
Höhe d. Baumschicht-1 高木第1層の高さ: 26m, Höhe d. Baumschicht-2 高木第2層の高さ: 10m, Höhe d. Strauchschicht 低木層の高さ10m,
Höhe u. Deckung d. Krautschicht 草本層の高さおよび植被率 0.5m, 70%, Artenzahl 出現種数: 46種

Kenn- u. Trennarten d. Ass.:	群集標徴種および区分種						
<i>Quercus salicina</i>	ウラジロガシ	B ₁	v	<i>Rubus buergeri</i>	フユイチゴ	K	1 2
		S	v	<i>Damnacanthus major</i>	シュズネノキ	+	+•2
<i>Osmanthus heterophyllus</i>	ヒイラギ	B ₂	v	<i>Cinnamomum sieboldii</i>	ニッケイ	K	+
		S	v	<i>Ophiopogon planiscapus</i>	オオバジャノヒゲ	K	+•2
<i>Skimmia japonica</i>	ミヤマシキミ	K	+	<i>Ophiopogon japonicus</i> var.			
<i>Daphniphyllum macropodum</i>	ユズリハ	K	+	<i>caespitosus</i>	カブダチジャノヒゲ	K	+•2
Artern d. höheren Einheiten:	上級単位の種			<i>Dryopteris pacifica</i>	オオイタチンダ	K	+
<i>Persea thunbergii</i>	タブノキ	B ₁	v	<i>Quercus acuta</i>	アカガシ	K	+
		B ₂	v	<i>Damnacanthus indicus</i>	アリドオシ	K	+•2
		K	+	<i>Ardisia japonica</i>	ヤブコウジ	K	+•2
<i>Cleyera japonica</i>	サカキ	B ₂	v	<i>Liriope platyphylla</i>	ヤブラン	K	+
		B ₂	v	<i>Ophiopogon ohwii</i>	ナガバジャノヒゲ	K	+
		K	+	<i>Fatsia japonica</i>	ヤツデ	K	+
<i>Eurya japonica</i>	ヒサカキ	S	v	<i>Dryopteris bissetiana</i>	ヤマイタチンダ	K	+
		K	+	<i>Dryopteris fuscipes</i>	マルバベニンダ	K	+
<i>Camellia japonica</i>	ヤブツバキ	S	v	Begleiter:	随伴種		
		K	+	<i>Carpinus tschonoskii</i>	イヌンデ	B ₁	v
<i>Cinnamomum japonicum</i>	ヤブニッケイ	S	v	<i>Hydrangea scandens</i>	ガクウツギ	S	v
		K	1•1	<i>Dryopteris lacera</i>	クマワラビ	K	+•2
<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	S	v	<i>Acer palmatum</i>	イロハモミジ	K	+
		K	1•1	<i>Ainsliaea apiculata</i>	キッコウハグマ	K	+
<i>Lemnaphyllum microphyllum</i>	マメヅタ	S	v	<i>Iris japonica</i>	シャガ	K	1•2
<i>Torreya nucifera</i>	カヤ	B ₁	v	<i>Pertya scandens</i>	コウヤボウキ	K	+
<i>Abies firma</i>	モミ	B ₁	v	<i>Carex lenta</i>	ナキリスゲ	K	+
<i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i>	スダジイ	B ₂	v	<i>Kadsura japonica</i>	ビナンカズラ	K	+
<i>Bullbophyllum inconspicuum</i> (Ep.)	ムギラン	S	v	<i>Polystichum tripterum</i>	ジュウモンジシダ	K	+
<i>Trachelospermum asiaticum</i> var. <i>intermedium</i>	テイカカズラ	K	4•4	<i>Parabenzoin praecox</i>	アブラチャン	K	+
<i>Dryopteris erythrosora</i>	ベニンダ	K	2•3	<i>Lycopodium serratum</i>	トウゲシバ	K	+
<i>Actiondaphne lancifolia</i>	カゴノキ	K	+	<i>Orixa japonica</i>	コクサギ	K	+
<i>Dryopteris nipponensis</i>	トウゴクシダ	K	+•2				

調査地 Lage d. Aufn.: Imamiya, Shnito-Schrein Sengen-jinja 今宮浅間神社. 調査年月日 Datum d. Aufn.: 10. Apr. 1983.

Tab. 5 ア ラ カ シ 群 落

Quercus glauca-Gesellschaft

Feld- Nr. 調査番号 Fu-209, Größe d. Probefläche 調査面積: 50m², Höhe ü. Meer 海拔高: 336m, Exposition 方位: S, Neigung 傾斜: 5°,
 Höhe u. Deckung d. Baumschicht 高木層の高さおよび植被率: 8m, 80%, Höhe u. Deckung d. Strauchschicht 低木層の高さおよび植被率: 3m, 30%,
 Höhe u. Deckung d. Krautschicht 草本層の高さおよび植被率: 0.6%, 70%, Artenzahl 出現種数: 29種.

<u>Trennart d. Gesellschaft:</u>	群落区分種			<i>Abies firma</i>	モミ	B	+
<i>Quercus glauca</i>	アラカシ	B	5・4	<i>Ophiopogon planiscapus</i>	オオバジャノヒゲ	K	+
		S	2・2	<i>Lemmaphyllum microphyllum</i>	マメヅタ	S	+
<u>Arten d. höheren Einheiten:</u>	上級単位の種			<u>Begleiter:</u>	随伴種		
<i>Persea thunbergii</i>	タブノキ	S	+	<i>Carex lenta</i>	ナキリスゲ	K	+・2
		K	+	<i>Oplismenus undulatifolius</i>	コチヂミザサ	K	+
<i>Trachelospermum asiaticum</i> var.				<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	エノキ	K	+
<i>intermedium</i>	テイカカズラ	S	2・2	<i>Ilex crenata</i>	イヌツゲ	K	+
		K	3・3	<i>Helwingia japonica</i>	ハナイカダ	K	+
<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	S	1・2	<i>Rhododendron kaempferi</i>	ヤマツツジ	K	+
<i>Eurya japonica</i>	ヒサカキ	S	1・2	<i>Ficus erecta</i>	イヌビワ	K	+
<i>Neolitsea sericea</i>	シロダモ	S	1・1	<i>Osmunda japonica</i>	ゼンマイ	K	+
<i>Ardisia japonica</i>	ヤブコウジ	K	+・2	<i>Dioscorea tokoro</i>	トコロ	K	+
<i>Dryopteris bissetiana</i>	ヤマイトチンダ	K	+・2	<i>Amphicarpaea trisperma</i>	ヤブマメ	K	+
<i>Kadsura japonica</i>	ビナンカズラ	K	+・2	<i>Rubia akane</i>	アカネ	K	+
<i>Dryopteris erythrosora</i>	ベニシダ	K	+・2	<i>Orixa japonica</i>	コクサギ	K	+
<i>Camellia japonica</i>	ヤブツバキ	S	+	<i>Dryopteris lacera</i>	クマワラビ	K	+
<i>Nandina domestica</i>	ナンテン	K	+	<i>Iris japonica</i>	シャガ	K	+

調査地 Lage d. Aufn.: Hachioji-Honmachi 八王子本町. 調査年月日 Datum d. Aufn.: 2 Sept. 1983.

7) ササクスーコナラ群落

Lophatherum gracile-Quercus serrata-Gesellschaft (Tab. 6)

形態：アズマネザサ、ササクサ、タチドコロ、ヤマハゼ、ゴンズイ、オオバヤシャブシなどのほか、アラカシ、ヒサカキ、ツルグミ、ヤブコウジ、ジャノヒゲ、タブノキ、クロガネモチなど多くの常緑植物で区分される夏緑広葉樹二次林がササクスーコナラ群落にまとめられている。同様な植生はすでに奥富・松崎（1974）によるハコネダケーコナラ群落、宮脇・村上（1982）のクヌギーコナラ群落集があげられるが、調査資料が十分でなく、群落規定は行なわれなかった。高木層は8～10mで60～70%の植被率を占め、コナラ、クヌギ、オオバヤシャブシが優占している。常在度の高い種にはエゴノキがあり、これらの種はいずれも株立ち叢生して萌芽形態をとっている。クヌギの優占林はクヌギの植栽された立地が多く、二次的にコナラ、エゴノキなどが復元してクヌギーコナラ林を構成している。高木第2層は8～9mの高さで、20～30%の植被率を占め、リョウブ、アラカシ、ホオノキなどが生育している。低木層は3～4mの高さで、30～40%の植被率を占めている。優占種はとくにみられず、常在度の高い種群にはコナラーミズナラオーダーのガマズミ、コゴメウツギ、コバノガマズミ、リョウブ、ヤマツツジ、さらにヤブツバキクラスのアラカシ、ヒサカキ、ツルグミ、タブノキなどが生育している。草本層にはアズマネザサの優占する植分が多く、植被率は40～90%に達している。他の高常在度の伴生種にはササクサ、ゼンマイ、サルトリイバラ、ヤマユリ、ホンモンジスゲ、コチデミザサ、さらに林床では常緑植物の種数も増加して、ジャノヒゲ、カブダチジャノヒゲ、オオバジャノヒゲ、ヤブコウジ、テイカカズラ、ナキリスゲなど落葉かきによっても再生力の強い叢生形の種群が高い活力度で生育している。

生態：富士山麓の海拔400m以下のヤブコウジースダジイ群落集、ホソバカナワラビースダジイ群落集、あるいは一部、シキミーモミ群落集を潜在自然植生領域とする立地を指標している。土壌は火山灰を母材とする保水性の良いぼろ軟な火山灰土で、アズマネザサのような地下茎を持つ植物、ヤマユリ、ツルニンジン、シオデのような根茎が球状であったり、深く伸長する植物の生育に適している。

動態：10～20年に1度の伐採、そして定期的な下草刈りにより持続する代償植生である。放棄されると、アズマネザサが林床に繁茂し、放置期間が長ければ、ヤブツバキクラスの常緑植物の侵入、生育が増加し、カン類ではアラカシの生長が著しい。伐採されるとベニバナボロギクーダンドボロギク群落集、ススキクラス、ヨモギクラスの種群の侵入がみられるが、数年で株立ちしたクヌギ、コナラ、エゴノキなどの枝が上層をうっ閉してしまう。潜在自然植生はホソバカナワラビースダジイ群落集、ヤブコウジースダジイ群落集、シキミーモミ群落集である。

総和群落集：ヤブコウジースダジイ総和群落集に判定されている。

分布：富士山山麓の広見本町、大淵、中野などに薪炭林として分布している。愛鷹山系から植生調査資料は得られていない。

8) クリーコナラ群集

Castaneo-Quercetum serratae Okutomi, Tsuji et Kodaira 1976 (Tab. 6)

形態：コウヤボウキ、ナガバノコウヤボウキ、ウメモドキ、オトコヨウゾメ、ウラジロノキ、シラキ、アワブキなどで標徴、区分される夏緑広葉樹林がクリーコナラ群集にまとめられている。高木層は12～16mの高さで、70～90%の植被率を占めている。優占種はコナラ1種で、他にクリ、ホオノキ、ウラジロノキなどが出現している。高木種の多くは株立ち叢生しており、最近まで薪炭林として利用されてきたと考えられる。高木第2層は7～9mの高さで約20%の植被率を占め、マメザクラ、リョウブ、エゴノキ、シラキ、アオハダの常在度が高い。初春にはいち早くマメザクラが小形のピンクの花をつけ、春季相を彩る。低木層は3～4mの高さで60～70%の植被率を占め、クロモジ、コゴメウツギ、メツクバネウツギが優占している。出現種数は30～45種ときわめて高く、ハナйкаダ、ウメモドキ、コウヤボウキ、ナガバノコウヤボウキ、タマアジサイ、コマユミ、メツクバネウツギ、オトコヨウゾメなどが常在度高く生育している。春季には、クロモジ、コゴメウツギ、ハナйкаダ、オトコヨウゾメなどが白色からクリーム色の花をつけ、夏季にはツクバネウツギ、コウヤボウキ、ナガバノコウヤボウキ、タマアジサイ、イワガラミなどが咲きそろう。

草本層は0.3～0.5mの高さで、20～30%の植被率を占め、25～45種が出現している。優占種は



Fig. 13 クリーコナラ群集の林内に溶岩が露出している（丸火自然公園，海拔約600m）。

Im Castaneo-Quercetum serratae sieht man viel vulkanisches Gestein am Boden (Marubi Naturpark, 600m ü. NN).

ナガバノコウヤボウキ、ツタウルシ、オオイトスゲなどで、常在度の高い種には、コチデミザサ、ヒメノガリヤス、ヒメヤブラン、ハリガネワラビ、サルトリイバラ、ハンショウヅルなどがみられる。

生態：海拔600～800mの斜面で植生調査資料が得られている。立地はところどころに溶岩が露出する浅土地で、地形は細かい凹凸が多い。丸火自然公園に広く残されているクリーコナラ群集はもっとも新しい寄生火山噴出物の大淵丸尾溶岩上に生育している。富士山麓の海拔600～800mの火山灰土壌の形成された立地は全てがヒノキ、スギの植林に置き換えられているため、同じクリーコナラ群集が生育するのかどうか判定されていない。

動態：クリーコナラ群集もササクサコナラ群落と同様に、定期的に伐採されることによって持続する二次林である。他の地域のクリーコナラ群集と比較して、マメザクラ、ウメモドキ、ハンショウヅル、タマアジサイ、ズミなどを含んでおり、フォッサ・マグナの火山地帯に分布し、比較的新しい溶岩流という特異な環境が種組成に影響を及ぼしている。

クリーコナラ群集が伐採されると、ススキーカワラマツバ群落から遷移が進行してフジサンニシキウツギマメザクラ群集の低木林、そしてクリーコナラ群集に復元すると考えられる。またクリーコナラ群集が放置されると、シキミーモミ群集やヒノキ、ハリモミを混えるモミーンデ林の形成が推察されるが、現存する植分は確認されていない。さらに土壌の発達の悪い新しい溶岩流の上では、クリーコナラ群集が持続群落を形成するようである。

潜在自然植生：クリーコナラ群集はヤブツバキクラス域上部からブナクラス域下部にまたがって分布しており、潜在自然植生にはシキミーモミ群集、モミーンデ林、クリーコナラ群集などが判定されている。

総和群集：シキミーモミ総和群集。

分布：富士市の海拔500～650mに保護されている丸火自然公園の植分がもっとも広く、他は全てヒノキ植林に置き換えられている。

3 植 林 Forsten

富士市では植林地域が全市の約60%を占めている。富士山、愛鷹南面に広がるスギ、ヒノキ植林は、そのもっとも面積の広い林分である。その他海岸部の古砂丘上に植栽されたクロマツ植林、中野総合運動公園に植栽されたオオバヤシャブシ、河辺のニセアカシア、鷹岡厚原の雑木林を形成しているクスギ植林などがある。

植林は一般に木材を利用するため、防災林として、さらには早期緑化の目的で行なわれる。目的により人為的管理法は異なるため、植林の構成種も異なってくる。スギ、ヒノキ植林は、材を使うために頻繁な下草刈り、下枝刈りが必要とされ、時には間伐を行う。海岸クロマツ林は、美観を作るため落葉かきや下草刈りが行なわれる。河辺のニセアカシア、オオバヤシャブシやクスギなどは放置され、立地保全に利用される。かつては薪炭利用されていた。

9) スギ, ヒノキ植林

Cryptomeria japonica, Chamaecyparis obtusa-Forst

形態: 海拔 1,250m まで広く行なわれているスギ, ヒノキ植林は, 明治の後期より本格的に行なわれているが, 林地の下草刈り, 下草刈りが頻繁に行なわれ, 低木層はきわめて貧弱である。海拔 650m 以下の地域で, 林内に残されている低木はヒサカキ, ヤブコウジ, ベニシダなどヤブツバキクラスの構成種がわずかにみられるにすぎない。海拔 650~760m では, さらに種が貧弱となりチヂミザサ, クロモジ, モミジイチゴ, スイカズラ, ハナイカダ, トコロ, サルトリイバラなど林縁部に生育する種だけがみられる。海拔 400m 以上ではマメザクラ, アブラチャン, ムラサキシキブ, ハリガネワラビなどの種が増加する。

生態: スギは一般に降水量の多い地域の尾根部や水際に自生する。したがって植林を行なう際には, 降水量の多い地域に適し, とくに富士山のようなローム土が堆積した地域ではスギ, ヒノキ植林は適している。しかし, 海拔 700m 以上の林地では, 冬期の寒害が起りやすい。海拔 1000m 以上の富士山国有林では, 大正初期のヒノキ造林地の寒害を始め, 戦後の拡大造林に伴う大面積の皆伐のため過去幾多の寒害(特に寒風害)をこうむってきている(奥富・松崎 1974, 伊藤 1972)。

歴史: 富士・愛鷹山麓は, 鎌倉時代以後永い間続けられた採採, 採草, 火入れ, 狩猟などの強い人為的影響が, 一面の原野を形成していたため, 明治後期に本格的造林がはじめられた(奥富・松崎 1975, 伊藤 1972, 渡辺 1955)。

管理: スギ, ヒノキ植林地の下草刈りは立地の貧化を促すだけでなく, その管理はきわめて重労働を伴い, 経済的負担も大きい。したがって, 生態学的には, 針広混交造林を一部行なうか, あるいは 10 年生以上の上層がうっ閉した林分では, 自然生の低木を伐採せずに残し, 自然の構成種との共存をはかることにより, 立地の貧化を招かない。また, 間伐した際には上層がうっ閉するまでは, 下草刈りを行なわないと好陽植物が広がる危険がある。

10) クロマツ植林

Pinus thunbergii-Forst (Tab. 7)

形態: クロマツ植林は, 田子ノ浦海岸に帯状に行なわれている。樹高 8 m で, 海岸から風によって頭を切りとられた風衝形を示している。高木層はクロマツ 1 種で, 低木層にニセアカシア, アカメガシワの夏緑広葉樹がわずかにみられる。自然林構成種のネズミモチ, トベラなども広い地域内に復元しているところもある。田子ノ浦では, 林内にマルバノシャリンバイ, トベラ, アオキなどを遊歩道周辺にマント群落状に植栽し, 上手に土地利用を行なっている。草本層にはスズメノヤリ, チガヤ, トボシガラ, オオアレチノギク, スイカズラ, ノコンギク, オニタビラコ, ツルウメモドキ, ヒメヤブランなどが生育している。

生態: 宮島新浜毘羅神社のマサキートベラ群集まで土壌が発達せず, 表層に腐(粗腐)植層がわずかにある。腐植は序々に浸透しているが, その境界ははっきりしている。H-(A)層は 10R



Fig. 14 マサキートベラ群集域に植林されたクロマツ，強い潮風，貧養，乾燥に耐え長い時間をかけて生育する（田子ノ浦防風林。海拔 5 m）。

In den Arealen, wo das *Euonymo-Pittosporretum tobira* potentielle natürliche Vegetation ist, wird *Pinus thunbergii* aufgeforstet (Meereswindschutzwälder in Tagonoura, 5 m ü. NN).

Y 2/2。黒褐色 SL。弱団粒構造を示している。単粒状で粗，潤，細根が多い。A-B層は単粒状，粗，潤，細・太根多い。C層は砂。

動態：落葉かきを頻繁に行なったり，下草刈りを頻繁に行なうと草本植物の生育が困難になりハイゴケ，ヒメヤブランなどが生育する。

11) クヌギ植林

Quercus acutissima-Forst (Tab. 8)

形態：鷹岡厚原雑木林はかつてクヌギを植栽した地域である。下草刈りが近年行われなくなったために，アズマネザサが被度 5 と林床をおおっている。高木層は 17m にも達し，植栽されたクヌギが被度 5 と優占し，ネムノキと混生している。低木層は貧弱でガマズミ，ゴンズイ，クヌギなどが生育するにすぎない。5～10年前まで，下草刈りが頻繁に行なわれていたためであろう。草本層はアズマネザサの他にススキ，ヒカゲスゲ，アキノキリンソウ，ヒメヤブラン，ネコハギ，アオスゲ，トコロ，ヌスビトハギ，ネムノキの芽生えなどススキ草原構成種やつる植物が 46 種も生育して，ジャングル状を呈している。

Tab. 7 ク ロ マ ツ 植 林

Pinus thunbergii-ForstFeld- Nr. 調査番号 Fu-10. Größe d. Probefläche 調査面積: 100m². Höhe ü. Meer 海拔高: 5m. Neigung 傾斜 L.

Höhe u. Deckung d. Baumschicht 高木層の高さおよび植被率: 9m, 85%. Höhe u. Deckung d. Strauchschicht 低木層の高さおよび植被率: 1.5m, 1%.

Höhe u. Deckung d. Krautschicht: 0.3m, 70%. Artenzahl 出現種数: 40種.

Gepflanzter Baum:	植栽樹種						
<i>Pinus thunbergii</i>	クロマツ	B	5・4	<i>Oxalis corniculata</i>	カタバミ	K	+・2
Arten d. <i>Camellietea japonicae</i> :	ヤブツバキクラスの種			<i>Artemisia princeps</i>	ヨモギ	K	+・2
<i>Hedera rhombea</i>	キヅタ	S	+	<i>Dianthus superbus</i> var.			
<i>Eurya japonica</i>	ヒサカキ	K	+	<i>longicalycinus</i>	カワラナデシコ	K	+・2
<i>Eurya emarginata</i>	ハマヒサカキ	K	+	<i>Luzula capitata</i>	スズメノヤリ	K	3・2
<i>Persea thunbergii</i>	タブノキ	K	+	<i>Robinia pseudoacacia</i>	ニセアカシア	S	+
<i>Pittosporum tobira</i>	トベラ	K	+	<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガシワ	S	+
<i>Daphniphyllum teijsmannii</i>	ヒメユズリハ	K	+	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	ツタ	S	+
<i>Fatsia japonica</i>	ヤツデ	K	+	<i>Rosa wichuraiana</i>	テリハノイバラ	K	+
<i>Neolitsea sericea</i>	シロダモ	K	+	<i>Solidago virga-aurea</i> var. <i>asiatica</i>	アキノキリンソウ	K	+
<i>Ligustrum japonicum</i>	ネズミモチ	K	+・2	<i>Ligustrum ovalifolium</i>	オオバイボタ	K	+
Begleiter:	随伴種			<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	エノキ	K	+
<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>	チガヤ	K	2・2	<i>Paraxeris denticulata</i>	ヤクシソウ	K	+
<i>Poa acroleuca</i>	ミゾイチゴツナギ	K	2・3	<i>Prunus lannesiana</i> var. <i>speciosa</i>	オオシマザクラ	K	+
<i>Festuca parvigluma</i>	トボシガラ	K	2・2	<i>Rumex acetosa</i>	スイバ	K	+
<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ	K	1・2	<i>Athyrium niponicum</i>	イヌワラビ	K	+
<i>Aster ageratoides</i> var. <i>ovatus</i>	ノコンギク	K	1・2	<i>Ligustrum obtusifolium</i>	イボタノキ	K	+
<i>Youngia japonica</i>	オニタビラコ	K	1・2	<i>Oxalis corymbosa</i>	ムラサキカタバミ	K	+
<i>Celastrus orbiculatus</i>	ツルウメモドキ	K	1・2	<i>Carex fibrillosa</i>	ハマアオスゲ	K	+
<i>Erigeron sumatrensis</i>	オオアレチノギク	K	1・1	<i>Sonchus oleraceus</i>	ノゲシ	K	+
<i>Liriope minor</i>	ヒメヤブラン	K	1・1	<i>Cyperus rotundus</i>	ハマスゲ	K	+
				<i>Solanum photeinocarpum</i>	テリミノイヌホオズキ	K	+

調 査 地 Lage d. Aufn.: Maeda-Shinden, Samejima, Park Minato 鮫島前田新田港公園.

調査年月日 Datum d. Aufn.: 9. Aug. 1983.

Tab. 8 ク ス ギ 植 林

Quercus acutissima-Forst

Feld-Nr. 調査番号: Fu-121. Größe d. Probefläche 調査面積: 100m². Höhe ü. Meer 海拔高度: 30m. Neigung 傾斜: L. Höhe u. Deckung d. Baumschicht: 高木層の高さおよび植被率: 17m, 80%. Höhe u. Deckung d. Strauchschicht 低木層の高さおよび植被率: 3m, 20%. Höhe u. Deckung d. Krautschicht 草本層の高さ: 1.5m, 80%. Artenzahl 出現種数: 47種.

Gepflanzer Baum:	植栽樹種								
<i>Quercus acutissima</i>	クスギ	B	5・4	<i>Dioscorea japonica</i>	ヤマノイモ	K	1・1		
		S	+・2	<i>Ixeris dentata</i>	ニガナ	K	+・2		
Arten d. <i>Quercetalia serrato-grosseserratae</i> :				<i>Solidago virga-aurea</i> var. <i>asiatica</i>	アキノキリンソウ	K	1・1		
	コナラ—ミズナラオーダーの種			<i>Celastrus orbiculatus</i>	ツルウメモドキ	K	+		
<i>Albizia julibrissin</i>	ネムノキ	B	1・1	<i>Justicia procumbens</i> var. <i>leucantha</i>	キツネノマゴ	K	+		
		K	1・1	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ	K	+		
<i>Euscaphis japonica</i>	ゴンズイ	S	1・1	<i>Paederia scandens</i> var. <i>mairei</i>	ヘクソカズラ	K	+		
		K	+	<i>Rosa luciae</i>	ヤマテリハノイバラ	K	+		
<i>Viburnum dilatatum</i>	ガマズミ	S	1・2	<i>Carpesium glossophyllum</i>	サジガンクビソウ	K	+		
<i>Rhus sylvestris</i>	ヤマハゼ	K	+	<i>Rosa multiflora</i>	ノイバラ	K	+		
<i>Carex lanceolata</i>	ヒカゲスゲ	K	2・2	<i>Smilax riparia</i> var. <i>ussuriensis</i>	シオデ	K	+		
Sonstige Arten:	その他の種			<i>Commelina communis</i>	ツユクサ	K	+		
<i>Pleioblastus chino</i>	アズマネザサ	K	5・4	<i>Eupatorium chinense</i> var. <i>simplicifolium</i>	ヒヨドリバナ	K	+		
<i>Desmodium oxyphyllum</i>	ヌスビトハギ	K	1・2	<i>Calamagrostis arundinacea</i> var. <i>brachytricha</i>	ノガリヤス	K	+		
<i>Smilax china</i>	サルトリイバラ	K	1・2	<i>Bromus pauciflorus</i>	キツネガヤ	K	+		
<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ	K	+・2	<i>Lespedeza cuneata</i>	メドハギ	K	+		
<i>Dioscorea tokoro</i>	トコロ	K	1・2	<i>Viola grypoceras</i>	タチツボスミレ	K	+		
<i>Miscanthus sinensis</i>	ススキ	K	2・3	<i>Scilla sinensis</i>	ツルボ	K	+		
<i>Lespedeza pilosa</i>	ネコハギ	K	1・2	<i>Lactuca indica</i>	アキノノゲシ	K	+		
<i>Carex leucochlora</i>	アオスゲ	K	1・2	<i>Erigeron annuus</i>	ヒメジョオン	K	+		
<i>Potentilla freyniana</i>	ミツバツチグリ	K	+・2	<i>Erigeron canadensis</i>	ヒメムカシヨモギ	K	+		
<i>Lygodyum japonicum</i>	カニクサ	K	+・2	<i>Amphicarpaea trisperma</i>	ヤブマメ	K	+		
<i>Carex lenta</i>	ナキリスゲ	K	+・2	<i>Tylophora nikoensis</i>	コカモメヅル	K	+		
<i>Liriope minor</i>	ヒメヤブラン	K	+・2	<i>Ilex crenata</i>	イヌツゲ	K	+		
<i>Rhynchosia volubilis</i>	タンキリマメ	K	+・2	<i>Patrinia villosa</i>	オトコエシ	K	+		
<i>Agrostis clavata</i>	ヤマスカボ	K	+・2	<i>Pueraria lobata</i>	クズ	K	+		
				<i>Rubia akane</i>	アカネ	K	+		

調査地 Lage d. Aufn.: Atsuhara 厚原. 調査年月日 Datum d. Aufn.: 10. Aug. 1983.

Tab. 9 オオバヤシャブシ植林

Alnus sieboldiana-Forst

Feld-Nr. 調査番号: Fu-52. Größe d. Probestfläche 調査面積: 200m². Höhe ü. Meer 海拔高: 175m. Exposition 方位: S. Neigung 傾斜: 7°. Höhe u. Deckung d. Baumschicht-1 高木第1層の高さおよび植被率: 12m, 70%. Höhe u. Deckung d. Baumschicht-2 高木第2層の高さおよび植被率: 8m, 30%. Höhe u. Deckung d. Strauchschicht 低木層の高さおよび植被率: 3m, 40%. Höhe u. Deckung d. Krautschicht 草本層の高さおよび植被率: 0.8m, 20%. Artenzahl 出現種数: 46種.

Gepflanzte Bäume:		Begleiter:		その他の種	
<i>Alnus sieboldiana</i>	オオバヤシャブシ	B ₁	3・3	<i>Quercus glauca</i>	アラカシ B ₂ 2・3
<i>Chamaecyparis obtusa</i>	ヒノキ	B ₁	1・2		S 2・3
		B ₂	1・2	<i>Rosa multiflora</i>	ノイバラ S +
Arten d. <i>Quercetalia serrato-grosseserratae</i> :					K +
コナラミズナラオーダーの種				<i>Eurya japonica</i>	ヒサカキ S 3・4
<i>Quercus serrata</i>	コナラ	B ₁	3・3	<i>Thea sinensis</i>	チャノキ S 2・2
<i>Euonymus oxyphyllus</i>	ツリバナ	S	+	<i>Elaeagnus glabra</i>	ツルグミ S 1・2
		S	+	<i>Ardisia japonica</i>	ヤブコウジ K 1・2
<i>Quercus acutissima</i>	クヌギ	K	+	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>caespitosus</i>	カブダチジャノヒゲ K +・2
		B ₁	3・2	<i>Dryopteris erythrosora</i>	ベニシダ K +
<i>Rhododendron kaempferi</i>	ヤマツツジ	S	+	<i>Dryopteris bissetiana</i>	ヤマイタチシダ K +
<i>Viburnum dilatatum</i>	ガマズミ	S	+	<i>Clethra barbinervis</i>	リョウブ B ₂ 2・2
<i>Stephanandra incisa</i>	コゴメウツギ	S	+	<i>Styrax japonica</i>	エゴノキ B ₂ 1・1
<i>Lindera umbellata</i>	クロモジ	S	+	<i>Rubus palmatus</i>	ナガバモミジイチゴ S 1・2
<i>Rhus sylvestris</i>	ヤマハゼ	S	+	<i>Persea thunbergii</i>	タブノキ K +
<i>Symplocos chinensis</i> var. <i>leucocarpa</i> f. <i>pilosa</i>	サワフタギ	S	+	<i>Ligustrum obtusifolium</i>	イボタノキ S +
<i>Deutzia crenata</i>	ウツギ	S	+	<i>Rosa luciae</i>	ヤマテリハノイバラ S +
<i>Dioscorea gracillima</i>	タチドコロ	S	+	<i>Weigela coraensis</i>	ハコネウツギ S +
		K	+	<i>Smilax china</i>	サルトリイバラ S +
<i>Diospyros kaki</i>	カキノキ	S	+	<i>Lophatherum gracile</i>	ササクサ K +
<i>Prunus grayana</i>	ウワミズザクラ	S	+	<i>Vaccinium smallii</i> var. <i>glabrum</i>	スノキ K +
<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	カマツカ	S	+	<i>Ilex crenata</i>	イヌツゲ K +
<i>Euscaphis japonica</i>	ゴンズイ	S	+	<i>Viola grypoceras</i>	タチツボスミレ K +
<i>Oplismenus undulatifolius</i>	ケチヂミザサ	K	+	<i>Smilax riparia</i> var. <i>ussuriensis</i>	シオデ K +
<i>Pertya scandens</i>	コウヤボウキ	K	+	<i>Cocculus orbiculatus</i>	カミエビ K +
<i>Kalopanax pictus</i>	ハリギリ	K	+	<i>Melothria japonica</i>	スズメウリ K +
<i>Disporum sessile</i>	ホウチャクソウ	K	+	<i>Hydrangea hirta</i>	コアジサイ K +

調査地 Lage d. Aufn.: Nakano 中野. 調査年月日 Datum d. Aufn.: 2. Jun. 1983.

生態：長い間続けてきた下草刈りという人為的影響を停止したため、アズマネザサやつる植物が繁茂し、一時的にジャングル状を呈している。終局相に達して、林相が安定するまではこの状態が続く。

12) オオバヤシャブシ植林

Alnus sieboldiana-Forst (Tab. 9)

形態：中野総合運動公園では、かつて早期緑化のためにオオバヤシャブシを植栽したようである。現在は、植栽後管理を行わず放置したためクヌギ、コナラ林に復元している。高木第1層にオオバヤシャブシ、コナラ、クヌギ、高木第2層にはリョウブ、エゴノキ、アラカシ、ヒノキが生育している。樹高12mに達したこの林分は、林内管理も行なわれていないため、アラカシ、ヒサカキ、チャノキなど常緑広葉樹が被度2～3と優占して生育している。タブノキ、ソルグミも復元して、ヤマツツジ、コゴメウツギ、クロモジ、ガマズミ、カマツカ、コナラなどのコナラ林構成種とともに混生している。林床は少なくヤブコウジ、カブダチジャノヒゲ、ベニンダ、ヤマイトチンダなどの常緑植物に、ササクサ、ケチヂミザサ、ハリガネワラビ、コウヤボウキ、タチドコロ、ケハコネダケなどコナラ林構成種がわずかに混生しているにすぎない。

動態：このまま放置することにより、アラカシ林に遷移し、夏緑広葉樹林より常緑広葉樹林に移行する。

4 林縁生低木一つる植物群落

Strauch- und Lianen-reiche Mantelgesellschaften

富士市のヤブツバキクラス域では低地の河川ぞいや水田、畑の周辺、そして富士山山腹のスギ、ヒノキ植林の林縁などにつる植物やキイチゴ属 *Rubus*、そしてウツギ、ニワトコなどの夏緑低木類からなる低木群落が生育している。この林縁生の低木一つる植物群落は群落体系上ノイバラクラスにまとめられている。

ヤブツバキクラス域にみられる低木一つる植物群落は河辺に生育するクコ群落、スギ、ヒノキ植林の林縁部に生育するボタンズルーウツギ群落の2群落がまとめられた。

13) クコ群落

Lycium rhombifolium-Gesellschaft (Tab. 10)

形態：クコの優占する夏緑低木林。クコを区分種としてまとめられる。植生高50cmでクコのほかにはスギナ、ヤエムグラ、ヤブカンゾウ、ノビルなどの草本植物が混生している。

生態：河辺の半安定地、堤防斜面に生育している。全くの陽地で土壌は河川から供給された有機質に富んでいる。土壌は泥質である。数年に1回、河川の増水時に植生、土壌は冠水する。

動態：河川による攪乱条件（冠水、土壌の移動など）のもとで持続している。より攪乱が強くな

Tab. 10 ク コ 群 落
Lycium rhombifolium-Gesellschaft

Feld-Nr. 調査番号: 3. Lage d. Aufn. 調査地: Yayoi 弥生. Datum d. Aufn. 調査年月日: 20. Apr. 1984. Größe d. Probestfläche 調査面積: 16m². Höhe ü. Meer. 海拔高: 10m. Exposition u. Neigung 方位・傾斜: S 20°. Höhe u. Deckung d. Vegetation 植生高および植被率: 50cm, 80%. Artenzahl 出現種数: 10.

<u>Trennart d. Gesellschaft:</u>	群落区分種		<i>Rumex acetosa</i>	スイバ	+
<i>Lycium rhombifolium</i>	クコ	5・5	<i>Allium grayi</i>	ノビル	+
<u>Begleiter:</u>	随伴種		<i>Galium spurium</i> f. <i>strigosum</i>	ヤエムグラ	+
<i>Equisetum arvense</i>	スギナ	+・2	<i>Humulus scandens</i>	カナムグラ	+
<i>Hemerocallis fulva</i> f. <i>kwanso</i>	ヤブカンゾウ	+・2	<i>Oenanthe javanica</i>	セリ	+
<i>Polygonum cuspidatum</i>	イタドリ	+・2	<i>Calystegia japonica</i>	ヒルガオ	+

ればナガバギンギンシーギンギン群集へ、またより攪乱条件が弱まればノイバラ優占植分（センニンソウ群集）などに遷移する。

分布: 弥生。ヤブツバキクラス域の沖積低地、河川氾濫原、海岸などに普通。

14) ボタンヅルーウツギ群落

Clematis apiifolia-*Deutzia crenata*-Gesellschaft (Tab. 11)

生態: ウツギ、トコロを優占種とする夏緑低木一つの植物群落でノブドウ、アオツヅラフジ、ヤマテリハノイバラなどを区分種としてまとめられる。植分は2mおよび3mの高さで、優占種、区分種のほか木本類ではコゴメウツギ、モミジイチゴ、ツルウメモドキ、メボタンヅルなど、草本類ではミズヒキ、シロヨメナ、イタドリなどが生育している。出現種数は35種および37種である。形態: スギ、ヒノキ植林が自動車道に接した林縁部に生育している。隣接する植林から落枝落葉が供給される半陰地である。数年に1回程度地上部は伐採される。

潜在自然植生: シキミーモミ群集、ヤブムラサキモミ群落。

総和群集: クリーコナラ総和群集。

分布: 林道曾比奈線(630, 680m)。本州中北部のアカガシーシラカン群団域～ブナクラス域下部。上級単位: 標高630mの植分はセンニンソウ、エビヅルが混生している。エビヅル―センニンソウ群団との移行的植分である。種類組成全体としてはコゴメウツギ、モミジイチゴなどによりボタンヅルーモミジイチゴ群団に含まれる。

5 低地の岩上・岩隙草本植物群落

Steinschuttfloren und Felsspaltengesellschaften im Tiefland

木本植物の生育が困難な湿性、乾性岩壁では、下垂する葉茎をもつ小形シダ植物、多年生草本植物、さらにコケ類が岩上、岩隙草本植物群落を構成している。富士市のヤブツバキクラス域

では愛鷹山系の須津川沿いに露出する愛鷹火山下部凝灰角礫岩上にツルデンダーイワユキノシタ群集の生育がみられた。

15) ツルデンダーイワユキノシタ群集

Polysticho craspedosori-Tanakaeetum radicans

Nakamura in Miyawaki 1982 (Tab. 12)

形態：ツルデンダ，イワユキノシタを群集標徴種および区分種とする多年生草本植物群落。群落高は10～20cmで40%の植被率を占めている。優占種はイワユキノシタ，イワタバコで常在度の高い種にはダイヤモンドソウ，イワイタチンダ，ハコネンダ，ホトトギス，イワギボウシなどがある。イワタバコ，ホトトギス，イワギボウシなどは葉茎が岩壁での生育に都合良く下垂している。また，ツルデンダ，イワユキノシタは走出枝，あるいは中軸が鞭状にのびて匍匐状に繁殖し，岩壁に適応した形態が観察される。コケ層は60～80%と良く発達しており，チョウチンゴケやジャゴ



Fig. 15 中部凝灰角礫岩の岩隙に生育するツルデンダーイワユキノシタ群集。

小形シダはイワデンダ（富士市須津川沿い，海拔760m）。

Das *Polysticho craspedosori-Tanakaeetum radicans*
wächst am Hang auf Tuff-Gestein (am Fluß Sutsu, 760m ü. NN).

Tab. 12 ツルデンダーイワユキノシタ群集
Polysticho craspedosori-Tanakaeetum radicans

Laufende Nr.:	通 し 番 号	1	2
Feld-Nr.:	調 査 番 号	Fu	Fu
		49	44
Datum d. Aufn.:	調 査 年 月 日	'83	'83
		6	6
		1	1
Größe d. Probefläche (m×m):	調 査 面 積	1×2	1×1
Höhe ü. Meer (m):	海 抜 高	740	760
Exposition:	方 位	NW	SE
Neigung (°):	傾 斜	90	70
Höhe d. Vegetation (cm):	植 生 の 高 さ	20	10
Deckung d. Vegetation (%):	植 被 率	40	40
Artenzahl:	出 現 種 数	14	12
<u>Kenn- u. Trennarten d. Ass.:</u>	群集標徴種および区分種		
<i>Tanakaea radicans</i>	イワユキノシタ	+・2	3・3
<i>Polystichum craspedosorum</i>	ツルデンダ	+	+・2
<u>Arten d. höheren Einheiten:</u>	上級単位の種		
<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>incislobata</i>	ダイモンジソウ	+	+・2
<i>Conandron ramondiioides</i>	イワタパコ	1・1	+・2
<i>Dryopteris saxifraga</i>	イワイタチンダ	+・2	+・2
<i>Adiantum monochlamys</i>	ハコネンダ	2・2	+
<i>Tricyrtis hirta</i>	ホトトギス	+・2	+・2
<i>Astilbe simplicifolia</i>	ヒトツバシヨウマ	1・1	・
<i>Dennstaedtia hirsuta</i>	イヌシダ	+	・
<i>Crypsinus hastatus</i>	ミツデウラボシ	+・2	・
<i>Struthiopteris amabilis</i>	オサンダ	1・2	・
<i>Hosta longipes</i>	イワギボウシ	・	+・2
<i>Selaginella tamariscina</i>	イワヒバ	・	1・1
<i>Selaginella involvens</i>	カタヒバ	・	2・2
<i>Camptosorus sibiricus</i>	クモノスシダ	・	+
<u>Sonstige Arten:</u>	その他の種		
<i>Polystichum tripterum</i>	ジュウモンジンダ	+	+・2

出現1回の種 Außerdem je einmal in Lfd. Nr. 1: *Mecodium oligosorum* キョスミコケンノブ +・2,
Conocephalum conicum ジャゴケ 1・1.

ケなど5～6種が生育している。

生態: 70～90度の切りたった溪谷部の岩壁に生育している。岩相は凝灰角礫岩からなり角礫の含有によって岩壁の表面は細かな起伏に富んでいる。構成種の多くは凹入したやや軟かい保水性のある凝灰質の部分に生育し、遠景からは斑紋状に群落の相観がみられる。須津川の溪谷部は深い谷となっており、年間を通じて冷涼で湿潤な微気象に支配されている。ツルデンダーイワユキノシタ群集は海拔740～760mのヤブツバキクラス域で調査されているが、群落構成種のイワユキノ

シタ、イワタバコは海拔 1,200m 付近まで生育しており、高海拔地のヒトツバシ ョウマーコイワザクラ群落に混生することもある。

ツルデンダーイワユキノシタ群集はヒトツバシ ョウマーコイワザクラ群落、多潤岩壁でウラハグサ群落に接して生育がみられる。

動態：ツルデンダーイワユキノシタ群集は土砂崩壊によって破壊される以外は動態的な変化に乏しい。植生の破壊後に定着するのはコケ類を主とした植物群落であろう。

分布：ツルデンダーイワユキノシタ群集は南四国東部の海拔500～890m（ヤブツバキクラス域上部～ブナクラス域下部）から報告があり（中村1982），その後，静岡県安倍川上流でも植分が確認されている（未発表資料）。分布はソハヤキ的であるが九州および紀伊半島には生育せず不連続分布を示している。愛鷹山系のツルデンダーイワユキノシタ群集は確認された分布域のほぼ北限に位置している。

上級単位：ツルデンダーイワユキノシタ群集はイワタバコ，イヌシダ，ハコネシダ，ミツデウラボシなどの出現によってイワタバコ群団，イワタバコオーダー，さらにイワデンダ，ダイヤモンドソウなどによってチャセンシダクラスにまとめられている。

6 林縁草本植物群落 Saumgesellschaften

富士市のヤブツバキクラス域を広く覆うスギ，ヒノキ植林や，水田地帯に残されたイノデータブノキ群集の林縁部にはカラムシ属；*Boehmeria*，ドクダミ，ミズヒキ，コチデミザサなどを構成種とする多年生広葉草本植物群落が生育している。この群落はいずれも植物社会学的にはミズヒキードクダミ群団，そしてヨモギクラスにまとめられている。

植分は1年もしくは数年に1回刈りとりを受けるが，立地は隣接する森林から腐植を供給され比較的富養である。富士市のヤブツバキクラス域に生育する林縁草本植物群落は2群落がまとめられた。

16) ヤブマオーツルマオ群落

Boehmeria longispica-Gonostegia hirta-Gesellschaft (Tab. 13)

形態：ツルマオの優占する多年生草本植物群落。ヤブマオ，ツルマオを区分種としてまとめられる。植生高は40cmで区分種2種のほかヨモギ，コチデミザサ，イタドリなどの多年生草本植物やクズ，キツタなどのつる植物が混生している。

生態：イノデータブノキ群集が用水路に接した林縁部に生育している。半陰で，湿潤な立地となっている。

潜在自然植生：イノデータブノキ群集。

総和群集：ウリカワーコナギ総和群集域。

分布：岩本。ツルマオは日本では東海地方を北限としており熱帯地方には広く分布している。

17) クサコアカソーフジテンニンソウ群落

Boehmeria gracilis-Leucosceptrum japonicum f. *barbinerve*-Gesellschaft

(Tab. 13)

形態：フジテンニンソウ，ムカゴイラクサ，ササガヤなどの優占する多年生草本植物群落。イヌワラビ，ゲンノショウコ，クサコアカソ，アカネ，ムカゴイラクサ，ミズヒキなどを区分種としてまとめられる。植分の高さは50～100cm，植被率は80～100%となる。優占種，区分種群のほかコチヂミザサ，ツリフネソウ，シロヨメナ，ミズタマソウ，シシウド，サラシナショウマなどが混生している。広葉の多年生草本植物が群落構成種のほとんどを占める。出現種数は16～31種，平均26種である。

生態：中海抜(600～890m)の半陰な林縁部に発達する。ほとんどの植分はスギ，ヒノキ植林の林縁群落として配分している。土壌は適潤，礫質で腐植の混入が多い。植分には年1回程度地上部の刈りとりが行なわれる。

潜在自然植生：シキミーモミ群集，アブラチャンーケヤキ群集。

総和群集：クリーコナラ総和群集，シコクスミレーブナ総和群落。



Fig. 16 ブナクラス域の湿潤な林縁に生育するクサコアカソーフジテンニンソウ群落(富士市中里林道，海拔640m)。

Am feuchten Waldrand des Fagetea crenatae-Gebietes wachsende *Boehmeria gracilis-Leucosceptrum japonicum* f. *barbinerve*-Gesellschaft (entlang des Nakazato-Waldweges 640m ü. NN, in der Stadt Fuji).

分布：中里林道，林道曾比奈線，丸火などの主にアカガシーシラカシ群団域。

上級単位：フジテンニンソウの優占植分は標高 600m 付近から 1,000m 以上まで主にブナクラス域を中心に広い範囲に生育している。クサコアカソーフジテンニンソウ群落は比較的低海拔地に分布するフジテンニンソウ優占植分その他がまとめられている。植分にはシシウド，タニソバなどブナクラス生のオニシモツケーオオヨモギクラスの種もみられるが，ドクダミ，ミズヒキなどのヨモギクラス，ミズヒキードクダミ群団の種群も混生している。本書ではミズヒキードクダミ群団の植生としてまとめられた。

7 踏跡群落 Trittgesellschaften

人や車，動物などの踏みつけを受ける路上や空地，登山道上などには踏圧に耐えられる低茎の草本植物群落が生育している。富士市内で植生調査された踏みつけ地の群落は，主に 1 年生草本植物により構成されるギンゴケーツメクサ群集，オヒシバーアキメヒシバ群集，多年生草本植物を主体とするカワラスゲーオオバコ群集，カゼクサーオオバコ群集，シバ群落にまとめられた。

18) ギンゴケーツメクサ群集

Bryo-Saginetum japonicae Ohba 1971 (Tab. 14-b)

形態：主に 1 年生草本植物とコケ植物からなる矮生植物群落。ギンゴケ，ツメクサの 2 種を標徴種としてまとめられる。植生調査された植分は高さ 1 cm である。標徴種のはかスズメノカタビラ，オランダミミナグサ，ハルジョオンが混生している。出現種数は 5 種および 7 種である。

生態：市街地の路上や住宅の周囲のコンクリート・ブロックの間隙，街路樹の植えます内などに生育する。除草，踏みつけなどに耐えて発達している。

動態：人為的干渉が弱まれば，オヒシバーアキメヒシバ群集，ホトケノザーコハコベ群落などのより草丈の高い群落に遷移してゆく。

総和群集：ギンゴケーツメクサ総和群集。

分布：綿町。ほぼ日本全国の市街地。

19) オヒシバーアキメヒシバ群集

Eleusino indicae-Digitalietum violascentis Okuda 1978

(Tab. 14-a)

形態：メヒシバの優占する 1 年生草本植物群落。オヒシバ，アキメヒシバを標徴種としてまとめられる。植分は 50cm の高さでメヒシバ，オヒシバ，アキメヒシバのほかイヌビエ，アキノエノコログサ，コセンダン，タカサブロウなどの 1 年生草本植物が多数混生している。

生態：低地の路傍，路上，空地などの踏みあとにみられる。ギンゴケーツメクサ群集の生育地と近似しているが，より水分条件の良いやや肥沃な立地に生育している。

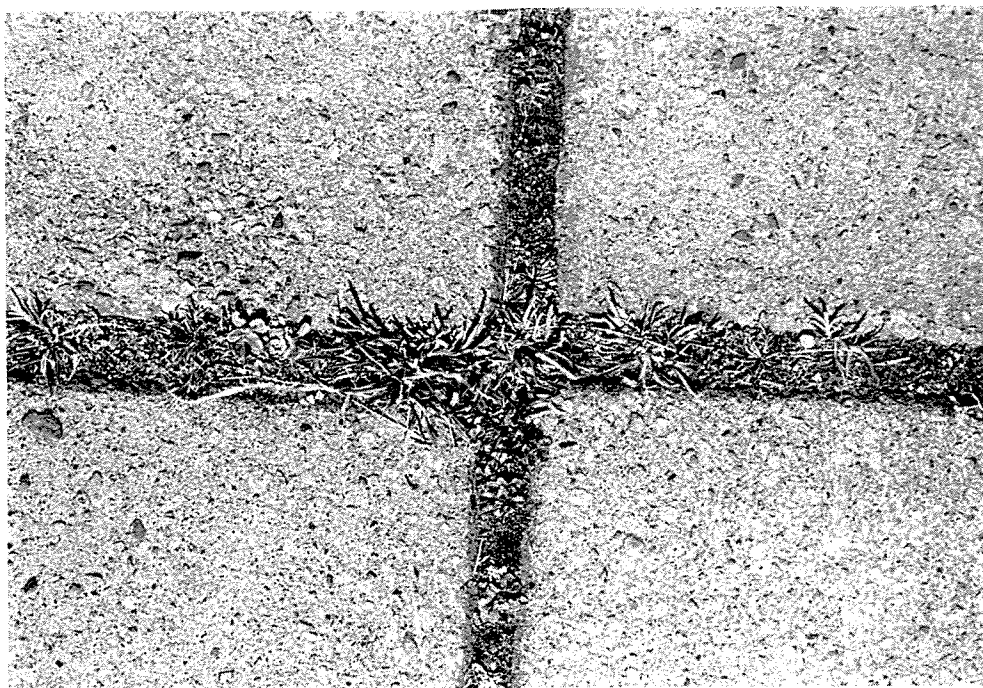


Fig. 17 道路のコンクリート板の間に生育しているギンゴケツメクサ

群集。都会地雑草群落を代表する（富士市役所前，海拔56.4m）。

Die Ersatzgesellschaft Bryo-Saginetum japonicae entsteht unter extremem anthropogenem Einfluß, nämlich taglichem Tritt. Eine der representativen Stadtgesellschaften zwischen den Pflastersteinen (vor Rathaus der Stadt Fuji).

Tab. 14-a オヒシパーアキメヒシバ群集

Eleusine indicae-*Digitarietum violascentis*

Feld-Nr.: 調査番号: Fu- 205, Datum d. Aufn. 調査年月日: 1. Sep. 1983, Lage d. Aufn. 調査地: Iwamono 岩本, Höhe ü. Meer 海拔高: 40m, Exposition u. Neigung 方位および傾斜: L, Größe d. Probefläche 調査面積: 1×2m, Höhe u. Deckung d. Vegetation 植生高および植被率: 50cm 80%, Artenzahl 出現種数: 11.

Kennarten d. Ass.:	群集標徴種				
<i>Eleusine indica</i>	オヒシバ	3・3	<i>Bidens pilosa</i>	コセンダン	+
<i>Digitaria violascens</i>	アキメヒシバ	1・2	<i>Polygonum nodosum</i>	オオイヌタデ	+
			<i>Eclipta prostrata</i>	タカサブロウ	+
Begleiter:	随伴種		<i>Cyperus amuricus</i>	チャガヤツリ	+
<i>Digitaria adscendens</i>	メヒシバ	4・4	<i>Achyranthes fauriei</i>	ヒナタイノコズチ	+
<i>Echinochloa crus-galli</i>	イヌビエ	1・2	<i>Erigeron canadensis</i>	ヒメムカシヨモギ	+
<i>Setaria faberi</i>	アキノエノコログサ	+			

動態: 踏圧がなくなれば, ホトケノザーコハコベ群落やヨモギクラスの群落へ移行する。また踏圧が持続された場合でもカゼクサーオオバコ群集などの多年生の路上植生へ遷移してゆく。

潜在自然植生: イノデータブノキ群集ほか。

Tab. 14-b 路上植物群落
Trittesellschaften

1: Bryo-Saginetum japonicae	ギンゴケツメクサ群集						
2: Carici incisae-Plantaginetum asiaticae	カワラスゲーオオバコ群集						
3: Eragrostio ferrugineae-Plantaginetum asiaticae	カゼクサーオオバコ群集						
Spalte:	群 落 区 分	1	2	3	4	5	6
Laufende Nr.:	通 し 番 号	1	2	3	4	5	6
Feld-Nr.:	調 査 番 号	Fu	Fu	Fu	Fu	Fu	
Datum d. Aufnahme:	調 査 年 月 日	138	136	58	220	213	8
		'84	'84	'83	'83	'83	'84
		3	3	6	9	9	4
		12	12	2	2	2	20
Größe d. Probestfläche (m×m):	調 査 面 積	1×1	1×1	1×5	1×1	2×2	0.5×1
Höhe ü. Meer (m):	海 抜 高	8	8	930	1020	750	8
Neigung (°):	傾 斜	L	L	L	L	L	L
Höhe d. Krautschicht (cm):	草本層の高さ	1	1	10	10	25	5
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層の植被率	10	30	50	40	40	70
Deckung d. Moosschicht (%):	コケ層の植被率	60	90	-	-	-	-
Artenzahl:	出 現 種 数	5	7	3	6	12	9
Kennarten d. Ass.:	群 集 標 徴 種						
Bryum argenteum	ギンゴケ	4・4	5・5	・	・	・	・
Sagina japonica	ツメクサ	1・2	2・3	・	・	・	+
Carex incisa	カワラスゲ	・	・	3・3	2・2	3・3	・
Eragrostis ferruginea	カゼクサ	・	・	・	・	・	3・3
Kenn- u. Trennarten d. höheren Einheiten:	上級単位の標徴種区分種						
Plantago asiatica	オオバコ	・	・	3・3	3・3	3・3	3・4
Poa annua	スズメノカタビラ	+	1・2	・	・	・	+
Hydrocotyle maritima	ノチドメ	・	・	・	+	+	1・2
Begleiter:	随 伴 種						
Cerastium glomeratum	オランダミミナグサ	+	+	・	・	・	+
Erigeron philadelphicus	ハルジョオン	+	+	・	・	・	・
Ranunculus cantoniensis	ケキツネノボタン	・	・	・	1・2	+	・

出現1回の種 Außerdem je einmal in Lfd. Nr. 2: *Erigeron annuus* ヒメジョオン K-+, *Gnaphalium purpureum* チチグサモドキ K-+, in 3: *Juncus tenuis* クサイ 3•3, in 4: *Carex jacens* ハガクレスゲ 2•3, *Potentilla yokusaiana* ツルキンバイ 1•2, in 5: *Microstegium japonicum* ササガヤ 1•2, *Microstegium vimineum* var. *polystachyum* アンボソ +•2, *Oplismenus undulatifolius* var. *japonicus* コチヂミザサ +, *Kyllinga gracillima* ヒメクダ +, *Selaginella remotifolia* var. *japonica* クラマゴケ +, *Lysimachia japonica* f. *subsessilis* コナスビ +, *Youngia japonica* オニタラビコ +, in 6: *Vicia angustifolia* ヤハズエンドウ +, *Veronica persica* オオイヌノフグリ +, *Trifolium repens* シロツメクサ +.

Fundorte; 調査地: Lfd. Nr. 1, 2: Nishiki-cho 錦町; 3, 5: Rindo Sohina-sen, 林道曾比奈線 4: Obuchi-rindo 大淵林道, 6: Kawajiri 川尻.

総和群集：ウリカワーコナギ総和群集，ヤブコウジースダジイ総和群集。

分布：岩本。ヤブツバキクラス域の人里に普通。

20) カワラスゲーオオバコ群集

***Carici incisae-Plantaginetum asiaticae* Tx. 1977 (Tab. 14-b)**

形態：オオバコ，カワラスゲ，クサイなどの優占する多年生路上植物群落。カワラスゲを標徴種としてまとめられる。優占種のほかノチドメ，ケキツネノボタンなどの多年生草本植物が混生し植生高10～25cmの植分を形成している。出現種数は3～12種，平均7種である。

生態：排水不良な陰湿な路上に生育する。降雨時には冠水する。

動態：人や自動車の踏みつけが停止されればヤブマオーツルマオ群落のような半陰地生のヨモギクラス植生へ遷移する。

分布：林道曾比奈線，大淵林道。本州以北のヤブツバキクラス域からブナクラス域。



Fig. 18 踏み跡に発達するカワラスゲーオオバコ群集
(富士市大淵林道，海拔1,030m)。

Als Trittgeseellschaft wachsendes *Carici incisae-Plantaginetum asiaticae* auf dem Forstweg Obuchi (1,030m ü. NN, Stadt Fuji).

21) カゼクサーオオバコ群集

Eragrostio ferrugineae-Plantaginetum asiaticae Tx. 1977

(Tab. 14-b)

形態：カゼクサを標徴種とする多年生路上植物群落。植生高は4月の植生調査資料で5cmであるが夏～秋には20～30cmに達する。植分にはカゼクサのほかオオバコ，ノチドメ，スズメノカタビラなどが混生している。

生態：やや乾性で日照のよい路上に生育する。植生調査された植分は水田内の農道上に発達していた。

動態：踏圧がなくなればチカラシバーヨモギ群団，ススキクラスなどの高茎の多年生草原へ遷移してゆく。

分布：川尻。本州以南のヤブツバキクラス域に多い。

22) シバ群落

Zoysia japonica-Gesellschaft (Tab. 15)

形態：シバの優占する低茎の多年生草本植物群落。シバ，ノチドメ，ヌカボを群落区分種および



Fig. 19 愛鷹山地の稜線部防火帯に生育したシバ群落
(袴腰岳第一展望台 930m)。

Im Feuerschutzgürtel auf dem Rücken des Bergs Ashitaka wachsende *Zoysia japonica*-Gesellschaft (Erster Aussichtspunkt 930m ü. NN).

Tab. 15 シ バ 群 落
Zoysia japonica-Gesellschaft

Laufende Nr.:	通 し 番 号	1	2
Feld-Nr.:	調 査 番 号	Fu	WE
		16	2
Datum d. Aufn. (1983):	調 査 月 日	4	8
		9	10
Höhe ü. Meer (m):	海 抜 高	130	930
Neigung (°):	傾 斜	L	L
Größe d. Probefläche (m²):	調 査 面 積	10	6
Höhe d. Vegetation (cm):	植 生 高	4	20
Deckung d. Vegetation (%):	植 被 率	80	80
Artenzahl:	出 現 種 数	8	19
<u>Trennarten d. Gesellschaft:</u>	群 落 区 分 種		
<i>Zoysia japonica</i>	シバ	5・5	5・4
<i>Hydrocotyle maritima</i>	ノチドメ	2・3	1・2
<i>Agrostis clavata</i> var. <i>nukabo</i>	スカボ	+	1・2
<u>Begleiter:</u>	随 伴 種		
<i>Plantago asiatica</i>	オオバコ	2・3	＋・2

出現1回の種 Außerdem je einmal in Lfd. Nr. 1: *Poa annua* スズメノカタビラ 1・2, *Veronica arvensis* タチイヌノフグリ 十・2, *Luzula capitata* スズメノヤリ 十, *Poa pratensis* ナガハグサ 十, in 2: *Haloragis micrantha* アリノトウグサ 1・2, *Potentilla freyniana* ミツバツチグリ 十・2, *Paspalum thunbergii* スズノヒエ 十, *Allium thunbergii* ヤマラッキョウ 十, *Carex nervata* シバスケ 1・2, *Lysimachia japonica* f. *subsessilis* コナスビ 十・2, *Lespedeza cuneata* var. *serpens* ハイメドハギ 十・2, *Lespedeza pilosa* ネコハギ 十・2, *Liriope minor* ヒメヤブラン 十・2, *Carpesium glossophyllum* サジガソクビソウ 十, *Ixeris dentata* ニガナ 十, *Agrimonia japonica* キンミズヒキ 十, *Viola verecunda* ツボスミレ 十, *Viola* sp. スミレ属の一種 十, *Aeginetia indica* var. *gracilis* ナンバンギセル 十.

Lage d. Aufn.: 調査地: Lfd. Nr. 1: Yusawadaira 湯沢平, 2: Hakamagoshi-dake 袴腰岳.

上級単位の標徴種, 区分種としてまとめられる。植生高は4および20cmで群落区分種のほかオオバコ, スズメノカタビラ, アリノトウグサなどが混生している。出現種数は8種および19種であった。

生態: 農道や歩道上の踏みつけの弱い立地に生育するほか, 芝生として公園, 人家などに植栽される。自然生の生育地は河川氾濫原中の乾性地などにみられる。

動態: 踏みつけや芝生としての管理によって持続している。それら人為的影響が停止されるとススキ草原などに遷移する。

分布: 湯沢平, 袴腰岳, そのほかの市内の公園。日本全国。

8 河辺・水田畦地多年生草本植物群落

Auenwiesen und Wegrund-Unkrautgesellschaften der Reisfelder

富士市の低地には水田地帯が広がっている。この水田の畦や、用水路、河辺に沿った泥土上にはカモジグサやギンギン、ナガバギンギンなどで特徴づけられる多年生草本植物を主体とした群落が見られる。この植生はカモジグサーギンギン群団にまとめられている。

カモジグサーギンギン群団は隣接する水域の、夏冬の水位変動を受ける湿潤な泥土上に生育地としている。富士市からは水田の畦に生育するミゾカクシーオオジシバリ群集、主に河辺にみられるナガバギンギンギンギン群集の2群集がまとめられた。

23) ミゾカクシーオオジシバリ群集

Lobelio-Ixeridetum japonicae Miyawaki et Okuda 1972

(Tab. 16)

形態：オオジシバリ、オヘビイチゴ、ムラサキサギゴケなどを優占種とする越年・多年生草本植物群落。オオジシバリ、ノチドメ、オヘビイチゴ、ムラサキサギゴケ、ハハコグサ、ゲンゲ、オオバコを群集標徴種および区分種としてまとめられる。植分は10～20cmの高さで植被率は60～70%となる。標徴種、区分種のほかコモチマンネングサ、ノミノフスマなどの越年生草本植物、ヨモギ、セリ、スイバなどの多年生草本植物が混生している。出現種数は16～20種、平均18種である。

生態：水田の畦に生育する。植分は年1回程度草刈りや泥土の塗りかえを受ける。土壌は泥質で湿潤である。群集構成種の多くは春に最盛期をむかえる。

動態：人為的管理が停止されれば多年生草本植物が繁茂し、ヨモギクラスの植生へ移行する。

潜在自然植生：タチヤナギ群集。

総和群集：ウリカワーコナギ総和群集。

分布：川尻、弥生そのほかの水田地帯に普通。全国の水田地。

24) ナガバギンギンギンギン群集

Rumicetum crispo-japonici Miyawaki et Okuda 1972 (Tab. 16)

形態：オニウシノケグサ、カモジグサなどを優占種とする多年生草本植物群落。ナガバギンギン、コハコベ、ウシハコベなどを標徴種、区分種としてまとめられる。植生高は50～60cm、植被率は80～100%に達する。群集構成種は多年生草本植物ではナガバギンギン、ギンギン、エゾノギンギン、カモジグサ、ヨモギ、イタドリなど、1・越年生草本植物ではコハコベ、ウシハコベ、ノゲシ、ノミノフスマ、ヤエムグラ、タチイヌノフグリ、ホトケノザなどである。出現種数は19～32種、平均26種である。



Fig. 20 富養な流水辺に生育するカモジグサーギンギン群団
(富士市吉原宝町, 海拔2 m)。

Am eutrophierten Ufer fließendes Gewässer wächst das *Agropyron japonicum* (Yoshiwara, Takaramachi, Stadt Fuji 2 m ü. NN).

生態：河川下流部の流水辺に発達する。冬を中心とした渇水期と夏を中心とした増水期の水位変動を受ける。生育地は富養，湿潤な泥土上である。直接流水に，あるいはクサヨシ植分をはさんで流水に接している。

動態：増水により植生が失なわれた場合にはタウコギクラスにまとめられる1・越年生草本植物群落が先駆相として生育する。また表土が失なわれ，より湿潤な立地となった場合にはセリークサヨシ群集などのヨシクラスの植生に置き換わる。

潜在自然植生：ほぼ現存植生と一致する。

総和群集：ウリカワーコナギ総和群集。

分布：吉原宝町，弥生（潤井川）。富士川にも一部みられる。

9 伐跡雑草群落 Schlaggesellschaft

森林植生が伐採された跡地には，それまで林床に蓄積されていた栄養塩類に富む土壌を反映して，主に風散布による好窒素性1年生草本植物がいち早く定着し，群落を形成する。ヤブツバキ

クラス域では、亜熱帯、熱帯にまで分布の及ぶベニバナボロギク、ダンドボロギクが優占植分を形成する。

25) ベニバナボロギク—ダンドボロギク群集

Crassocephalo crepidioidis-*Erechtitum hieracifoliae*

Miyawaki 1972 (Tab. 17)

形態：ベニバナボロギク、ダンドボロギクを標徴種とするベニバナボロギク—ダンドボロギク群集にまとめられる1年生草本植物群落。植生調査された植分は高さが60cmで、90%の植被率で占められている。優占種には高茎なダンドボロギク、ベニバナボロギク、オオアレチノギク、低茎のハシカグサ、イヌコウジュがみられる。風散布を行なう主な植物には標徴種のほかに、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、イワニガナ、ノゲシ、アキノノゲシ、ヒヨドリバナ、オトコエシなどキク科植物が多い。出現種数は38種を数える。

生態：ヤブツバキクラス域の温暖な地域に多く、森林性土壌の良く形成された伐採跡地に生育する。立地は栄養塩類に富むこともあって、畑地などに生育するコミカンソウ、カヤツリグサ、メヒシバなど短期1年生雑草も出現している。



Fig. 21 スギ、ヒノキの伐採跡地に繁茂するベニバナボロギク—
ダンドボロギク群集（富士市大淵、海拔410m）。

Das *Crassocephalo crepidioidis*-*Erechtitum hieracifoliae*
als Schlaggesellschaft (Ohbuchi, 410m ü. NN).

Tab. 17 ペニバナボロギク—ダンドボロギク群集
Crassocephalo crepidioidis-*Erechtitum hieracifoliae*

Feld-Nr. 調査番号: Fu-210. Größe d. Probestfläche 調査面積: 20m². Höhe ü. Meer 海拔高: 410m. Exposition u. Neigung 方位および傾斜: L. Höhe d. Vegetation 植生高: 60cm. Deckung d. Vegetation 全植被率: 90%. Artenzahl 出現種数: 38.

Kennarten d. Ass.:	群集標徴種				
<i>Crassocephalum crepidioides</i>	ペニバナボロギク	2・3	<i>Paederia scandens</i> var. <i>mairei</i>	ヘクソカズラ	+
<i>Erechtites hieracifolia</i>	ダンドボロギク	3・4	<i>Osmunda japonica</i>	ゼンマイ	+
Begleiter:	随伴種		<i>Fimbristylis complanata</i> f. <i>exalata</i>	ノテンツキ	+
<i>Polygonum sieboldii</i>	アキノウナギツカミ	+	<i>Agrostis clavata</i> var. <i>nukabo</i>	スカボ	+
<i>Macleaya cordata</i>	タケニグサ	+	<i>Panicum dichotomiflorum</i>	オオクサキビ	+
<i>Commelina communis</i>	ツユクサ	1・2	<i>Salvia japonica</i>	アキノタムラソウ	+
<i>Sonchus oleraceus</i>	ノゲン	+	<i>Dioscorea japonica</i>	ヤマノイモ	+
<i>Rubus microphyllus</i>	ニガイチゴ	+	<i>Fagara mantchurica</i>	イヌザンショウ	+
<i>Polygonum viscoferum</i>	ネバリタデ	十・2	<i>Digitaria adscendens</i>	メヒシバ	+
<i>Erigeron canadensis</i>	ヒメムカシヨモギ	十・2	<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガンショ	+
<i>Erigeron sumatrensis</i>	オオアレチノギク	2・3	<i>Fagopyrum esculentum</i>	ソバ	+
<i>Hedyotis lindleyana</i> var. <i>hirsuta</i>	ハシカグサ	3・3	<i>Cassia nomame</i>	カワラケツメイ	+
<i>Phyllanthus urinaria</i>	コミカンソウ	十・2	<i>Eupatorium variabile</i>	ヤマヒヨドリ	+
<i>Ixeris stolonifera</i>	イワニガナ	1・2	<i>Artemisia princeps</i>	ヨモギ	+
<i>Cyperus microiria</i>	カヤツリグサ	十・2	<i>Patrinia villosa</i>	オトコエシ	十・2
<i>Eupatorium chinense</i> var. <i>simplicifolium</i>	ヒヨドリバナ	+	<i>Lysimachia japonica</i> f. <i>subsessilis</i>	コナスビ	十・2
<i>Corchoropsis tomentosa</i>	カラスノゴマ	+	<i>Ajuga decumbens</i>	キラソウ	+
<i>Mosla punctulata</i>	イヌコウジュ	1・2	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	コチヂミザサ	+
<i>Thelypteris palustris</i>	ヒメシダ	+	<i>Lactuca indica</i>	アキノノゲン	+
			<i>Ainsliaea apiculata</i>	キッコウハグマ	+

Lage d. Aufn. 調査地: Ohbuchi, Stadt Fuji 富士市大淵.

Datum d. Aufn. 調査年月日: 2. Sep. 1983.

動態：森林の伐採跡地に最初に侵入する1年生草本植物群落で、出現しても1～2年で消えてしまう。群落の種子散布の多くは風散布で、離れた地域まで良く拡散する。群落はあとに侵入してくるヨモギクラス、ススキクラス、ノイバラクラスの植生との競合に負け数年で消滅する。

潜在自然植生：ヤブツバキクラス。

総和群集：シキミーモミ総和群集、ヤブコウジースダジイ総和群集。

10 畑地雑草群落 Acker-Unkrautgesellschaft

初春に他の植物にさがけて開花、結実する畑地雑草は欧米の温帯地方より帰化した短期1年生雑草が多く、富士市でも日本各地に普通なホトケノザーコハコベ群落が見られる。

26) ホトケノザーコハコベ群落

Lamium amplexicaule-Stellaria media-Gesellschaft (Tab. 18)

形態：オランダミミナグサ、コハコベ、ホトケノザ、ナズナ、オオイヌノフグリ、ノボロギクなどで区分される春季1年生雑草群落。植生高は10～30cmで40～90%の植被率を占め、コハコベ、ヒメオドリコソウなどが優占している。

生態：除草、施肥など集約的な管理下におかれる畑地に生育するホトケノザーコハコベ群落は早春の耕起まえに発芽から結実まで生活環を完了させる好窒素性草本植物群落である。

動態：ホトケノザーコハコベ群落の立地は放棄されることにより、高茎なヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落、セイタカアワダチソウ群落、アキノノゲシーカナムグラ群落などヨモギクラスの植生へ遷移する。また、ホトケノザーコハコベ群落は、同じ立地に夏季に出現するカラスビシャクーニシキソウ群集と季節的にすみわけている。

潜在自然植生：エノキームクノキ群集、イノデータブノキ群集、ヤブコウジースダジイ群集、シキミーモミ群集。

総和群集：ウリカワーコナギ総和群集、ヤブコウジースダジイ総和群集など田園景觀域に多い雑草群落である。

分布：富士市のヤブコウジースダジイ総和群集域の畑地や路傍、ウリカワーコナギ総和群集域のアキ地や庭先に普通にみられる。

上級単位：オオイヌノフグリ、コハコベ、ノボロギク、オランダミミナグサなど北半球に広く分布するコスモポリタン種によってシロザクラスにまとめられる。

11 水田雑草群落 Reisfeld-Unkrautgesellschaften

富士市の沖積低地は広く水田に利用されているが湛水が行なわれない耕起前の水田には、ゲンゲなどに代表される春の水田雑草が生育している。

27) ノミノフスマーケキツネノボタン群集

Stellario-Ranunculetum cantoniensis Miyawaki et Okuda

1972 (Tab. 19)

形態：ノミノフスマ，コオニタビラコ，ケキツネノボタン，ゲンゲなど1年生草本植物によって標徴区分されるノミノフスマーケキツネノボタン群集が4～5月にかけて春の水田に最盛期をむかえる。調査された植分は20～50cmの高さで，70～100%の植被率を占めている。優占種はゲンゲ，スズメノテッポウ，セトガヤで常在度の高い種にはスズメノカタビラ，タネツケバナのほか，ナズナ，キュウリグサ，ハハコグサ，オランダミミナグサなどシロザクラスの種群も多く出現している。ノミノフスマーケキツネノボタン群集はセリ，セトガヤ，タガラシ，カズノコグサで識別されるタガラシ亜群集とアメリカフウロ，オランダミミナグサ，ハハコグサ，キツネアザミで識別されるキツネアザミ亜群集に下位区分されている。

生態：ノミノフスマーケキツネノボタン群集は停滞水をもたない乾田の粘土質土壌を指標する。優占種のゲンゲは水田土壌中の窒素分を増やし，富栄養化させるために，よく播種される。タガラシ亜群集はノミノフスマーケキツネノボタン群集のなかでも低地の湿性立地を指標し，スズメノテッポウータガラシ群集に近い生態的地位を占めている。面積的には広くない。キツネアザミ



Fig. 22 ノミノフスマーケキツネノボタン群集，キツネアザミ

亜群集が春の水田を色どる（富士市弥生，海拔11m）。

Frühlingsaspekt des *Stellario-Ranunculetum cantoniensis*Subass. von *Hemistepta lyrata* (Yayoi, 11m ü. NN).

亜群集は富士市のノミノフスマーケキツネノボタン群集の大部分を占め、岩本山南部の扇状地性低地から、沿海部の砂質性水田土壌を指標している。

動態：水田の集約的管理が放棄されると多年生で高茎な草本植物の侵入が始まり、タガラシ亜群集からはチゴザサーヨシ群落、キツネアザミ亜群集からはオギ群落、セイタカアワダチソウ群落などに遷移していく。ノミノフスマーケキツネノボタン群集の立地は、多くの場合、耕起、湛水されてウリカワーコナギ群集の立地に改変される。

潜在自然植生：キツネアザミ亜群集の立地はムクノキエノキ群集、イノデータブノキ群集を潜在自然植生とし、タガラシ亜群集の立地はジャヤナギアカメヤナギ群集の潜在自然植生に判定された。

総和群集：ウリカワーコナギ総和群集のタチャナギ総和亜群集。

分布：富士市西部の扇状地性沖積低地の水田がキツネアザミ亜群集の分布域に相当し、柚木、味島、森島、宮下、五貫島、宮島、中丸、蓼原などに生育している。タガラシ亜群集は依田橋から東へ富士岡花守町、川尻、江森など三角洲性沖積低地に多く生育している。

28) スズメノテッポウタガラシ群集

***Alopecuro-Ranunculetum scelerati* Miyawaki et Okuda 1972**

(Tab. 19)

形態：カズノコグサ、ミズハコベ、キンボウゲ科のタガラシで標徴、区分される1年生草本植物群落。植生高は50～60cmで、30～100%の植被率を占めている。優占種にはタガラシ、カズノコグサ、スズメノテッポウ、タネツケバナなどがみられる。

スズメノテッポウタガラシ群集はホウキギク、ヒメガマで識別されるホウキギク亜群集とタネツケバナ、イヌガラシ、ミゾソバ、ミズハコベで識別されるミズハコベ亜群集に下位区分されている。

生態：水田では停滞水が1～5cmある富養化した立地に生育する。土壌はグライ化しており、硫化水素の匂いを発する植分もある。小河川沿いでは流速の遅い泥土の堆積した流水辺に多い。ホウキギク亜群集は放棄されて1～2年経た水田を指標し、今井周辺の工場誘致用に放棄された水田で植生調査資料が得られている。ミズハコベ亜群集は耕作の行なわれている水田の春季相である。

動態：水田放棄されることによってヒメガマ、コガマ、ヨシなど高茎な多年生植物が侵入し、ヨシクラスへ遷移する。

潜在自然植生：タチャナギ群集。

総和群集：ウリカワーコナギ総和群集のタチャナギ総和亜群集。

上級単位：スズメノテッポウタガラシ群集は、スズメノテッポウ、カズノコグサ、イヌガラシ、ミゾソバなどの出現によってスズメノテッポウ群団、タウコギオーダー、タウコギクラスにまと

められている。

分布：富士市東部の三角州性沖積低地の湿田地帯に分布している。

12 湿性草原（浮島ヶ原） *Flachmoore* (*Ukishimagahara*)

浮島ヶ原は、田子ノ浦砂丘の後背湿地であった沼が、長い間に陸地化し、現在のチゴザサーアゼスゲ群集、ミズユキノシターオニナルコスゲ群落、カサスゲ群集、ウキヤガラマコモ群集などが発達している。一部水田耕作地に利用し、畔にヤナギを植栽した地域ではヤナギが、樹高8m前後に生長し高木林を形成している。湿原中にはヤナギの芽生えや、低木林も一部みられる。

浮島ヶ原にはヒキノカサ、ノウルシ、ミズニラ、マルバオモダカ、ミズバショウなど、珍しい植物が生育していたが、ミズバショウなどは全く消失している。ノウルシは春季刈りとられたヨシ草原の間に黄色い花を表わし叢状に生育しているのが点在してみられる。

29) チゴザサーアゼスゲ群集

Isachno-Caricetum thunbergii Miyawaki et Okuda 1972 (Tab. 20)

形態：ヨシが優占した浮島ヶ原の湿原植生は大部分が広い面積でチゴザサーアゼスゲ群集にまとめられる。アゼスゲを標徴種としてヌマトラノオ、オオアレチノギクを他の湿原群落に対する区分種とされる。その他ハンゲショウ、ヨシ、セリ、シロバナサクラタデ、ホソバノヨツバムグラが生育している。草丈1.8～2mの植分である。

生態：増水時に水が流れる湿生地に生育している。常に水によってうるおされているが、他の群落より乾いている。出現種数10～15種と多い。

上級単位：ホソバノヨツバムグラ、ヌマトラノオ、ヨシ、アゼスゲを標徴種として、ホソバノヨツバムグラ、大形スゲ群団、大形スゲオーダー、ヨシクラスにまとめられる。

30) ミズユキノシターオニナルコスゲ群落

Ludwigia ovalis-Carex vesicaria-Gesellschaft (Tab. 20)

形態：ヨシが散在する草丈50～60cmの湿性草原。ミズユキノシタ、オニナルコスゲで区分される。時にハンゲショウが4と優占し、オニナルコスゲと混生する。チゴザサ、ヨシ、セリ、シロバナサクラタデ、ホソバノヨツバムグラを有する。

生態：オニナルコスゲは冠水に耐えられる大形スゲである。したがって降水時や、増水時には水位が高いが、一般には水位0であっても生育可能である。チゴザサーアゼスゲ群集の立地に類似するが、ミズユキノシターオニナルコスゲ群落は、より富養な立地の植物群落である。

上級単位：ホソバノヨツバムグラ—大形スゲ群団、大形スゲオーダー、ヨシクラスにまとめられる。

31) カサスゲ群集

***Caricetum dispalatae* Miyawaki et Okuda 1972 (Tab. 20)**

形態：草丈0.7～1.8mで、ヨシが散在したり、あるいは優占する場合がある。いずれもカサスゲが0.7m前後で被度80～90%を占めて生育している。その他ホソバノヨツバムグラ、シロバナサクラタデ、チゴザサが生育している。

生態：カサスゲ群集はカサスゲを標徴種として規定されている (Miyawaki et Okuda 1972)。常に流れのある地域か、あるいは他の群落よりも早く水中に根が没する立地に生育する。貧養立地の湿原植生である。出現種数6～11種と少ない。

上級単位：ホソバノヨツバムグラ－大形スゲ群団, 大形スゲオーダー, ヨシクラスにまとめられる。

32) ウキヤガラ－マコモ群集

***Scirpo fluviatilis-Zizanietum latifoliae* Miyawaki et Okuda 1972 (Tab. 20)**

形態：草丈1.5～1.8mと高く、ヨシは散在しているウキヤガラが優占する草原。シロバナサクラタデ、カワヤナギ、ホソバノヨツバムグラが生育している。

生態：ウキヤガラ－マコモ群集は、一般に池沼に生育する。水深により、深いところではマコモ1種の構成種になり、浅いところでは次第にマコモを欠いてしまう。浮島ヶ原では陸化に伴いマコモが消失してウキヤガラが独自の植分を形成しているところであると考えられる。

上級単位：ヨシ群団, ヨシオーダー, ヨシクラスにまとめられる。

13 砂丘植生 **Küstendünen-Vegetation**

富士市の海岸線はほとんど人工的な防潮堤によって占められ、海岸砂丘および海岸砂丘生の植生はきわめて限られた面積しかみられない。今日の調査では鮫島前田新田のコンクリート堤外側に生育した砂丘植生が植生調査されている。鮫島の砂丘植生は4群落1群集にまとめられた。

33) コウボウムギ群落

***Carex kobomugi*-Gesellschaft (Tab. 21)**

形態：優占するコウボウムギを区分種とする多年生草本植物群落。植生高は5～15cmとなる。純群落である典型下位群落のほか、ハマヒルガオが混生するハマヒルガオ下位群落、コウボウシバの混生するコウボウシバ下位群落がみられる。富士市内で植生調査された植分は出現種数1～2種である。

生態：砂丘植生の最前部に生育する。強い日照と風衝のため表砂はもっとも乾燥、移動しやすく、植生発達の限界部に立地している。汀線に近い前縁部には典型下位群落が、より内陸側ではハマヒルガオ下位群落が生育し、また内陸側のやや凹状地にはコウボウシバ下位群落が発達している。

Tab. 21 砂 丘 植 生

Küstendünen-Vegetation

- 1: *Carex kobomugi*-Gesellschaft コウボウムギ群落
 a: Typische Untereinheit 典型下位群落
 b: Untereinheit von *Calystegia soldanella* ハマヒルガオ下位群落
 c: Untereinheit von *Carex pumila* コウボウシバ下位群落
 2: *Ischaemum antheophoroides*-Gesellschaft ケカモノハン群落
 3: *Imperata cylindrica*-*Vitacetum rotundifoliae* チガヤーハマゴウ群集
 4: *Cynodon dactylon*-Gesellschaft ギョウギシバ群落
 5: *Lathyrus japonicus*-Gesellschaft ハマエンドウ群落

Spalte:	群 落 区 分		1 2 3 4 5									
			a			b			c			
Laufende Nr.:	通 し 番 号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 11
Feld-Nr. (Fu-):	調 査 番 号		7	6	8	14	11	5	13	4	13	15 9
Höhe ü. Meer (m):	海 抜 高		1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
Neigung:	傾 斜		L	L	L	L	L	L	L	L	L	L
Größe d. Probestfläche (m²):	調 査 面 積		1	4	1	20	3	4	6	4	4	1 4
Höhe d. Strauchschicht (cm):	低木層の高さ		—	—	—	—	—	—	—	—	50	—
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層の植被率		—	—	—	—	—	—	—	—	70	—
Höhe d. Krautschicht (cm):	草本層の高さ		8	15	10	5	10	12	5	60	10	3 15
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層の植被率		40	50	60	40	70	65	30	80	20	30 90
Artenzahl:	出 現 種 数		1	1	2	2	2	2	2	4	4	1 5
Trennart d. Gesellschaft:												
<i>Carex kobomugi</i>	コウボウムギ	K	3•3 4•4 4•4 3•3 3•3 3•3 3•2							•	2•3	• 1•2
Trennarten d. Untereinheiten:												
<i>Calystegia soldanella</i>	ハマヒルガオ	K	•	•	1•2 2•2 3•3 3•4				•	2•3	1•2	• •
<i>Carex pumila</i>	コウボウシバ	K	•	•	•	•	•	•	1•2	•	•	• •
Trennart d. Gesellschaft:												
<i>Ischaemum antheophoroides</i>	ケカモノハン	K	•	•	•	•	•	•	•	5•5	•	• •
Kennart d. Ass:												
<i>Vitex rotundifolia</i>	ハマゴウ	S	•	•	•	•	•	•	•	•	3•3	• •
Trennarten d. Gesellschaften:												
<i>Cynodon dactylon</i>	ギョウギシバ	K	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3•3 •
<i>Lathyrus japonicus</i>	ハマエンドウ	K	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5•4
<i>Cerastium glomeratum</i>	オランダミミナグサ	K	•	•	•	•	•	•	•	•	•	+
Begleiter:												
<i>Oenothera laciniata</i>	コマツヨイグサ	K	•	•	•	•	•	•	•	+	+	2 • 1•1
<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>	チガヤ	K	•	•	•	•	•	•	•	+	+	2 • +•2

Lage d. Aufn. 調査地: Samejima 富土市鮫島前田新田.

Datum d. Aufn. 調査年月日: 9. Apr. 1983.

動態: 人為的影響一踏みつけや掘削などにより裸地化すると植生の復元はむずかしい。

潜在自然植生: ほぼ現存植生と同一のハマボウフウクラスの植生。

総和群集: ハマグルマーコウボウムギ総和群集。

分布：鯨島前田新田。日本全国の海岸砂丘地。

上級単位：コウボウムギの優占植分は全国を通じて種類組成の差が少なく宮脇・村上・鈴木伸・鈴木邦・佐々木（1981）が報告したコウボウムギ群落にまとめられる。

34) ケカモノハシ群落

Ischaemum antheboroides-Gesellschaft (Tab. 21)

形態：ケカモノハシ（イネ科）の優占する多年生草本植物群落。ケカモノハシを区分種としてまとめられる。植生高は60cmで、コウボウムギ群落と比較して大形となる。ハマヒルガオ、コマツヨイグサ、チガヤが混生している。

生態：コウボウムギ群落の内陸側でやや砂の移動の弱い地域に生育している。

動態：コウボウムギ群落同様、踏みつけなどの人為的攪乱に弱く、裸地またはギョウギンバ群落などに退行する。

潜在自然植生：現存植生とはほぼ対応する。

総和群集：ハマグルマーコウボウムギ総和群集。

分布：鯨島前田新田。ケカモノハシの分布にともなってほぼ全国の海岸砂丘地。

35) チガヤーハマゴウ群集

Imperato cylindrica-*Viticetum rotundifoliae* Ohba, Miyawaki et Tx. (Tab. 21)

形態：ハマゴウの優占する夏緑低木林。ハマゴウを標徴種としてまとめられる。林分は高さ50cmでハマゴウのほかハマヒルガオ、コウボウムギなどが混生している。

生態：コウボウムギ群落などの砂丘草原の内陸側に配分している。一般的にはより内陸地に生育するクロマツ林やマサキートベラ群集などの森林植生の林縁群落として発達する。鯨島の林分は人工堤防に隣接して生育している。

動態：踏圧が加わるとコウボウムギ群落、チガヤ植分などに退行する。

潜在自然植生：現存植生にはほぼ対応している。

総和群集：ハマグルマーコウボウムギ総和群集。

分布：鯨島前田新田。本州以南の海岸部。

36) ギョウギンバ群落

Cynodon dactylon-Gesellschaft (Tab. 21)

形態：ギョウギンバの優占する多年生草本植物群落。ギョウギンバを区分種としてまとめられる。

植分は高さ3cmのギョウギンバ純群落である。

生態：砂丘地内の踏みつけ地にみられる。鯨島の植分は港公園内に生育している。

動態：砂丘自然植生に対して弱い踏圧が加えられることにより植分が生育，存続する。踏圧が強くなれば，オヒシバーアキメヒシバ群集などに，弱まればチガヤーハマゴウ群集，ケカモノハン群落などに移行してゆく。

潜在自然植生：主にハマボウフウクラス，ハマゴウクラス。

分布：鮫島前田新田。全国の路傍，砂丘など。低地に多い。

37) ハマエンドウ群落

Lathyrus japonicus-Gesellschaft (Tab. 21)

形態：ハマエンドウの優占する多年生草本植物群落。ハマエンドウ，オランダミミナグサを区分種としてまとめられる。植分は15cmの高さで，区分種のはかコマツヨイグサ，チガヤなどが混生している。

生態：砂丘草原内陸側の有機物が投棄，集積された富養地に生育する。主に人為的攪乱地にみられる。

動態：砂の移動や潮風が弱まればヨモギクラスの植生に，また有機物の供給がなくなればケカモノハン群落やコウボウシバ植分などに移行する。

潜在自然植生：ハマボウフウクラス。

総和群集：ハマグルマーコウボウムギ総和群集。

分布：鮫島前田新田。日本全国の海岸地。

上級単位：ハマエンドウの群落はハマボウフウクラスの植生と生育地，種類組成に差がみられる。むしろハマダイコン群集 *Raphanetum raphanistroidis* Murakami in Miyawaki 1982 などに近似している。このため上級単位の扱いは未決定とされた。

b. ブナクラス域（山地帯）

Fagetea crenatae-Gebiet (Montane Stufe)

富士市の海拔650～850m以上の地域はブナ属：*Fagus*，コナラ属：*Quercus*，カエデ属：*Acer*，シデ属：*Carpinus* など夏緑広葉樹類からなるブナクラスの植生が生育，分布している。また，風衝，傾斜など土地的な条件が厳しく制約される立地あるいは人為的に破壊された跡地では夏緑高木林は生育できず，ツツジ科，タニウツギ属を主とした低木林，あるいは小形多年生草本植物，シダ類，コケ類からなる岩壁植生，大形草本植物からなる路傍植生が生育，分布している。

14 夏緑広葉樹林 *Sommergrüne Laubwälder*

富士山山麓では海拔約 650m でヤブツバキクラスのシキミーモミ群集からヤブムラサキーモミ群落，さらに 850m を越えた高海拔地でブナの優占するシコクスミレーブナ群落に，さらに，海拔 1,400m をすぎるとカニコウモリーウラジロモミ群集に移行している。また湿性立地ではケヤキ，

カエデ類、サワグルミの優占するイワボタンーシオジ群集、新期溶岩類の露出するせき悪な立地ではクリーコナラ群集、クリーミズナラ群集が生育している。これらブナクラスの植生は海拔約1,800m までみられるが、今日、残されている自然、半自然植生の多くが破壊され、ヒノキ、ウラジロモミなどの植林におきかえられている。

愛鷹山は崩壊性に富んだ急峻な地形が多く、今日まで自然が比較的良く残されてきている。愛鷹山系ではブナクラスの自然植生が海拔約650m の沢筋から出現し、山頂まで達している。沢筋の低海拔地に生育する夏緑広葉樹林は崩壊性立地の持続群落で、サワダツクマシデ群落、タマアジサイーフサザクラ群集などである。南斜面の安定した立地ではヤブツバキクラスのシキミモミ群集が海拔約850m まで上昇し、直接、ササーブナオーダーのヤマボウシブナ群集に接している。また海拔1,330m を越えると雲霧帯に特徴的なオオモミジガサーブナ群集が稜線沿いに見られる。

38) カニコウモリーウラジロモミ群集

Cacalio-Abietetum homolepidis Miyawaki, Hamada et Sugawara
1967 (Tab. 22)

形態：ウラジロモミ、オオイタヤメイゲツ、ナナカマド、ヒロハツリバナ、トウヒで特徴、区分される常緑針葉樹、夏緑広葉樹混合林の自然植生。

高木第1層は17～25mの高さで、50～80%の植被率を占めている。優占種はウラジロモミ、オオイタヤメイゲツ、ブナで、ウラジロモミは高木層に突出して生育することが多い。高木第2層は7～15mの高さで、5～30%の植被率を占め、高木第1層との共通種のほかにヒメシャラ、ヒロハツリバナなどが混生する。低木層は2～5mの高さで、5～90%の植被率は幅があるが、林床に優占するスズダケが低木層か草本層を占めるかによって異ってくる。優占種はスズダケで常在度の高い種にはイワガラミ、ミヤマイボタ、ツタウルシ、ミヤマガマズミ、アオダモなどがある。草本層は0.2～2mの高さで、1～100%の植被率を占めている。優占種はスズダケでその林床下は陰地となるため、出現する種は少なく植被もまばらである。常在度の高い種にはイワガラミ、アオダモ、ミヤマイボタ、ムカゴイラクサ、モミジガサなどがあり、稚樹が多い。

カニコウモリーウラジロモミ群集の植生調査資料には原調査資料とウラジロモミダケカンバ群落（宮脇・浜田・菅原1965）のなかの富士市に分布する植分が使用されている。宮脇ら（1965）はウラジロモミダケカンバ群落のほかに富士宮市よりカニコウモリーウラジロモミ群集を報告しているが、組成、生態的条件が近く、同じ群集にまとめられるものと考えられる。

生態：カニコウモリーウラジロモミ群集は富士山の海拔高1,400～1,880mブナクラス域上限に生育している。この地域は雲霧が発生しやすく、しかも低温なため土壌の栄養塩類の溶脱、酸性化が進みやすい。土壌母材はスコリア質の火山灰、溶岩流からなり透水性が良い。

動態：カニコウモリーウラジロモミ群集は海拔約1,400～1,800mで気候的な極盛相を形成してい

る。伐採されるとチダケサシーススキ群落の多年生草原に置き換えられたり、多潤地ではグンナイフウローヤハズヒゴタイ群落が生育する。多年生草原からの進行遷移ではフジサンニシキウツギーマメザクラ群集、キクバドコロヤマブドウ群集、さらにシラカバ、ダケカンバを混えるクリーミズナラ群集に遷移する。

総和群集：シコクスミレーブナ総和群落。

上級単位：カニコウモリーウラジロモミ群集はオオカメノキ、スズタケ、ヒメシャラ、ブナ、アオダモなどの種群によってスズタケブナ群団、ササブナオーダー、ブナクラスにまとめられる。紀伊半島の大台、大峰山系に分布するウラジロモミブナ群集と組成的、生態的類縁関係がみられる。

分布：表富士周遊道路上から海拔 1,800m 付近まで分布している。

39) シコクスミレーブナ群落

Viola shikokiana-Fagus crenata-Gesellschaft (Tab. 23)

形態：ブナを優占種とする夏緑高木林。サワシバ、ヒナウチワカエデ、カジカエデ、ミツバウツギ、シラキ、シコクスミレ、コミヤマカタバミを区分種としてまとめられる。林分は高さ22ないし26mに達する。植被率90%の高木層には優占種であるブナのほかオオモミジ、ヒメシャラ、キハダ、ミズナラなどが混生している。亜高木層ではヤマボウシ、サワシバ、シラキ、オニイタヤ、エンコウカエデなどがみられる。低木層にはスズタケまたはコクサギが優占し、ミヤマイボタ、アブラチャン、シラキ、ミツバウツギ、ゴマキ、ミヤマガマズミなどが混生している。草本層はシコクスミレ、コミヤマカタバミ、イワガラミ、ヤマカモジグサなどが生育している。特に調査番号 Fu-217 で示される林分は草本層が豊かである。モミジガサ、アズマシロカネソウ、ハシカグサ、セントウソウ、ムカゴイラクサ、レイジンソウ、ミヤマタニソバなど、草本層のみで50種以上の適湿立地生の植物が生育している。出現種数は30種、78種と林分による差が大きい。

生態：富士山中腹の 990m の林分がまとめられている。土壌は透水性の悪い溶岩流上に火山灰が堆積した状態となっており、適潤～湿潤な立地となっている。調査番号 Fu-217 の林分はゆるやかな斜面上の林分であり、Fu-218 の林分はそれに隣接した広い尾根地の林分である。

動態：伐採を受けるとタラノキークマイチゴ群集をへてフジサンニシキウツギーマメザクラ群集、さらにクリーミズナラ群集などに遷移してゆく。

潜在自然植生：現存植生と一致する。潜在自然植生としては、さらに富士山中腹を広く占めている。

総和群集：シコクスミレーブナ総和群落。

分布：林道曾比奈線（990m）。富士山中腹に広く生育していたものと考えられる。

上級単位：シコクスミレーブナ群落は愛鷹山地を中心に生育するヤマボウシブナ群集、オオモミジガサブナ群集と比較してトウゴクミツバツツジ、コアジサイ、リョウブ、コミネカエデ、チチブドウダン、ナナカマドなどの多数の植物を欠くことによっても区分できる。これらの種類

組成の差は富士山体と愛鷹山の地史的な差、すなわち母岩である溶岩（火成岩）の地上表出年度の差とそれに伴うフロラ発達のちがいによるものと判定される。また宮脇・浜田・菅原(1967)は富士山腹に生育するシコクスミレーブナ群落と同質のブナ林について、オオモミジガサーブナ群集にまとめている。しかし、オオモミジガサーブナ群集は丹沢山塊大山で報告された（宮脇・大場・村瀬1964）雲霧帯の湿性ブナ林であり、種組成、生育立地から、富士山腹のブナ林とは差がみられる。オオモミジガサーブナ群集と同質の種類組成をもつブナ林は愛鷹山地の雲霧帯に生育し同群集にまとめられている（p.87～88）。

40) ヤマボウシーブナ群集

Corno-Fagetum crenatae Miyawaki, Ohba et Murase 1964 (Tab. 23)

形態：ブナ、時にアカシデ、アカガシなどの優占する夏緑高木林。コハウチワカエデ、アセビ、コカンスゲ、アオハダ、コシアブラなどを地域的区分種としてまとめられる。林分は高さ8～24mとなる。植被率20～90%の高木層にはブナ、時にアカシデ、アカガシが優占するほか、ヒメシヤラ、シナノキ、ミズナラ、イトマキイタヤなどが低い優占度で混生する。高さ7～14mの亜高木層はサラサドウダン、タンナサワフタギ、アオダモ、コミネカエデ、アオハダ、コハウチワカエデ、オオモミジなどで構成されている。2～5mの高さの低木層にはトウゴクミツバツツジ、



Fig. 23 ヤマボウシーブナ群集スズタケ亜群集の林内相観（袴腰岳1,230m）。

Unterwuchs des Corno-Fagetum crenatae (Berg Hakamagoshidake
1,230m ü. NN).

コアジサイ、チチブドウダン、カマツカ、ノリウツギ、アセビ、タンナサワフタギ、ツクバネウツギ、コミネカエデなどが高い常在度でみられる。草本層は高さ、植被率ともに林分による差が大きく、スズタケ、コカンスゲ、イヌツゲ、イトスゲ、ツタウルシ、ヘビノネゴザ、イワガラミ、シンガシラ、タテヤマギクなどが生育している。出現種数は31~70種、平均42種である。

ヤマボウシーブナ群集は2亜群集に下位区分される。スズタケ亜群集はミズナラ、イヌツゲ、スズタケ、オオモミジで区分される。林床はスズタケが優占する場合が多い。スズタケ亜群集はさらにイトマキイタヤ、チドリノキ、ジュウモンジシダなどで区分されるイトマキイタヤ変群集と、クマシデ、コハウチワカエデで区分されるクマシデ変群集に下位区分される。スズタケ亜群集に対してナガバノコウヤボウキ、ヒメノガリヤスが生育する林分はヒメノガリヤス亜群集にまとめられる。ヒメノガリヤス亜群集は林冠が疎開した林分が多く、林内のトウゴクミツバツツジの優占度が高い。草本層は比較的未発達である。

生態：ブナクラス域の標高約800~1,330mの中庸立地を広く占めている。生育地はサワダツークマシデ群落やアブラチャンーケヤキ群集に接した溪谷ぞいの湿潤斜面から、アシタカツツジトウゴクミツバツツジ群落に隣接する乾性な風衝尾根部まで、広く山腹斜面を覆っている。今回植生調査された林分は稜線周辺のものが多く林内にはツツジ科植物が顕著である。現在富士市でみられるブナ林中もっとも広く残されており、ブナクラスの中心的な位置を占めている。

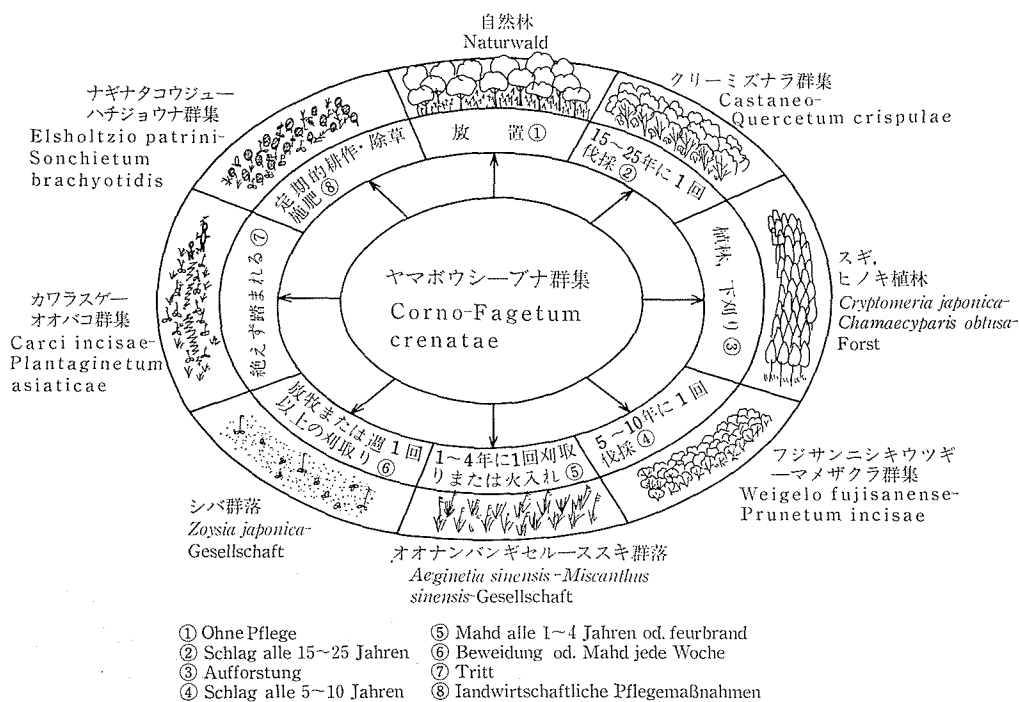


Fig. 24 ヤマボウシーブナ群集の代償植生と人為的影響の関係

Ersatzgesellschaften als Folge unterschiedlicher menschlicher Einwirkungen
im Corno-Fagetum crenatae-Gebiet.

各下位単位は生育立地に差がみられる。スズタケ亜群集には標高790~1,240mの比較的低海拔地の林分がまとめられる。特にイトマキイタヤ変群集にまとめられる2林分は標高900m以下の湿潤な谷部に生育しており、アブラチャン-ケヤキ群集などの溪谷林と種組成が近似してきている。クマシデ変群集は標高980~1,240mに生育しヤマボウシーブナ群集中で中心的な生育立地と種組成を示す。ヒメノガリヤス亜群集は標高1,280~1,330mのヤマボウシーブナ群集中では高海地に生育している。土壌は浅く乾性な立地となっている。

動態：伐採を受けた場合タラノキ-クマイチゴ群集をへてフジサンニシキウツギー-マメザクラ群集，さらにサワダツクマシデ群落（イトマキイタヤ変群集），クリーミズナラ群集（クマシデ変群集），アシタカツツジ-トウゴクミツバツツジ群落（ヒメノガリヤス亜群集）などに遷移する。

分布：愛鷹山地越前岳，袴腰岳，位牌岳など。フォッサ・マグナ地域の丹沢，箱根，天城など。

41) オオモミジガサ-ブナ群集

Miricacalio-Fagetum crenatae Miyawaki, Ohba et Murase 1964

(Tab. 23)



Fig. 25 オオモミジガサ-ブナ群集の林内相観（位牌岳1,340m）。

Unterwuchs des *Miricacalio-Fagetum crenatae* (Berg Ithai-dake 1,340m ü. NN).

形態：ブナの優占する夏緑広葉樹高木林。シモツケソウ，フジテンニンソウ，シロヨメナ，シラネワラビ，アカショウマを標徴種，区分種としてまとめられる。林分は9～23mの高さである。植被率80%の高木層にはブナのほか，アオダモ，ヒコサンヒメシャラなどが生育している。亜高木層は6～13mで，ナナカマド，リョウブ，アオダモ，サラサドウダン，ナナカマドなどで構成されている。低木層は3～6mでタンナサワフタギ，カマツカ，ノリウツギ，コアジサイ，トウゴクミツバツツジ，アブラチャン，リョウブ，ツクバネウツギ，マメザクラなどが高い常在度で見られる。草本層は植被率70～80%と比較的よく発達している。ヒメノガリヤス，イトスゲが優占するほか，シモツケソウ，フジテンニンソウ，タテヤマギク，シロヨメナ，ハリガネワラビ，キンレイカ，ツタウルシ，アカショウマ，タニギキョウなど30種前後の主に多年生草本植物により構成されている。ヤマボウシーブナ群集は低木層の種組成が豊かで草本層が比較的未発達であったのに対し，オオモミジガサーブナ群集では低木層よりも草本層に多くの種が集中している。出現種数は34～42種，平均37種である。

生態：愛鷹山地の標高1,340～1,490mの雲霧帯に生育している。そのため稜線部ではあっても土壌は湿潤である。ヤマボウシーブナ群集とオオモミジガサーブナ群集との境界1,330～1,340mは，隣接する風衝低木林であるアシタカツツジートウゴクミツバツツジ群落のアセビ下位群落とノリウツギ下位群落との境界と一致している。これは同じ雲霧条件による種類組成の変化と判定される。宮脇・大場・村瀬（1964）による丹沢大山のブナ林でもオオモミジガサーブナ群集とヤマボウシーブナ群集は標高約1,400mを境にほぼ垂直的なすみわけをしている事実が示されている。

動態：伐採を受けた場合，アカショウマニシキウツギ群落，アシタカツツジートウゴクミツバツツジ群落ノリウツギ下位群落が成立する。

分布：愛鷹山地越前岳，位牌岳。ヤマボウシーブナ群集と並行的に，丹沢，箱根，天城などのフォッサ・マグナ地域を中心に分布している。

42) イワボタンーシオジ群集

***Chrysosplenio-Fraxinetum spaethianae* Miyawaki, Ohba
et Murase 1964 (Tab. 24)**

形態：ケヤキ，チドリノキ，イトマキイタヤ，セントウソウ，イヌワラビ，ミズヒキ，テバコモミジガサ，タニソバ，タニギキョウで標徴，区分される夏緑広葉樹自然林。高木第1層は12～26mの高さで，70～85%の植被率を占めている。優占種はイトマキイタヤ，ケヤキ，オオモミジで，カエデ類の常在度が高く，イトマキイタヤ，ホソエカエデ，エンコウカエデ，ウラゲエンコウカエデ，オニイタヤ，カジカエデなどが生育している。かつて伐採を受けた12～15mの高さの復元途上の植分ではアカシデ，イヌシデ，サワシバなどシデ属：*Carpinus* が優占しているが，組成的にはイワボタンーシオジ群集にまとめられている。高木第2層は8～15mの高さで，20～40%の植被率を占めている。優占種はチドリノキで常在度の高い種にはカントウマユミ，マメザクラ，

ヤマボウシなどがみられる。低木層は3～5mの高さで、20～50%の植被率を占めている。優占種は復元途上の若齢林でコアカソ、ガクウツギが量的に増加する以外はとくにみられない。常在的な種にはアブラチャン、サワシバ、ミツバウツギ、チドリノキ、ツクバネウツギ、ミヤマイボタなどがある。草本層は0.5～2mの高さで、30～100%の植被率を占めている。植被率の高い植分の優占種はスズタケで、スズタケが密生すると林床の草本植物は貧弱になる。草本層の出現種数は40～60種ときわめて多く、常在度の高い種にはイワガラミ、ヒメウワバミソウ、オオイトスゲ、セントウソウ、シコクスミレ、イヌワラビ、ツルシロカネソウ、ミズヒキ、テバコモシガサ、ハウチャクソウなど主に分布が太平洋側に限られる種が出現している。

イワボタン—シオジ群集はホソエカエデ、クルマバソウ、ヒメウツギ、ガクウツギ、ジュウモンジシダ、タテヤマギクで区分されるホソエカエデ亜群集とミツバウツギ、カジカエデ、ヒメウワバミソウ、ゴマギ、ムカゴイラクサ、シコクスミレ、エンレイソウ、ツルシロカネソウで区分されるカジカエデ亜群集に識別されている。カジカエデ亜群集は奥富・松崎（1974）に記載されたミズナラーゴマギ群落に相当する。

生態：富士山麓と愛鷹山須津川沿い770～1,060mの海拔で植生調査資料が得られているようにイワボタン—シオジ群集はブナクラス域に生育・分布している。生育地は溶岩流上の平坦な地形上や沢に臨んだ崩壊地など湿潤な立地を指標している。ホソエカエデ亜群集は沢部の崩壊地に生育し、母材は移動しやすい5～30cmの火山性角礫と凹凸の著しい溶岩流などからなっており、多孔質で透水性が良い。カジカエデ亜群集は溶岩流の平坦部に生育し、立地は湿潤であるが安定している。母材は溶岩流とその上に火山灰、火山放出物を堆積していることもあり、火山灰土の厚い立地ではスズタケの侵入もみられる。カジカエデ亜群集は尾根状地でシコクスミレーブナ群落、カニコウモリーウラジロモミ群集に隣接することが多い。

動態：イワボタン—シオジ群集の群落環は湿性系列の植物群落より構成されている。主な多年生草本植物群落ではクサコアカソーフジテンニンソウ群落、カワラスゲーオオバコ群集、低木群落ではミツバウツギ、コクサギの多いフジサンニンキウツギ—マメザクラ群集、キクバドコロ—ヤマブドウ群集、タマアジサイ—フサザクラ群集、森林群落ではサワダツ—クマンデ群落、シデ類を多く混生するクリーミズナラ群集などが遷移系列途上に出現する。林道沿いに普通なカワラスゲーオオバコ群集は踏圧下に生育する偏向遷移過程の植生である。

総和群集：シコクスミレーブナ総和群落。

分布：富士山山麓の海拔800～1,700mの林道岩倉線、大淵林道などが通る周辺域にカジカエデ亜群集が、また愛鷹山須津川沿いの海拔700m以上にホソエカエデ亜群集が分布している。

上級単位：サワグルミ群団、シオジ—ハルニレオーダー、ブナクラスにまとめられるが、ブナ、ヒメシャラ、スズタケなどササーブナオーダーの種の出現も多い。

43) サワダツークマンデ群落

Euonymus melananthus-Carpinus japonica-Gesellschaft (Tab. 24)

形態：ヒナウチワカエデ，サワダツ，ミヤマイタチンダ，シンガシラ，モミで区分される夏緑広葉樹林。

高木第1層は10～17mの高さで，80～90%の植被率を占めている。優占種はクマンデで他にもアカシデ，オオモミジ，ホオノキ，エンコウカエデ，モミの常在度が高い。高木第2層は9～11mの高さで，20～30%の植被率を占め，サワシバが優占する。出現種数は10～15種でナナカマド，リュウブ，アオダモ，ヒナウチワカエデなどが生育している。低木層は2.5～4mの高さで30～80%の植被率を占め，25～30種が出現している。常在度の高い種にはアブラチャン，カマツカ，クロモジ，ミヤマイボタ，マメザクラ，タンナサワフタギ，ツノハシバミ，ツリバナ，ウメモドキなどが出現し，スズタケの優占する植分もみられる。草本層は0.3～1.5の高さで，5～80%の植被率を占めている。林床は群生するスゲ優占となりやすく，イトスゲ，オオイトスゲ，ミヤマカンスゲ，コカンスゲ，カンスゲなどが生育している。その他の常在度の高い植物にはシンガシラ，ミヤマイタチンダ，サワダツ，イワガラミ，モミジイチゴ，コカモメヅルなどがある。



Fig. 26 愛鷹山系のブナクラス域下部に生育するサワダツークマンデ群落
(愛鷹山須津川沿い，海拔 850m)。

In der unteren Stufe des *Fagetea crenatae*-Gebietes wachsende *Euonymus melananthus-Carpinus japonica*-Gesellschaft (entlang des Flusses Sutsu-gawa, 850m ü. NN, Berg Ashitaka).

生態：火山灰土の堆積の少ない溶岩流上や、沢地の岩角地など多湿な立地を指標している。標高的には海拔 550m 以上のヤブツバキクラス域上部からブナクラス域下部に生育している。

動態：サワダツークマンデ群落の植生調査資料の多くが二次林から得られていることから、せき悪な立地に土地的極盛相として生育するほか、イワボタンーシオジ群集、シコクスミレーブナ群落の代償植生としてもみられる。サワダツークマンデ群落は破壊されるとクサコアカソーフジテンニンソウ群落など多潤地生のヨモギクラスの植生が定着し、フジサンニシキウツギーマメザクラ群集、キクバドコローヤマブドウ群集、タマアジサイーフサザクラ群集など低木林を経過して、サワダツークマンデ群落に遷移するものと考えられる。

潜在自然植生：サワダツークマンデ群落、イワボタンーシオジ群集、シコクスミレーブナ群落。

総和群集：シコクスミレーブナ総和群落、クリーコナラ総和群集。

分布：富士山丘陵と愛鷹山系の溪谷沿い。

上級単位：イヌシデーコナラ群団、コナラーミズナラオーダー、ブナクラスにまとめられる。

44) クリーミズナラ群集

Castaneo-Quercetum crispulae Horikawa et Sasaki 1959

(Tab. 25)

形態：クリーミズナラ群集は高木層にミズナラの優占する夏緑広葉樹林で、ヤマボウシ、ブナ、タンナサワフタギ、コアジサイ、ヒメジャラ、クロモジ、オオカメノキ、マメザクラなどヤマボウシーブナ群集との共通種をもつこと、さらにハンショウヅル、エゴノキ、ミツバアケビ、シオデ、クマンデなど代償植生のコナラーミズナラオーダーに多い種を共有することで識別されている。

高木第 1 層は 7～22m の高さで、80～90% の植被率を占めている。優占種のミズナラのほかには、クマンデ、アカシデ、エゴノキ、ブナの常在度が高い。高木第 2 層の形成された植分では、高木第 1 層との共通種のほかマメザクラ、ヤマボウシ、アズキナシ、リョウブなどが生育している。低木層は 3～4 m の高さで、出現種が 15～30 種、植被率は 30～60% を占めている。きわだった優占種はなく、クロモジ、アセビ、コアジサイなどがめだってよくみられる。草本層はスズタケが優占すると植被率も 90% 以上に達する。出現種数は 10～25 種で、常在度の高い種にはツタウルシ、ハンショウヅル、シオデ、イヌツゲ、イヌワラビ、シンガシラなどがみられる。

生態：富士山山麓と愛鷹山の海拔 930～1,200m のササーブナオーダー域（ブナ林域）から植生調査資料が得られている。生育地は適潤な立地から尾根筋の乾性な立地までみられ、表層は火山灰土壌に覆われることが多い。立地はサワダツークマンデ群落と比較して乾性で安定している。

動態：クリーミズナラ群集はササーブナオーダーの代償植生として生育することが多い。富士市では、ヤマボウシーブナ群集、オオモミジガサーブナ群集の二次林に位置づけられるほか、富士山麓の新时期溶岩流上では、乾性な立地に自然植生として生育している (Tab. 25 Aufn. Nr. -1)。



Fig. 27 クリーミズナラ群集の林内相観（富士山，海拔930m）。

Innere Physiognomie des *Castaneo-Quercetum crispulae*
(930m ü. NN, Berg Fuji).

クリーミズナラ群集は伐採されると、チダケサシーススキ群落，風衝立地ではウラハグサ群落やフジアカショウマーマシモツケソウ群集に退行し，さらにキクパドコロヤマブドウ群集，フジサンニシキウツギーマメザクラ群集，アシタカツツジートウゴクミツバツツジ群落などを経て再びクリーミズナラ群集に遷移する。

潜在自然植生：ヤマボウシーブナ群集，オオモミジガサーブナ群集，シコクスミレーブナ群落。

総和群集：シコクスミレーブナ総和群落。

分布：富士山，愛鷹山系の海拔 900m 以上のササーブナオーダー域。

上級単位：イヌシデーコナラ群団，コナラーミズナラオーダー，ブナクラスにまとめられる。

15 山地風衝低木林 *Montane windgeschorene Gebüsche*

急峻な山体をもつ愛鷹山地の稜線部には，強い風衝を受ける岩棚，尾根筋にごく薄い風化土に根を張って生育する夏緑低木林が発達している。ツツジ科植物を主な構成種とするこの風衝低木林は，富士市では愛鷹山地のみに分布している。愛鷹山地で植生調査された風衝低木林は1群集1群落にまとめられた。

45) オノエラン—ハコネコメツツジ群集

Orchido-Rhododendretum tsusiophylli Miyawaki, Ohba et Murase 1969 (Tab. 26)

形態：ハコネコメツツジの優占する矮生夏緑低木林。ハコネコメツツジ，キンレイカを標徴種，区分種としてまとめられる。植生高20および50cm，植被率80%となる。植分には標徴種，区分種のほかヒメノガリヤス，コメススキ，ハコネギク，ヒメイワカガミなどが混生している。出現種数は7種および13種であった。

生態：山地の断崖部の小テラス地や岩隙に生育する。植分はしばしば強い風衝にさらされる。土壌層はほとんどなく，保水力がないため立地は極端に乾燥する。生育域は雲霧帯にあり空中湿度あるいは降雨により水分収支がまかなわれている。

動態：岩角地の自然植生で，人為的に破壊されると裸地化する。

潜在自然植生：現存植生と同一。

Tab. 26 オノエラン—ハコネコメツツジ群集
Orchido-Rhododendretum tsusiophylli

Laufende Nr.:	通 し 番 号	1	2
Feld-Nr.:	調 査 番 号	Fu	WE
		113	4
Datum d. Aufnahme (1983):	調 査 月 日	8	8
		9	10
Höhe ü. Meer (m):	海 抜 高	1260	1380
Exposition:	方 位	E	SW
Neigung (°):	傾 斜	90	60
Größe d. Probestfläche (m²):	調 査 面 積	1	1
Höhe d. Vegetation (cm):	植 生 高	50	20
Deckung d. Vegetation (%):	植 被 率	80	80
Artenzahl:	出 現 種 数	7	13
<u>Kenn- u. Trennarten d. Ass.:</u>		群集標徴種・区分種	
<i>Tsusiophyllum tanakae</i>	ハコネコメツツジ	4・4	4・3
<i>Patrinia triloba</i> var. <i>palmata</i>	キンレイカ	+・2	1・1
<u>Begleiter:</u>		随 伴 種	
<i>Calamagrostis hakonensis</i>	ヒメノガリヤス	2・3	+・2
<i>Deschampsia flexuosa</i>	コメススキ	+・2	+・2

出現1回の種 Außerden je einmal in Lfd. Nr. 1: *Filipendula multijuga* シモツクソウ +・2, *Adenophora nikoensis* ヒメシヤジン +・2, *Aster viscidulus* ハコネギク +・2, in 2: *Shortia soldanelloides* var. *ilicifolia* ヒメイワカガミ2・2, *Athyrium yokoscense* ヘビノネゴザ 1・2, *Metanarthecium luteo-viride* ノギラン+・2, *Clethra barbinervis* リョウブ +, *Enkiantus campanulatus* var. *palibinii* ベニドウタン +, *Aruncus dioicus* var. *tenuifolius* ヤマブキショウマ +, *Spiraea japonica* シモツケ +・2, *Gentiana scabra* var. *buergeri* リンドウ +, *Abelia spathulata* var. *sanguinea* ベニバナツクバネウツギ +.

Lage d. Aufnahme 調査地; Lfd. Nr. 1: Berg Nokogiri-daka 富士市鋸岳. 2: Berg Ihai-dake 富士市位牌岳.



Fig. 28 愛鷹山鋸岳稜線上にはフジアカシ ヨウマーンモツケソウ群集, オノエラン—ハコネコメツツジ群集, アシタカツツジ—トウゴクミツバツツジ群落などの風衝植生が生育している (海拔1,220m)。

Auf den Rücken von Nokogiri-dake des Bergs Ashitakayama wachsen *Astilbo-Filipenduletum multijugae*, *Orchido-Rhododendretum tsusiophylli*, *Rhododendron komiyamae-Rhododendron wadanum*-Gesellschaft und andere windgeschorene Vegetation (1,220m ü. NN).

分布：愛鷹山地鋸岳，位牌岳。関東地方から東海地方にかけてのフォッサ・マグナ地域のブナクラス域。

46) アシタカツツジ—トウゴクミツバツツジ群落

Rhododendron komiyamae-Rhododendron wadanum-Gesellschaft (Tab. 27)

形態：トウゴクミツバツツジ，リ ヨウブなどを優占種とする夏緑低木林。トウゴクミツバツツジ，ベニバナツクバネウツギ，アシタカツツジ，ハナヒリノキなどを区分種としてまとめられる。植生高は1～4mで群落階層は多くの植分で2層が識別される。植被率70～90%の低木層には群落区分種のほかリ ヨウブ，サラサドウダン，アセビ，クロモジ，ナナカマド，アオダモなどが混生している。植被率20～30%の草本層にはヘビノネゴザ，シモツケソウ，イトスゲ，ミヤコザサ，ヒメノガリヤス，ツタウルシ，キンレイカなどが生育している。出現種数は21～54種，平均32種である。

愛鷹山系で植生調査されたアシタカツツジ・トウゴクミツバツツジ群落はアセビ、ホツツジ、チチブドウダン、キンレイカなどで区分されるアセビ下位群落、サンショウバラ、ハコネコメツツジ、キヌタソウなどで区分されるキヌタソウ下位群落、そしてノリウツギ、マメザクラ、ミヤマガマズミなどで区分されるノリウツギ下位群落に区分される。

生態：土壌層が浅く、特に西よりの強い風衝を受ける稜線部尾根地に発達する。土壌の保水力、植生の保持力は弱くブナ、ミズナラなどの高木の生育し得ない立地である。尾根部に発達するヤマボウシーブナ群集などのブナ林が伐採を受けた地域に二次的植生として広がる場合もみられる。

アセビ下位群落は標高 1,320m 以下の稜線部の林分がまとめられる。土壌の薄い乾性立地に発達している。より土壌の厚い立地ではヤマボウシーブナ群集に隣接している。キヌタソウ下位群落は岩上に堆積したとくに土砂がうすい岩盤地に生育している。岩盤生の植物で特徴づけられる。

オノエラシ・ハコネコメツツジ群集などに隣接して生育している。ノリウツギ下位群落は標高 1,360～1,380m に発達している。土壌層は浅いが雲霧の影響により立地の水分条件は比較的恵まれている。より土壌の厚い立地ではオオモミジガサ・ブナ群集に接している。

動態：人為的などにより立地が変化を受けない限り存続する。伐採を受け土壌が流亡した場合にはフジアカシ・ウマシモツケソウ群集にまとめられる風衝草原におき換わる。

潜在自然植生：現存植生とほぼ一致する。

分布：愛鷹山系位牌岳、袴腰岳、越前岳、鋸岳。静岡県特産。

16 山地低木一つる植物群落

Montane Strauch- u. Lianen-reiche Mantelgesellschaften

山地の溪谷部崩壊地や、ヤマボウシーブナ群集、スギ、ヒノキ植林などの林縁部、あるいはそれら森林植生の伐採跡地には夏緑低木類、キイチゴ属：*Rubus*、ニシキツギ類：*Weigela*、そして多くのつる植物を伴った低木一つる植物群落が生育している。富士市のブナクラス域に生育する低木一つる植物群落は、主に林縁部を生育地とする 2 群集、1 群落、伐採跡地に繁茂する 1 群集、そして溪谷部の崩積土上に発達する 1 群集、計 4 群集 1 群落がまとめられた。

47) キクバドコロ・ヤマブドウ群集

Dioscoreo-Vitietum coignetiae Miyawaki et al. 1968 (Tab. 11)

形態：ヤマブドウを優占種とするつる植物群落。ヤマブドウ、サンカクヅル、コクサギを標徴種、区分種としてまとめられる。植分は 4～5 m の高さで、群落階層は 2 層が識別される。植被率 80 % の低木層にはヤマブドウ、サルナシ、ボタンヅル、コゴメウツギ、ミツバウツギ、ニワトコなどが生育している。草本層にはシロヨメナ、ミズヒキ、オオイトスゲ、スズタケなどがみられる。出現種数は 26 種および 29 種である。

生態：シコクスミレーブナ群落に接した林縁部に発達している。谷部の崩積斜面で、適潤な立地

に生育する。

潜在自然植生：シコクスミレーブナ群落およびイワボタンーシオジ群集。

総和群集：シコクスミレーブナ総和群落。

分布：林道曾比奈線（930m），富士宮市表登山道（1,020m）。日本全国のブナクラス域。

(48) フジサンニシキウツギ—マメザクラ群集

**Weigelo fujisanense-Prunetum incisae Miyawaki et
Murakami 1982 (Tab. 11)**

形態：フジサンニシキウツギ，フジベニウツギなどを優占種とする夏緑低木林。マメザクラ，フジサンニシキウツギ，フジベニウツギなどを標徴種，区分種としてまとめられる。林分は3～4mの高さである。植被率70～90%の低木層には標徴種，区分種のほかコゴメウツギ，ミツバウツギ，ウツギ，ニワトコ，アブラチャンなどの低木類とサルトリイバラ，ツルウメモドキなどのつる植物が生育している。草本層にはシロヨメナ，アカネ，ヘビノネゴザ，トコロなどがみられる。出現種数は19～40種，平均33種である。

フジサンニシキウツギ—マメザクラ群集は林床にスズタケ，ミヤコザサのササ類の密生する典型



Fig. 29 ブナクラス域の先駆的低木林であるフジサンニシキウツギ—マメザクラ群集（大淵林道1,050m）。

Pionier-Buschvegetation *Weigelo fujisanense-Prunetum incisae*
im *Fagetea crenatae*-Gebiet (Obuch-rindo 1,050m ü. NN).



Fig. 30 フジサンニシキウツギ—マメザクラ群集の標徴種、区分種

a) : マメザクラ(丸火公園, 海拔550m), b) : フジサンニシキウツギ(岩倉林道, 海拔900m)。

Kenn- und Trennarten des Weigelo fujisanense-Prunetum incisae:
Prunus incisa (a) und *Weigela decora* var. *rosea* (b) im Marbi-Park, 550m ü. NN,
 an der Iwakura-Bergstraße, 800m ü. NN.

亜群集と、キブシ、ハウチャクソウ、タチツボスミレ、イヌワラビなどで区分されるタチツボスミレ亜群集に下位区分される。

生態：スギ、ヒノキ植林に接した林縁部や森林伐採地に二次遷移の途中相として生育する。キクバドコロ—ヤマブドウ群集が谷部の適潤立地に分布が限られるのに対し、フジサンニシキウツギ—マメザクラ群集は適潤地からやや乾性な立地まで広くみられる。

タチツボスミレ亜群集は標高930～980mで植生調査されており、スギ、ヒノキ植林の林縁群落として帯状に生育している。典型亜群集は標高1,050mに生育する二次遷移途中相の林分がまとめられている。典型亜群集は面的に広い面積で生育している。

動態：フジサンニシキウツギ—マメザクラ群集はヤマボウシ—ブナ群集やシコクスミレ—ブナ群落、そしてスギ、ヒノキ植林などの伐採跡地に先駆的低木林としても生育する(典型亜群集)。伐採後、最初に発達するタラノキ—クマイチゴ群集に引き続いて成立するが多い。フジサンニシキウツギ—マメザクラ群集の段階で林床にササ類が密生すると低木林の状態で長期間持続し、その後、クリーミズナラ群集、クリーコナラ群集などの夏緑高木二次林へと移行する。

潜在自然植生：サワダツクマシデ群落，シコクスミレーブナ群落，ヤマボウシーブナ群落。

総和群集：シコクスミレーブナ総和群落。

分布：越前岳，勢子辻，大淵林道（1,050m），林道曾比奈線（980m），林道境塚線（930m）。フォッサ・マグナ地域の富士山，箱根，丹沢山塊など（宮脇・村上 1982）。アカガシーシラカン群団域～ブナクラス域下部（約550～1,200m）。

上級単位：フジサンニシキウツギーマメザクラ群集は宮脇・村上（1982）によって富士宮市，箱根などの林分からまとめられた。同報告書では奥宮・松崎（1974）が富士市から報告したマメザクラーアカショウマ群落も含められている。林分にはミツバウツギ，モミジイチゴをはじめとして多くのノイバラクラスの種群が混生している。特にボタンヅルーモミジイチゴ群団の種群が特徴的である。

49) アカショウマーニシキウツギ群落

Astilbe thunbergii-Weigela decora-Gesellschaft (Tab. 11)

形態：ニシキウツギまたはフジクリームウツギを優占種とする夏緑低木林。フジテンニンソウ，アカショウマ，アオダモを区分種としてまとめられる。林分は2.5ないし4mの高さである。低木層には優占種のほかミヤマイボタ，ニワトコなどが生育している。草本層はフジテンニンソウ，アカショウマ，ヘビノネゴザ，オオイトスゲ，バライチゴなどにより構成される。出現種数は24種および25種である。

生態：自動車道路ぞいや谷部の崩壊地に発達する。土壌は礫質である。フジサンニシキウツギーマメザクラ群集よりも高海拔地（1,260mおよび1,810m）に生育している。

潜在自然植生：カニコウモリーウラジロモミ群集など。

分布：富士宮市表登山道路（1,810m），鋸岳。

上級単位：アカショウマーニシキウツギ群落はフジサンニシキウツギーマメザクラ群集と生態的，相観的に同位の植生である。比較的低海拔地に多いフジサンニシキウツギ類（フジベニウツギ，フジクリームウツギを含む）の林分は標高1,200～1,300m付近を境にニシキウツギの林分に移行する。すなわちアカショウマーニシキウツギ群落は高海拔地生の *Weigela* 林である。奥宮・松崎（1974）のマメザクラーアカショウマ群落の一部もこれに含まれると考えられる。アカショウマーニシキウツギ群落はフジサンニシキウツギーマメザクラ群集と比較して種組成の差が大きく，特にミツバウツギ，トコロ，ミツバアケビ，ツルニンジン，サルトリイバラなどのノイバラクラスの種を多く欠いている。これは宮脇・村上（1982）に示されたフジサンニシキウツギーマメザクラ群集とセンダイトウヒレンーミヤマヤシャブシ群集の関係とほぼ対応している。アカショウマーニシキウツギ群落のような富士山地域の高海拔のニシキウツギ林は Ohba et Sugawara（1979）で再規定されたセンダイトウヒレンーミヤマヤシャブシ群集に種組成が近似している。

50) タラノキークマイチゴ群集

Aralio-Rubetum crataegifolii Nakagoshi in Miyawaki 1983

(Tab. 28)

形態：タラノキ，クマイチゴによって区分される伐採跡地低木群落。植分の高さは2 m以下である。木本植物ではタラノキ，クマイチゴ，コアカソ，ニワトコ，エビガライチゴ，サンカクヅル，スズタケなど，草本植物ではオトコエシ，ヤマカモジグサ，バライチゴ，オトギリソウなどが低木やぶ状の植分を形成している。出現種数は40種および49種であった。

生態：ブナ林，ミズナラ林などの夏緑広葉樹林やスギ，ヒノキ植林の伐採跡地に発達する。土壌が適潤な伐採地であるほど，低木類の生育が旺盛で早期に低木林状の植分となる。より乾性地では草本植物が種数，優占度ともに高く草原状の植分として生育する。

動態：群集を構成する低木類は伐採後，早期から発芽生育するが，群集の初期相では相観上はより生育の早い草本植物が優占する場合が多い。また群集の退行相ではヤマウルシ，ミズキ，ヤシヤブシなどのより高木化する陽樹が生長し，夏緑二次林へと遷移してゆく。

分布：大淵林道の標高1,000m 付近。日本全国のアカガシーシラカン群団域からブナクラスにかけて広く分布する。

51) タマアジサイーフサザクラ群集

Hydrangeo involucratae-Eupteleetum polyandrae**Miyawaki et al. 1964 (Tab. 29)**

形態：タマアジサイ，フサザクラを標徴種としてまとめられる夏緑低木林。富士市中里林道で植生植査された1 林分はキブシの優占林分である。植生高は6 mで高木層にはキブシ，フサザクラ，アブラチャン，ニシキウツギなどが生育している。低木層はヒメウツギ，ウツギ，コゴメウツギ，アブラチャンなどの夏緑低木類で占められている。草本層にはカンスゲ，ムカゴイラクサ，ミヤマカンスゲ，オオヤマフスマ，トボンガラ，イヌトウバナ，シロヨメナなどの多年生草本植物が多数生育している。出現種数は62種に達した。

生態：溪谷斜面基部の崩積土上に発達する。土壌は不安定で降雨時などに流動する。湿潤であるが排水性はよく，また腐植も富んでいる。

動態：河川増水時の土壌流動や，土砂の移動などによって高木林が未発達な立地に持続している。そのため立地がより安定化すればイワボタンーシオジ群集のケヤキ高木林に，より不安定化すればボタンヅルーウツギ群落などのより植生高の低い低木群落へ遷移する。中里林道の林分は初期相に近い。

潜在自然植生：現存植生と同一のタマアジサイーフサザクラ群集あるいは一部の林分はイワボタンーシオジ群集。

分布：中里林道（770m）。本州中部のアカガシーシラカン群団域からブナクラス域。

Tab. 29 タマアジサイ—フサザクラ群集

Hydrangeo involucratae-Eupteleetum polyandreae

Feld-Nr.: 調査番号: Fu-46. Datum d. Aufn.: 調査年月日: 1. Juni 1983. Lage d. Aufn. 調査地: Nakasato-rindo 中里林道. Höhe ü. Meer 海拔高: 770m. Exposition u. Neigung 方位・傾斜: NE20°. Größe d. Probefläche 調査面積: 50m². Höhe u. Deckung d. Baumschicht 高木層の高さおよび植被率: 6 m, 40%. Höhe u. Deckung d. Strauchschicht 低木層の高さおよび植被率: 2.5m, 20%. Höhe u. Deckung d. Krautschicht 草本層の高さおよび植被率: 0.8m, 90%. Artenzahl 出現種数: 62.

Kenn- u. Trennarten d. Ass.: 群集標徴種・区分種				
<i>Euptelea polyandra</i>	フサザクラ	B-3・2	<i>Laportea bulbifera</i>	ムカゴイラクサ K-1・1
<i>Hydrangea involucrata</i>	タマアジサイ	S-+	<i>Arisaema</i> sp.	テンナンショウ属の一種 K-1・1
Arten d. Rosetea multiflorae:			<i>Cirsium yezoense</i>	サワアザミ K-1・1
ノイバラクラスの種			<i>Aster ageratoides</i> var. <i>harae</i>	
<i>Stachyurus praecox</i>	キブシ	B-4・3	f. <i>leucanthus</i>	シロヨメナ K-1・1
<i>Weigela decora</i>	ニシキウツギ	B-2・2	<i>Galium trifloriforme</i>	オククルマムグラ K-1・1
<i>Stephanandra incisa</i>	コゴメウツギ	S-1・1	<i>Hakonechloa macra</i>	ウラハグサ K-+・2
<i>Deutzia crenata</i>	ウツギ	S-1・1	<i>Asperula odorata</i>	クルマバソウ K-+・2
<i>Sambucus sieboldiana</i>	ニワトコ	S-+, K-+	<i>Veronica japonensis</i>	ヤマクワガタ K-+・2
<i>Rosa luciae</i>	ヤマテリハノイバラ	S-+	<i>Teucrium japonicum</i>	ニガクサ K-+・2
<i>Hydrangea paniculata</i>	ノリウツギ	K-+・2	<i>Chrysosplenium macrostemon</i>	イワボタン K-+・2
<i>Boehmeria spicata</i>	コアカソ	K-+・2	<i>Poa</i> sp.	ミゾイチゴツナギ属の一種 K-+・2
<i>Gynostemma pentaphyllum</i>	アマチャヅル	K-+・2	<i>Duchesnea indica</i> var. <i>major</i>	ヤブヘビイチゴ K-+・2
<i>Zanthoxylum piperitum</i>	サンショウ	K-+	<i>Oplismenus undulatifolius</i>	
<i>Rubus palmatus</i>	ナガバモミジイチゴ	K-+	var. <i>japonicus</i>	コチヂミザサ K-+・2
<i>Actinidia arguta</i>	サルナシ	K-+	<i>Boenninghausenia japonica</i>	マツカゼソウ K-+・2
<i>Deutzia scabra</i>	マルバウツギ	K-+	<i>Luzula plumosa</i>	スカボシソウ K-+・2
Sonstige Arten: その他の種			<i>Viola grypoceras</i>	タチツボスミレ K-+・2
<i>Parabenzoin praecox</i>	アブラチャン	B-1・1, S-1・1	<i>Polygonum yokusaianum</i>	ハナタデ K-+
<i>Hydrangea scandens</i>	ガクウツギ	B-+	<i>Galium kikumugura</i>	キクムグラ K-+
<i>Aralia elata</i>	タラノキ	B-+	<i>Saussurea</i> sp.	トウヒレン属の一種 K-+
<i>Deutzia gracilis</i>	ヒメウツギ	S-2・2	<i>Euonymus sieboldianus</i>	マユミ K-+
<i>Edgeworthia chrysantha</i>	ミツマタ	S-+, K-+	<i>Polygonum filiforme</i>	ミズヒキ K-+
<i>Carex morrowii</i>	カンスゲ	K-2・2	<i>Youngia japonica</i>	オニタビラコ K-+
<i>Carex dolichostachya</i> var. <i>glaberrima</i>	ミヤマカンスゲ	K-1・2	<i>Circaea erubescens</i>	タニタデ K-+
<i>Chrysosplenium fragelliferum</i>	ツルネコノメソウ	K-1・2	<i>Pilea hamaoi</i>	ミズ K-+
<i>Urtica angustifolia</i> var. <i>sikokiana</i>	ナガバイラクサ	K-1・2	<i>Lactuca raddeana</i> var. <i>elata</i>	ヤマニガナ K-+
<i>Festuca parvigluma</i>	トボシガラ	K-1・2	<i>Cardamine fallax</i>	タチタネツケバナ K-+
<i>Geum japonicum</i>	ダイコンソウ	K-1・2	<i>Carpesium abrotanoides</i>	ヤブタバコ K-+
<i>Clinopodium micranthum</i>	イストウバナ	K-1・2	<i>Salvia lutescens</i> var. <i>intermedia</i>	ナツノタムラソウ K-+
<i>Omphalodes japonica</i>	ヤマリソウ	K-1・2	<i>Galium pogonanthum</i>	ヤマムグラ K-+
<i>Moehringia lateriflora</i>	オオヤマフスマ	K-1・2	<i>Lysimachia japonica</i> f. <i>subsessilis</i>	コナスビ K-+
			<i>Cacalia tebakaensis</i>	テバコモミジガサ K-+
			<i>Osmorhiza aristata</i>	ヤブニンジン K-+
			<i>Athyrium niponicum</i>	イスワラビ K-+

17 山地岩上・岩隙草本植物群落

Montane Steinschuttfuren und Felsspaltengesellschaften

愛鷹山系の西斜面か、とくに須津川溪谷沿いは、急峻な断崖からなる侵蝕地形を示しており、下部および中部凝灰角礫岩の露頭となっている。この露頭部には、小形シダ植物、多年生草本植物、コケ類などからなる岩上・岩隙草本植物群落が発達し、乾湿の程度に応じて生育している。群落の構成種にはヒトツバシヨウマ、フジアカシヨウマ、オノエラン、ハコネギク、コイワザクラ、トゲキアザミ、ヒメイワカガミなどのフォッサ・マグナ要素、あるいはオオクボシダ、イワユキノシタのような分布の限られる珍しい植物が多産している。

52) フジアカシヨウマ—シモツケソウ群集

***Astilbo-Filipenduletum multijugae* Miyawaki, Ohba et Murase 1964 (Tab. 30)**

形態：ハコネギク、トゲキアザミ、フジアカシヨウマ、イワニンジン、コオトギリ、ハコネトリカブト、ヒメイワカガミで特徴づけられ、区分される多年生草本植物群落。草本層の高さは20～40cmで、70～100%の植被率を占めている。優占種はシモツケソウ、ヒメノガリヤスで相対的にはイネ科優占の風衝草原を呈している。他に常在度の高い種にはキヌタソウ、リュウノウギク、トゲキアザミ、フジアカシヨウマ、ヘビノネゴザなどがある。

生態：愛鷹山稜線西側の風衝岩角地に生育する。植分は南西から南東斜面の風衝地にパッチ状に点在し、雲霧による水分供給を頻繁に受けて多潤化している。植被が密で植物遺体の分解も多く、岩角地にかかわらず有機質土壌が形成されている。

フジアカシヨウマ—シモツケソウ群集は日当たりの良い岩角地でオノエラン—ハコネコメツツジ群集、湿性岩壁でヒトツバシヨウマ—コイワザクラ群落に隣接している。また、風背地側となる稜線の東側でアシタカツツジ—トウゴクミツバツツジ群落に接している。

動態：フジアカシヨウマ—シモツケソウ群集は風衝下に持続する自然草原である。

分布：愛鷹山を中心としたフォッサ・マグナ地域に限られた分布をする。

上級単位：ヒメジャシン、シオガマギク、ウスユキソウ、キヌタソウなどの出現により、シナノキンバイ—ミヤマキンボウゲ群団、シナノキンバイ—ミヤマキンボウゲオーダー、ダケカンパーミヤマキンボウゲクラスにまとめられる。

53) ヒトツバシヨウマ—コイワザクラ群落

***Astilbe simplicifolia-Primula reinii*-Gesellschaft (Tab. 31)**

形態：ヒトツバシヨウマ、フジアカシヨウマ、チャボゼキンヨウ、コイワザクラで区分される岩上・岩隙草本植物群落。植生高は5～20cmで、20～70%の植被率を占めている。優占種はなく、



Fig. 31 愛鷹山鋸岳の稜線沿いに生育するフジアカショウマ—
シモツケソウ群集 (海拔 1,240m)。

Entlang der Rücken von Nokogiridake (1,240m ü. NN) des Bergs
Ashitaka wachsendes *Astilbo-Filipenduletum multijugae*.

常在度の高い種には区分種の他にダイモンジソウ、イワキンバイ、イワデンダ、イワタバコなどチャセンシダクラスの植物が多い。

生態：日当たりの良い岩角地に生育するが、雲霧帯に位置するため、湿性条件下に置かれることも多い。したがって群落の構成種も湿性系列のイワタバコオーダーのイワタバコ、イワユキノシタ、乾性系列のイワキンバイオーダーのイワキンバイ、キンレイカなどが混生している。

ヒトツバシロウマ—コイワザクラ群落は、オノエラン—ハコネコメツツジ群集、フジアカショウマ—シモツケソウ群集に隣接して、ほぼ垂直な岩壁に生育し、コケ類などを多く伴なうことから、もっとも条件の厳しい立地に生育する高等植物を中心とした植物群落である。

分布：愛鷹山を中心とするフォッサ・マグナ地域に限られて分布する。

上級単位：イワキンバイ、キンレイカの出現によりイワキンバイ群団、イワキンバイオーダー、ダイモンジソウ、イワデンダ、イワヒバ、イワギボウシなどの出現によりチャセンシダクラスにまとめられる。

54) ウラハグサ群落

Hakonechloa macra-Gesellschaft (Tab. 32)

形態：ウラハグサ1種で区分される多年生草本植物群落。優占種はウラハグサで植分による伴生種のばらつきが大きく、組成的なまとまりに欠ける。

生態：湿性な岩上や風衝地に生育し、とくに空中湿度の高い立地で密な植被を形成する。岩壁ではウラハグサが下垂して生育し、ケゴンアカバナ、イワハタザオなどを伴生する。生育地は直射日光を長時間受けることの少ない北西斜面に多い。

動態：オオモミジガサーブナ群集の生育する雲霧帯では、風通しの良い稜線沿いに二次的にソデ群落を形成する。

分布：フォッサ・マグナ地帯に多く、広域的な分布は紀伊半島の多雨地帯に及んでいる。

上級単位：未決定。

18 湧水辺植物群落 Quellflurgesellschaft

たえず滲出水に潤う溪流ぞいの小礫地には水分要求度の高い多年生の草本植物群落が生育して



Fig. 32 湿性岩壁に高い植被率で生育するウラハグサ群落
(愛鷹山位牌岳下, 海拔 1,410m)。

An den feuchten Felsabhängen büschelartig dicht wachsende *Hakonechloa macra*-Gesellschaft (Ihaidake, 1,410m ü. NN, Berg Ashitaka).

Tab. 32 ウラハグサ群落
Hakonechloa macra-Gesellschaft

Feld-Nr. 調査番号: Fu-68, Größe d. Probefläche 調査面積: 1.5m², Höhe ü. Meer 海拔高: 1,220m, Exposition u. Neigung 方位および傾斜: SW 90°, Höhe d. Krautschicht 草本層の高さ: 40cm, Deckung d. Krautschicht 草本層の植被率: 90%, Deckung d. Moosschicht コケ層植被率: 30%, Artenzahl 出現種数: 16.

<u>Trennart d. Gesellschaft:</u>	群 落 区 分 種	
<i>Hakonechloa macra</i>	ウラハグサ	5・5
<u>Begleiter:</u>	随 伴 種	
<i>Orchis fauriei</i>	オノエラン	2・3
<i>Potentilla yokusaiana</i>	ツルキンバイ	3・3
<i>Carex conica</i>	ヒメカンスゲ	2・2
<i>Angelica hakonensis</i>	イワニンジン	1・1
<i>Clinopodium micranthum</i>	イストウバナ	+
<i>Arabis serrata</i> var. <i>japonica</i>	イワハタザオ	+
<i>Filipendula multijuga</i>	シモツケソウ	+
<i>Geum japonicum</i>	ダイコンソウ	+
<i>Cimicifuga japonica</i>	イヌショウマ	+
<i>Epilobium amurense</i>	ケゴンアカバナ	+
<i>Aconitum ibukiense</i> var. <i>hakonense</i>	ハコネトリカブト	+
<i>Hosta montana</i>	オオバギボウシ	+
<i>Chrysanthemum makinoi</i>	リュウノウギク	+
<i>Aster ageratoides</i> var. <i>harae</i> f. <i>leucanthus</i>	シロヨメナ	+
<i>Pseudostellaria heterantha</i>	ワチガイソウ	+

Lage d. Aufn. 調査地: am Fluß Sutsu, Berg Ashitaka 愛鷹山須津川沿い.

Datum d. Aufn. 調査年月日: 3. Jun. 1983.

Tab. 33 ミゾホオズキ群落
Mimulus nepalensis var. *japonica*-Gesellschaft

Feld-Nr. 調査番号: Fu-45, Datum d. Aufn. 調査年月日: 1. Jun. 1983. Lage d. Aufn. 調査地: Nakasatorindo 中里林道, Höhe ü. Meer 海拔高: 770m, Exposition u. Neigung 方位および傾斜: SE 80°, Größe d. Probefläche 調査面積: 1×1qm, Höhe u. Deckung d. Vegetation 植生高および植被率: 20cm, 40%. Artenzahl 出現種数: 5.

<u>Trennarten d. Gesellschaft:</u>	群 落 区 分 種	
<i>Mimulus nepalensis</i> var. <i>japonica</i>	ミゾホオズキ	4・4
<i>Angelica polymorpha</i>	シラネセンキュウ	1・1
<u>Begleiter:</u>	随 伴 種	
<i>Elatostema umbellatum</i> var. <i>majus</i>	ウワバミソウ	2・3
<i>Festuca parvigluma</i>	トボシガラ	+
<i>Cirsium</i> sp.	アザミ属の一種	+

いる。富士市中里林道ではこのような湧水辺植物群落としてミゾホオズキの優占群落が生調査された。

55) ミゾホオズキ群落

Mimulus nepalensis var. *japonica*-Gesellschaft (Tab. 33)

形態: ミゾホオズキの優占する多年生草本植物群落。ミゾホオズキ, シラネセンキュウを区分種としてまとめられる。植生高は20cmで, 優占するミゾホオズキのほかシラネセンキュウ, ウワバミソウ, トボシガラなどが混生している。

生態: 小規模な滝周囲の岩上テラス地に生育する。テラス地のごくわずかに礫の堆積した立地で滝からたえず飛沫がある。

動態: 増水によって礫が流亡した場合にはウラハグサ群落に置きかわる。またより乾性化した場合にはススキクラス植生へと遷移してゆく。

分布: 中里林道。日本各地のブナクラス域。

19 山地大形草本植物群落

Montane Hochstaudenfluren

富士市の山地帯にはヤマボウシ・ブナ群集, オオモミジガサ・ブナ群集, そしてスギ, ヒノキ植林が広く生育している。これらの森林植生の林縁や, 伐採跡地, 採草地などには大形の多年生草本植物, またはササの群落が発達している。富士市のブナクラス域に生育する大形草本植物群落は崩壊性の林縁に生育したキントキシロヨメナーフジテンニンソウ群落, 伐採跡地, 採草地に二次草原として生育するオオナンバンギセル・ススキ群落, ミヤコザサ群落の計3群落がまとめられた。

56) キントキシロヨメナーフジテンニンソウ群落

Aster ageratoides var. *harae* f. *sawadanus*-*Leucosceptrum japonicum* f. *barbinerve*-Gesellschaft (Tab. 13)

形態: フジテンニンソウの優占する多年生草本植物群落。ツルキンバイ, イワニンジン, メタカラコウ, キントキシロヨメナを区分種としてまとめられる。植分は高さ20cmで区分種のほか, バライチゴ, ウワバミソウ, ヘビノネゴザなどが混生している。

生態: 稜線に近い沢の源頭部崩積斜面上に発達している。生育地は小中礫上で崩壊性が強い。より上部の岩壁にはヒトツバシヨウマーコイワザクラ群落が, より下部にはアカシヨウマーニシキウツギ群落が隣接している。

動態: より立地が安定し土壌流動が少なくなればアカシヨウマーニシキウツギ群落に遷移する。

分布: 愛鷹山系。

上級単位: キントキシロヨメナーフジテンニンソウ群落はヨモギクラスの種をもたず, メタカラコウなどを標徴種としてオオヨモギ・オオイタドリ群団にまとめられる。

57) オオナンバンギセル—ススキ群落

Aeginetia sinensis-Miscanthus sinensis-Gesellschaft (Tab. 34)

形態：ススキの優占する多年生草本植物群落。ノチドメ、オオナンバンギセル、ヒヨドリバナ、スズタケ、モミジイチゴ、ネコハギを区分種としてまとめられる。植分は高さ1 m（8月の資料）、植被率80%となる。優占するススキのほかはトダシバ、ワラビ、チダケサシ、リンドウ、ミツバツチグリ、ヒメハギ、ネコハギなどのススキクラスの多年生草本植物が群落構成種のほとんどを占めている。ススキクラス以外の種ではモミジイチゴ、スズタケなどがみられるにすぎない。出現種数は26～36種、平均32種である。

生態：定期的に地上部の刈りとりや火入れの行なわれる採草地、山地の防火帯などに生育する。ススキ草原はヤブツバキクラス域の低地からみられ、住宅地の空地や畑放棄地などにも生育している。植生調査された植分は山地稜線上の防火帯の植分である。

動態：刈り取り、火入れなどによって木本群落への遷移が抑制されている。それら人為的管理が停止されればササ草原、あるいはフジサンニシキウツギ—マメザクラ群集などの先駆低木林へと遷移する。また踏圧が加わればシバ群落に移行する。

潜在自然植生：ヤマボウシーブナ群集。

分布：袴腰岳。

上級単位：類似の群落として奥富・松崎（1974）はススキ—カワラマツバ群落を報告している。ススキ—カワラマツバ群落にまとめられた植分はオオナンバンギセル—ススキ群落と比較してやや適潤な立地に生育するものと考えられ、カワラマツバ、サワヒヨドリ、シシウド、ウマノアシガタなどにより区分される（Tab.34 通し番号3）。

58) ミヤコザサ群落

Sasa nipponica-Gesellschaft (Tab. 35)

形態：ミヤコザサの優占するササ草原。ミヤコザサを区分種としてまとめられる。植分は70cmの高さでススキ、シラヤマギクなどのススキクラスの種、タンナサワフタギ、アブラチャン、マユミなどの低木類、ドクダミ、タチツボスミレなどの林縁生の植物が混生している。

生態：多くの植分は森林の伐採後に生育した二次草原である。ササ類は密生した優占植分を形成するため森林植生への二次遷移が抑制される。

動態：放置されていても長期間存続する。ミヤコザサの開花、枯死などにより多くの低木類の侵入、生育が生じ、森林植生へと遷移する。

潜在自然植生：サワダツークマンデ群落。

分布：越前岳北山麓。九州以北の太平洋側ブナクラス域。

Tab. 35 ミヤコザサ群落

Sasa nipponica-Gesellschaft

Feld-Nr. 調査番号: A-1. Datum d. Aufn. 調査年月日: 9. Aug. 1983. Lage d. Aufn. 調査地: Berg Echizen-dake 越前岳. Höhe ü. Meer 海拔高: 990m. Exposition u. Neigung 方位と傾斜: NW 5°. Größe d. Probestfläche 調査面積: 12m². Höhe u. Deckung d. Vegetation 植生高および植被率: 70cm, 100%. Artenzahl 出現種数: 21.

<u>Trennart d. Gesellschaft:</u>	群 落 区 分 種	
<i>Sasa nipponica</i>	ミヤコザサ	5・5
<u>Arten d. Miscanthetea sinensis:</u>	ススキクラスの種	
<i>Miscanthus sinensis</i>	ススキ	1・2
<i>Astilbe microphylla</i>	チダケサシ	+・2
<i>Aster scaber</i>	シラヤマギク	+
<u>Sonstige Arten:</u>	その他の種	
<i>Rubus plamatus</i> var. <i>coptophyllus</i>	モミジイチゴ	1・2
<i>Symplocos coreana</i>	タンナサワフタギ	+・2
<i>Festuca parvigluma</i>	トボシガラ	+・2
<i>Viburnum dilatatum</i>	ガマズミ	+・2
<i>Disporum smilacinum</i>	チゴユリ	+・2
<i>Polygonum cuspidatum</i>	イタドリ	+
<i>Euonymus sieboldianus</i>	マユミ	+
<i>Senecio cannabifolius</i>	ハンゴンソウ	+
<i>Viola grypoceras</i>	タチツボスミレ	+
<i>Parabenzoin praecox</i>	アブラチャン	+
<i>Athyrium niponicum</i>	イヌワラビ	+
<i>Houttuynia cordata</i>	ドクダミ	+
<i>Galium japonicum</i>	クルマムグラ	+
<i>Rosa luciae</i> var. <i>fujisanensis</i>	フジイバラ	+
<i>Tylophola aristolochioides</i>	オオカモメヅル	+
<i>Acanthopanax spinosus</i>	ヤマウコギ	+
<i>Petasites japonicus</i>	フキ	+

c. コケモートウヒクラス域 (亜高山帯)

Vaccinio-Piceetea-Gebiet (Subalpine Stufe)

富士山南斜面のコケモートウヒクラス域は、表富士周遊道路より上の海拔約 1,800m から上部に位置し、シラビソ、オオシラビソ、トウヒ、コメツガ、ハリモミなどの常緑針葉樹と落葉性のカラマツからなる針葉樹林が広く山体を覆っている。針葉樹林にまじって、とくに森林限界付近やなだれの起きやすい急傾斜地には夏緑広葉樹のダケカンバ林が非常状に分布している。コケモートウヒクラス域は森林限界をすぎると海拔約 2,500m でコマクサーイワツメクサクラスの高山高原に移行するが、その隣接地域には中部山岳のハイマツ帯に相当するカラマツ、ミヤマヤナギの風衝矮生低木林が分布している。また、コケモートウヒクラス域は下限でブナクラス域に接しているが、このブナクラス林は常緑針葉樹のウラジロモミの優占するカニコウモリ—ウラジ

ロモミ群集で亜高山帯と山地帯の相観的な区別は明瞭でない。

20 亜高山性針葉樹林 Subalpine Nadelwälder

富士山のコケモモトウヒクラス域に土地的、気候的極盛相として生育する針葉樹林はシラビソ-オオシラビソ群集にまとめられている。クラスの上限域と年代の新しい溶岩流上にはカラマツが優占し、林床にヒメノガリヤスの群生する植分が分布する。この植分はコケモモ亜群集としてシラビソ-オオシラビソ群集の下位単位に扱われている。

コケモモトウヒクラスは北半球の亜寒帯、亜高山帯に広く分布し、モミ属、トウヒ属、カラマツ属など針葉樹類とイチヤクソウ属、小形ラン科植物、シダ類、さらに林床に群生するチシマシッポゴケ、ダチョウゴケ、タチハイゴケ、イワダレゴケなどのコケ類によって特徴づけられている。

59) シラビソ-オオシラビソ群集

Abietetum veitchio-mariesii Maeda 1958 (Tab. 36)

形態：シラビソ、オオシラビソ、トウヒ、コメツガ、カラマツなど針葉樹類のほか、コバノイチヤクソウ、コイチヤクソウ、ジンヨウイチヤクソウ、タケシマラン、キンチドリ、イチヨウラン、さらにコケ類のタチハイゴケ、イワダレゴケ、シッポゴケ、ダチョウゴケなどによって標徴、区別されている。高木第1層は10～19mで、20～80%の植被率を占めている。優占種は針葉樹類で、細かな立地の差異により優占順位がかわる。森林限界付近のカラマツの優占林（コケモモ亜群集）では疎開する植分が多く、樹高も低くなる。その他の常在度の高い夏緑広葉樹類にはナナカマド、ダケカンバが低い被度で混生するに過ぎない。高木第2層は7～10mの高さで、70～80%の植被率を占めている。構成種は高木第1層の若齢木で、植被率80%の高い植分では、シラビソの一斉再生林となる。高木第2層の種は倒木跡の樹冠疎開地に生育した個体で、そのまま枯死するものも多い。中部山岳にみられるような大規模な縞枯れは観察されていない。低木層は2～4mの高さで、5～40%の植被率を占めている。常在度の高い種は針葉樹類で、他にはナナカマド、ウラジロハナヒリノキ、ミヤマハンノキなどがわずかに向陽地に侵入して生育しているにすぎない。草本層は0.2～0.6mの高さで、20～90%の植被率を占めている。植被率の高くなるのはヒメノガリヤスの優占植分で、高海拔地のカラマツの優占するコケモモ亜群集に多い。その他常在度の高い植物には、コガネギク、ヤハズヒゴタイ、マイヅルソウ、タケシマラン、カニコウモリ、コバノイチヤクソウ、コイチヤクソウ、ジンヨウイチヤクソウ、キンチドリ、ミヤマワラビなどあげられる。亜高山性針葉樹林の特徴でもある林床はコケ層が発達し、20～90%の植被率で覆われている。優占種は *Pleurozium schreberi*, *Hylocomium splendens* で、他にも *Pogonatum japonicum*, *Dicranum japonicum*, *Lobaria scrobiculata*, *Scapania* cf. *bolanderi*, *Ptilium, crista castrensis*, *Lepidozia subtransversa* などが生育している。



Fig. 33 森林限界に近いコケモモトウヒクラス域上部にはカラマツの優占するシラビソ-オオシラビソ群集が生育する（富士山五合目，海拔2,500m）。

Im oberen Teil des *Vaccinio-Piceetea*-Gebietes in der Nähe der Waldgrenze wächst das *Abietetum veitchio-mariesii* mit dominierender *Larix kaempferi* (2,500m ü. NN, Berg Fuji).

シラビソ-オオシラビソ群集は典型亜群集とコケモモ，カラマツ，ウラジロハナヒリノキ，ミヤマハンショウヅル，イワカガミ，ミヤマニンジン，オノエイトドリで識別されるコケモモ亜群集に下位区分されている。

生態：シラビソ－オオシラビソ群集は富士山麓の海拔2,010～2,390mで植生調査資料が得られている。立地は新富士火山のスコリアの多い火山放出物上にあり、表層には分解の悪い粗腐植土と落葉層が形成されている。

動態：シラビソ－オオシラビソ群集は風衝，なだれ，そして最近では道路敷設など人為的影響によって破壊される。急傾斜地や沢状地帯など，とくになだれによる破壊回数の多い立地ではグンナイフウロ－ヤハズヒゴタイ群落などの広葉草原，さらにヤハズヒゴタイ－ダケカンバ群集に遷移するが，風倒による突発的な破壊は一般に面積も狭く，シラビソ，オオシラビソなどが一斉に再生して若齢林を形成する。表富士周遊道路沿いのような帯状に広がった人為的破壊地では，日射，風衝による乾燥が林内に及び，森林の再生力よりも破壊の進行が速く進んでしまっている。

分布：本州の主に太平洋側に分布し，富士市では表富士周遊道路を過ぎた海拔1,800m 以上で生育している。

上級単位：シラビソ－オオシラビソ群集はシラビソトウヒ群団，シラビソトウヒオーダー，コケモートウヒクラスにまとめられている。

21 夏緑広葉樹林および低木群落

Subalpine sommergrüne Wälder und Gebüsche

コケモートウヒクラス域の気候的極盛相はシラビソトウヒ群団の針葉樹林であるが，なだれの起きやすい風衝の強い急傾斜地や崩壊性立地では土地的な極盛相としてダケカンバ，ミヤマハンノキ，ヤハズハンノキなどの夏緑広葉樹類が優占して生育している。これらの林床にはグンナイフウロ，ホソバトリカブト，ホソエノアザミなど高茎草原の種が出現しており，植物社会学的にダケカンバーミヤマキンポウゲクラスにまとめられている。

また，森林限界付近の風衝地，植生破壊されてまもない立地にはミヤマヤナギやカラマツの矮生林が生育している。

60) ヤハズヒゴタイ－ダケカンバ群集

Saussureo-Betuletum ermanii Miyawaki, Hamada et Sugawara 1967 (Tab. 37)

形態：ダケカンバ，ミヤマハンノキ，ヒメノガリヤス，ヤハズヒゴタイ，マイヅルソウ，ウラジロハナヒリノキ，クルマユリ，タカネアオヤギソウで標徴，区分される夏緑広葉樹林。

高木層は3～9mの高さで，40～90%の植被率を占める。優占種はダケカンバが多く，植分によってはミヤマハンノキ，カラマツが疎林を形成することもある。ダケカンバは積雪圧によって伏臥した幹わかれの多い形態をとっている (Fig. 37)。低木層は0.7～3mで，2～30%の植被率を占め，ミヤマハンノキ，ナナカマド，ミヤマヤナギ，ウラジロハナヒリノキが散生している。もっとも種組成の多様な草本層は0.3～0.7mの高さで，40～90%の植被率を占めている。常在度



Fig. 34 ヤハズヒゴタイーダケカンバ群集，前面にミヤマヤナギがマント状に生育している（富士山五合目，海拔2,410m）。

Das Saussureo-Betuletum ermanii. Vorne wächst die *Salix reinii*-Gesellschaft als Mantelgesellschaft (Berg Fuji, 2,410m ü. NN).

の高い種にはヒメノガリヤス，ヤハズヒゴタイ，マイヅルソウ，コガネギク，イワノガリヤス，コケモモ，シロバナヘビイチゴなど10～20種が出現している。とくに風衝の強い凸状地ではヒメノガリヤスが優占している。

生態：ヤハズヒゴタイーダケカンバ群集は海拔2,170～2,420mで植生調査資料が得られており，コケモモトウヒクラス域でも上部に分布の偏りがみられる。しかし本州中部山岳にみられるようなダケカンバ帯を形成するには至らず，シラビソーオオシラビソ群集が安定した立地に，ヤハズヒゴタイーダケカンバ群集が沢沿いなど不安定な立地に交錯した形で配分している。

動態：ヤハズヒゴタイーダケカンバ群集は沢沿いなどのなだれ頻度の高い立地に持続群落を形成している。土砂崩壊，大型なだれなどにより植分が破壊されると，裸地からタイツリオウギーイワオウギ植分やグンナイフローヤハズヒゴタイ群落の草本植物群落を経て，ミヤマヤナギ群落にまとめられる低木林に遷移し，ダケカンバ林に復元する遷移過程をとる。この遷移系列は帯状構造にもあらわれ，なだれの中心からタイツリオウギーイワオウギ植分→ミヤマヤナギ群落→ヤハズヒゴタイーダケカンバ群集が配列する (Fig. 34)。

分布：富士山新五合目周辺の海拔2,100m 以上が多く，1707年に噴火した宝永火山では，植生の回復が十分でなく，海拔1,800m までヤハズヒゴタイーダケカンバ群集が下降している。

上級単位：ヤハズヒゴタイーダケカンバ群集はミドリユキザサーダケカンバ群団，オオバタケシマラン—ミヤマハンノキオーダー，ダケカンバーミヤマキンポウゲクラスにまとめられている。

61) ミヤマヤナギ群落

Salix reinii-Gesellschaft (Tab. 38)

形態：ミヤマヤナギ1種で区分される低木林。

群落高は0.3～2 mで，60～100%の植被率を占めている。優占種はミヤマヤナギかカラマツで低海拔地ではダケカンバが侵入してくる。草本層に常在度の高いのはミヤマオトコヨモギで他にはフジハタザオ，オノエイタドリ，ムラサキモメンゾル，コタヌキランなど荒原生の植物が散在している。

ミヤマヤナギ群落は典型下位群落とカラマツ下位群落に下位区分されている。

生態：コケモモトウヒクラス域上限付近の高海拔地で低温，風衝，積雪など厳しい環境規制要因のもとに森林形態をとる植生が生育困難となると，それ以高に矮生化したカラマツやミヤマヤナギを構成種とするミヤマヤナギ群落がイワスゲーイワツメクサ群集中に斑紋状に生育する。母材はスコリアを多く含んだ動きやすい火山放出物で有機質土壌の形成はほとんどみられない。こ



Fig. 35 森林限界付近のカラマツの風衝低木林（富士山五合目，海拔 2,480m）。

Als Gebüsch und Fahnenform wachsende *Larix kaempferi* an der Waldgrenze (2,480m ü. NN, Berg Fuji).

Tab. 38 ミヤマヤナギ群落

Salix reinii-Gesellschaft

a: Typische Untereinheit

典型下位群落

b: Untereinheit von *Larix kaempferi* カラマツ下位群落

Spalte:	群 落 記 号	<table><tr><th colspan="3">a</th><th colspan="4">b</th></tr><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>Fu</td><td>Fu</td><td>Fu</td><td>Fu</td><td>Fu</td><td>Fu</td><td>Fu</td></tr><tr><td>243</td><td>244</td><td>247</td><td>248</td><td>249</td><td>250</td><td>251</td></tr><tr><td>'83</td><td>'83</td><td>'83</td><td>'83</td><td>'83</td><td>'83</td><td>'83</td></tr><tr><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>6</td><td>4</td><td>2</td><td>20</td><td>30</td><td>16</td><td>25</td></tr><tr><td>2680</td><td>2680</td><td>2660</td><td>2595</td><td>2590</td><td>2570</td><td>2470</td></tr><tr><td>S E</td><td>S E</td><td>S E</td><td>S E</td><td>S E</td><td>S E</td><td>S E</td></tr><tr><td>40</td><td>40</td><td>40</td><td>15</td><td>25</td><td>30</td><td>30</td></tr><tr><td>1</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>85</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>80</td><td>90</td></tr><tr><td>0.3</td><td>0.3</td><td>0.3</td><td>0.6</td><td>0.7</td><td>0.5</td><td>0.5</td></tr><tr><td>45</td><td>80</td><td>60</td><td>90</td><td>100</td><td>15</td><td>5</td></tr><tr><td>4</td><td>5</td><td>7</td><td>8</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td></tr></table>							a			b				1	2	3	4	5	6	7	Fu	Fu	Fu	Fu	Fu	Fu	Fu	243	244	247	248	249	250	251	'83	'83	'83	'83	'83	'83	'83	9	9	9	9	9	9	9	3	3	3	3	3	3	3	6	4	2	20	30	16	25	2680	2680	2660	2595	2590	2570	2470	S E	S E	S E	S E	S E	S E	S E	40	40	40	15	25	30	30	1	—	—	—	—	1	2	85	—	—	—	—	80	90	0.3	0.3	0.3	0.6	0.7	0.5	0.5	45	80	60	90	100	15	5	4	5	7	8	4	6	5
a			b																																																																																																																					
1	2	3	4	5	6	7																																																																																																																		
Fu	Fu	Fu	Fu	Fu	Fu	Fu																																																																																																																		
243	244	247	248	249	250	251																																																																																																																		
'83	'83	'83	'83	'83	'83	'83																																																																																																																		
9	9	9	9	9	9	9																																																																																																																		
3	3	3	3	3	3	3																																																																																																																		
6	4	2	20	30	16	25																																																																																																																		
2680	2680	2660	2595	2590	2570	2470																																																																																																																		
S E	S E	S E	S E	S E	S E	S E																																																																																																																		
40	40	40	15	25	30	30																																																																																																																		
1	—	—	—	—	1	2																																																																																																																		
85	—	—	—	—	80	90																																																																																																																		
0.3	0.3	0.3	0.6	0.7	0.5	0.5																																																																																																																		
45	80	60	90	100	15	5																																																																																																																		
4	5	7	8	4	6	5																																																																																																																		
Laufende Nr.:	通 し 番 号																																																																																																																							
Feld-Nr.:	調 査 番 号																																																																																																																							
Datum d. Aufnahme:	調 査 年 月 日																																																																																																																							
Größe d. Probefläche (m²):	調 査 面 積																																																																																																																							
Höhe ü. Meer (m):	海 抜 高																																																																																																																							
Exposition:	方 位																																																																																																																							
Neigung (°):	傾 斜																																																																																																																							
Höhe d. Strauchschicht (m):	低木層の高さ																																																																																																																							
Deckung d. Strauchschicht (%):	低木層の植被率																																																																																																																							
Höhe d. Krautschicht (m):	草本層の高さ																																																																																																																							
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層の植被率																																																																																																																							
Artenzahl:	出 現 種 数																																																																																																																							
Trennart d. Gesellschaft:		群 落 区 分 種																																																																																																																						
<i>Salix reinii</i>	ミヤマヤナギ	S・K																																																																																																																						
Trennart d. Untereinheit:		下位群落区分種																																																																																																																						
<i>Larix kaempferi</i>	カラマツ	S・K																																																																																																																						
Sonstige Arten:		そ の 他 の 種																																																																																																																						
<i>Artemisia pedunculosa</i>	ミヤマオトコヨモギ	K																																																																																																																						
<i>Arabis serrata</i>	フジハタザオ	K																																																																																																																						
<i>Solidago virga-aurea</i> var. <i>leiocarpa</i>	コガネギク	K																																																																																																																						
<i>Betula ermanii</i>	ダケカンバ	S・K																																																																																																																						
<i>Astragalus adsurgens</i> var. <i>fujisanensis</i>	ムラサキモメンヅル	K																																																																																																																						
<i>Vaccinium vitis-idaea</i> var. <i>minus</i>	コケモモ	K																																																																																																																						
<i>Carex doenitzii</i>	コタヌキラン	K																																																																																																																						
<i>Polygonum cuspidatum</i> var. <i>compacta</i>	オノエイトドリ	K																																																																																																																						

出現1回の種 Außerdem je einmal in Lfd. Nr. 5: *Pyrola incarnata* ベニバナイチヤクソウ 1・2, in 6:*Hedysarum vicioides* イワオウギ +, in 7: *Astragalus membranaceus* var. *obtus* タイツリオウギ +.

調査地 Fundort: Berg Fuji 富士山.

の中で植分が比較的定着しやすいのは、大きな火山岩や溶岩の露出した岩上で、母材の安定化が植生の定着を早めると考えられる。

典型下位群落は海拔 2,600m 以上の高海拔地に、ミヤマヤナギ 1 種がはりつくように生育している。カラマツが風衝形で生育するカラマツ下位群落は典型下位群落より低海拔地に分布し、次第に樹高を高めて、シラビソ—オオシラビソ群集のコケモモ亜群集に隣接する。

ミヤマヤナギ群落は垂直分布的には中部山岳のハイマツ帯に相当する位置を占めるが、富士山

の比較的新しい時代の火山放出物は、きわめて不安定で異なる立地を形成している。

動態：ミヤマナギ群落は、なだれや土砂崩壊などの物理的な植生破壊により、シラビソーオオシラビソ群落やヤハズヒゴタイーダケカンバ群落の潜在自然植生域に代償植生として出現する。

分布：富士山の新五合目から五合目にかけて分布している。

上級単位：未決定。

22 亜高山性岩上・岩隙草本植物群落

Subalpine Felsspaltengesellschaft

富士市のコケモートウヒクラス域の岩上・岩隙草本植物群落はダケカンバや針葉樹の樹冠により、半陰地の形成された湿性岩壁に生育している。

62) エビゴケーミヤマウラボシ群落

Bryoxyphio-Crypsinetum veitchii Ohba 1973 (Tab. 39)

形態：フジアカシ ヨウマ、ミヤマウラボシ、エビゴケで標徴、区分される多年草本植物群落。

群落高は5～25cmの高さで、20～40%の植被率を占めている。常在度の高い種は識別種群のほ



Fig. 36 庇陰された岩壁に生育するミヤマウラボシーエビゴケ群落（富士山、海拔2,170m）。

Auf den beschatteten Felsen wachsendes *Bryoxyphio-Crypsinetum veitchii* (2,170m ü. NN, Berg Fuji).

Tab. 39 エビゴケ—ミヤマウラボシ群集
Bryoxiphio-Crypsinetum veitchii

Laufende Nr.:	通 し 番 号	1	2	3
Feld-Nr.:	調 査 番 号	Fu	Fu	Fu
		108	264	265
Datum d. Aufnahme:	調 査 年 月 日	'83	'83	'83
		8	9	9
		9	4	4
Größe d. Probestfläche (m²):	調 査 面 積	1	0.12	1.2
Höhe ü. Meer (m):	海 抜 高	1250	2170	2170
Exposition:	方 位	SW	W	W
Neigung (°):	傾 斜	70	90	85
Höhe d. Krautschicht (cm):	草本層の高さ	20	5	25
Deckung d. Krautschicht (%):	草本層の植被率	40	20	30
Deckung d. Moosschicht (%):	コケ層植被率	—	20	90
Artenzahl:	出 現 種 数	14	8	9
<u>Kenn- u. Trennarten d. Ass:</u>		群集標微種および区分種		
<i>Astilbe thunbergii</i> var. <i>fujisanensis</i>	フジアカシ ヨウマ	1・2	1・2	1・2
<i>Crypsinus veitchii</i>	ミヤマウラボシ	+・2	1・2	1・2
<i>Bryoxiphium norvegicum</i> ssp. <i>japonicum</i>	エビゴケ	・	2・2	1・3
<u>Arten d. höheren Einheiten:</u>		上級単位の種		
<i>Saxifrage fortunei</i> var. <i>incislobata</i>	ダイモンジソウ	1・1	1・1	2・2
<i>Astilbe simplicifolia</i>	ヒトツバシ ヨウマ	1・2	・	・
<i>Potentilla dickinsii</i>	イワキンバイ	2・2	・	・
<i>Woodsia polystichoides</i>	イワデンダ	2・3	・	・
<i>Selaginella tamariscina</i>	イワヒバ	+・2	・	・
<i>Juncus maximowiczii</i>	イトイ	・	+・2	1・2
<i>Patrinia triloba</i> var. <i>palmata</i>	キンレイカ	・	・	+
<u>Sonstige Arten:</u>		そ の 他 の 種		
<i>Athyrium yokoscense</i>	ヘビノネゴザ	・	+・2	+
<i>Aruncus dioicus</i> var. <i>tenuifolius</i>	ヤマブキシ ヨウマ	・	+	+・2
<i>Deschampsia flexuosa</i>	コメススキ	・	+	+・2

出現1回の種 Außerdem je einmal in Lfd. Nr. 1: *Shortia soldanelloides* var. *ilicifolia* ヒメイワカガミ
+, *Carex conica* ヒメカンスゲ 1・2, *Chrysanthemum makinoi* リュウノウギク+, *Tsusiophyllum tanakae*
ハコネコメツツジ +・2, *Scabiosa japonica* マツムシソウ 1・1, *Adenophora nikoensis* ヒメシャジン
+・2, *Calamagrostis hakonensis* ヒメノガリヤス +・2.

調査地 Fundorte: 1: am Fluß Sutsu, Berg Ashitaka 愛鷹山須津川流域, 2, 3: Berg Fuji 富士山.

かに, ダイモンジソウ, イトイ, ヤマブキシ ヨウマ, コメススキなどがみられる。

イトイ, ミヤマウラボシ, イワデンダ, ヒトツバシ ヨウマなど小形草本植物は下垂して生育している。

生態: エビゴケ—ミヤマウラボシ群集はブナクラス域上部からコケモモートウヒクラス域にかけて分布している。生育地は底陰された適潤な立地で, マット状に生育するコケ類も水分の保持効果を高めている。

分布：エビゴケミヤマウラボシ群集はこれまでに上越国境近くの清津峡（大場 1973），紀伊半島の大峰山系（中村 1984）から報告がある。富士市では愛鷹山系の須津川源頭部と富士山麓のダケカンバ林に接した岩壁に生育がみられた。

上級単位：エビゴケミヤマウラボシ群集はイトイ群団，イトイオーダー，チャセンシダクラスにまとめられている。

22 亜高山性広葉草原 Subalpine Hochstauden-Wiesen

コケモートウヒクラス域の風衝地，崖錐，雪崩地には，ノガリヤス属，キク科，キンポウゲ科，セリ科，キキョウ科など多潤地を好む多年生草本植物がお花畑を作っている。

63) ゲンナイフウローヤハズヒゴタイ群落

Geranium eriostemon var. *reinii*-*Saussurea triptera*-Gesellschaft (Tab.40)

形態：ヤハズヒゴタイ，ホソバトリカブト，ゲンナイフウロ，イワニンジン，ミヤマニンジン，ホソエノアザミ，キオンで識別される多年生草本植物群落。

植生高は0.5～0.6mで，90～100%の高い植被率を占めている。優占種はヒメガリヤス，イワ



Fig. 37 ダケカンバ林に接してみられるゲンナイフウローヤハズヒゴタイ群落（富士山新五合目，海拔 2,450m）。

Geranium eriostemon var. *reinii*-*Saussurea triptera*-Gesellschaft am *Betula ermanii*-Wald (2,450m ü. NN, Berg Fuji).

Tab. 40 グンナイフウローヤハズヒゴタイ群落
Geranium eriostemon var. *reinii*-*Saussurea triptera*-Gesellschaft

Laufende Nr.:	通 し 番 号	1	2
Feld-Nr.:	調 査 番 号	Fu	Fu
		259	257
Datum d. Aufnahme:	調 査 年 月 日	'83	'83
		9	9
		4	5
Größe d. Probefläche (m²):	調 査 面 積	40	15
Höhe ü. Meer (m):	海 抜 高	2370	2380
Exposition:	方 位	W	S E
Neigung (°):	傾 斜	10	30
Höhe d. Vegetation (cm):	植 生 高	50	60
Deckung d. Vegetation (%):	植 被 率	90	100
Artenzahl:	出 現 種 数	23	15
<u>Trennarten d. Gesellschaft:</u>	<u>群 落 区 分 種</u>		
<i>Saussurea triptera</i>	ヤハズヒゴタイ	3・3	+
<i>Aconitum senanense</i>	ホソバトリカブト	1・2	2・3
<i>Geranium eriostemon</i> var. <i>reinii</i>	グンナイフウロ	1・2	+
<i>Angelica hakonensis</i>	イワニンジン	2・2	1・2
<i>Ostericum florentii</i>	ミヤマニンジン	1・2	+
<i>Cirsium effusum</i>	ホソエノアザミ	1・1	2・3
<i>Senecio nemorensis</i>	キオン	+	1・2
<u>Arten d. höheren Einheiten:</u>	<u>上 級 単 位 の 種</u>		
<i>Artemisia montana</i>	オオヨモギ	+	+
<i>Calamagrostis langsdorffii</i>	イワノガリヤス	2・3	3・3
<i>Calamagrostis hakonensis</i>	ヒメノガリヤス	3・3	4・4
<i>Solidago virga-aurea</i> var. <i>leiocarpa</i>	コガネギク	+	+
<i>Adenophora nikoensis</i>	ヒメシャジン	+	・
<i>Veratrum longibracteatum</i>	タカネアオヤギソウ	+	・
<u>Sonstige Arten:</u>	<u>そ の 他 の 種</u>		
<i>Epilobium amurense</i>	ケゴンアカバナ	+	1・2

出現1回の種 Außerdem je einmal in Lfd. Nr. 1: *Festuca rubra* オオウシノケグサ 1・1, *Brachypodium sylvaticum* var. *miserum* ヤマカモジグサ 2・3, *Aster glehnii* var. *hondoensis* ゴマナ +, *Aster viscidulus* ハコネギク +・2, *Maianthemum dilatatum* マイヅルソウ 2・3, *Cacalia hastata* var. *farfaraefolia* コウモリソウ +・2, *Phegopteris connectilis* ミヤマワラビ +・2, *Cacalia adenostyloides* カニコウモリ +, *Anaphalis margaritacea* var. *angustifolia* ホソバノヤマハハコ +・2, in 2: *Fragaria nipponica* シロバナノヘビイチゴ 2・3, *Polygonum cuspidatum* var. *compacta* オノエイトドリ 1・2, *Astragalus adsurgens* var. *fujisanensis* ムラサキモメンヅル +.

調査地 Fundort: Berg Fuji 富士山.

ノガリヤス, ヤハズヒゴタイなどで平均19種が出現している。

群落の最盛期は夏季で, ヤハズヒゴタイ, ホソエノアザミのピンク, グンナイフウロ, ホソバトリカブト, ヒメシャジンの紫色, キオン, コガネギクの黄, ゴマナ, ハコネギク, ホソバノヤ

マハハコ、ミヤマニンジン等の白が文字通りお花畑を形成している。

生態：雪崩跡地、人為的な破壊跡地などの多潤な、しかも土壌の厚い立地に生育し、風衝が強ければ、ノガリヤス属の優占する持続群落を形成する。調査資料は海拔 2,370m のヤハズヒゴタイダケカンバ群落に接した立地から得られている。

動態：ヤハズヒゴタイダケカンバ群落、シラビソオオシラビソ群落の破壊跡地に二次的に生育することが多い。

潜在自然植生：ヤハズヒゴタイダケカンバ群落、シラビソオオシラビソ群落。

分布：グンナイフローヤハズヒゴタイ群落の上級単位であるシナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団は中部山岳の亜高山帯域を中心に分布しており、各地に固有な群落が分化している。

上級単位：グンナイフローヤハズヒゴタイ群落は富士山の亜高山帯に分布し、上級単位はシナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団、シナノキンバイーミヤマキンポウゲオーダー、ダケカンバーミヤマキンポウゲクラスにまとめられている。

d. コマクサーイワツメクサクラス域（高山帯）

Dicentro-Stellarietea nipponicae-Gebiet (Alpine Stufe)

24 高山荒原 Alpine Wüste-Vegetation

富士山で森林の形態をとる植物群落が生育できるのは海拔 2,500m までで、森林限界をすぎると、赤褐色のスコリア系火山放出物がむきだしの荒原が広がっている。この荒原中には、高山荒原植物とよばれるオンタデ、ミヤマオトコヨモギ、フジハタザオなど多年生草本植物が散在している。

64) イワスゲーイワツメクサ群落

Carici stenanthae-Stellarietum nipponicae Miyawaki, Hamada et Sugawara 1967 em. Ohba 1969 (Tab. 41)

形態：オンタデ、イワツメクサ、ミヤマオトコヨモギ、フジハタザオによって標徴、区分される多年生草本植物群落。

植生高は20～60cmで、20～70%の植被率を占めるが、オノエイトドリが島状群落を形成する場合は100%に達することもある。常在度の高い種はオンタデ、イワツメクサで、相親的には比較的大形のオンタデが目立つ。

イワスゲーイワツメクサ群落はイワスゲで識別されるイワスゲ亜群落、コタヌキランで識別されるコタヌキラン亜群落、オノエイトドリで識別されるオノエイトドリ亜群落、イワオウギ、タイツリオウギ、ムラサキモメンヅルで識別されるムラサキモメンヅル亜群落に下位区分されている。



Fig. 38 火山性高山荒原のイワスゲイワツメクサ群集（富士山 6 合目，海拔 2,850m）。

In den vom Vulkan verursachten alpinen Fast-Wüsten kommt spärlich das *Caricistenanthae-Stellarietum nipponicae* vor (2,850m ü. NN, Südhang des Bergs Fuji).

イワスゲイワツメクサ群集は宮脇・浜田・菅原（1967）により富士山南斜面の高山荒原がまとめられた。その後，大場（1969）は各地の高山荒原植物群落をまとめるにあたって，直接の引用はされていないが，宮脇ら（1967）のあげた標徴種群ならびに群集名が，本州山岳にきわめて広範囲に及ぶものとして，あらたに他地域との比較からフジハタザオを標徴種としてフジハタザオ・オンタデ群集を記載した。しかし，宮脇ら（1967）のイワスゲイワツメクサ群集は富士山にのみ適用され，他の山岳にも分布するという比較はされていない。したがって大場（1969）の行なった記載は群集の内容変更に関するものと考えられるのが適当である。以上の総合判定によりフジハタザオ・オンタデ群集はイワスゲイワツメクサ群集の異名として扱われている。

生態：イワスゲイワツメクサ群集はスコリア質火山灰を多く含む火山放出物の荒原に広く生育し，海拔2,410～3,260mで植生調査資料が得られている。母材は1～5cm程度スコリアが多く，移動しやすく不安定である。したがって根系の発達した植物には生育が有利で，オンタデはFig. 39 に示されるように根系が約2mに伸長する。

イワスゲ亜群集は海拔2,900m 以上で植生調査資料が得られている。イワスゲは大形の火山岩やコケ類の定着によって表土の動きにくい立地に生育することが大場（1969）によっても指摘さ



Fig. 39 深さ2 mに及ぶオンタデの根系（富士山六合目，
海拔 2,800m）。

Im vulkanischen Schutt über 2 m tief entwickeltes Wurzelsystems von
Polygonum weyrichii var. *alpinus* (2,800m ü. NN, Berg Fuji).

れている。コタヌキラン亜群集はイワスゲ亜群集域より下部の溶岩流がところどころに露出し、表土の移動もさらに安定した立地を指標している。オノエイタドリ亜群集は、コタヌキラン亜群集と同じ生態的地位を占め、オノエイタドリが株状に優占して島状群落を形成する。ムラサキモメンヅル亜群集は、森林限界付近のヤハズヒゴタイーダケカンバ群集、ミヤマヤナギ群落などの林縁部に生育し、雪崩跡地に先駆的に出現することが多い。

動態：イワスゲーイワツメクサ群集は砂礫の移動により植生破壊を受けやすいがオンタデは地上部が埋没しても茎が伸長して、植物体を再び地上に出す能力がある。フジハタザオ、イワスゲなどは砂礫移動の少ない火山岩上などに生育することによって存続している。

分布：富士山五合目の海拔 2,500m 付近から八合目の海拔 3,300m 付近まで分布している。

上級単位：イワスゲーイワツメクサ群集はイワツメクサ群団、コバノツメクサオーダー、コマクサーイワツメクサクラスにまとめられている。

B. 植物群落を基礎にした景観区分

Pflanzensoziologischer Einsatz für die Landschaft

富士市のとくにブナクラス域から下のヤブツバキクラス域まで、現在、地域住民の生活の場となっている文化景観域は、人間が定住するようになってから、徐々に自然が改変され、自然の許容範囲の中で、人と自然が作りあげた景観域である。富士市の文化景観域は人間の生活の目的に応じて3つの景観域に区分されている。

a. 産業景観域 Gebiet der Industrielandschaft

産業景観域は、第二次産業、第三次産業に属する商、工業、サービス業が中心となる地域で、流通に便の良い沿海部の沖積低地上に発達している。富士市ではイノデータブノキ群集、ムクノキエノキ群集を潜在自然植生とする地域で、本町、元町、吉原本町などの市街地が形成されており、ギンゴケーツメクサ総和群集に判定されている。

1 ギンゴケーツメクサ総和群集

Bryo-Saginetto japonicae-Sigmetum (Tab. 42)

東海道本線、新幹線、国道1号線、東名高速など交通網が発達した沖積低地は流通の中心となり、市街地や工場の密集した産業景観域が構成される。この景観域はほとんどが建造物、舗装道路などコンクリート類で占められており、植物が生育できる地表は、街路樹の下、コンクリートの割れ目、宅地造成地などきわめて限られている。そのわずかな地表に生育する植物は踏圧、除草などの影響を強く受けており、それらの環境規制に対抗できる小形の1年生草本植物、しかも都会雑草とよばれる帰化植物が多い。

市街地に生育する植物群落はギンゴケーツメクサ群集、ハルジオン群落、ホトケノザコハコベ群落などの1年生草本植物群落で、植被率は、街路樹や庭の花木類を含めても3～5%と少ない。このような景観域はギンゴケーツメクサ群集、ハルジオン群落を標徴群落としてギンゴケーツメクサ総和集域にまとめられている。

ギンゴケーツメクサ総和群集は気候、土壌、地形など生態的条件を指標する自然度の高い植生によって識別されるのではなく、人間の産業活動による生物的環境を指標する植生によって識別

されている。したがって特定の潜在自然植生に対応して分布することは少なく、富士市では、吉原本町、吉原宝町、元町などヤブツバキクラス域に点在する産業立地に分布している。

ギンゴケツメクサ総和群集域にはクスノキ、ホルトノキなどの並木がみられるほか、マメツゲ、ハナゾノツクバネウツギ、サツキ、シュロチクなどの鉢の置いてあるのが特徴である。住民が生活するのに必要な緑は絶対的に不足しており、都市公園の設置が望まれる。

b. 田園景観域 Gebiet der Ackerlandschaft

富士山麓の海拔約300mから駿河湾に面した田子の浦まで、生産緑地として第1次産業が盛んである。この景観域はもっとも土地利用が多様であり、田園景観域にまとめられている(Tab. 43)。

2 ウリカワーコナギ総和群集

Sagittario-Monochoriecto-Sigmatum (Tab. 42)

かつて富士川の氾濫原であった富士市の沖積低地は、ギンゴケツメクサ総和群集に代表される市街地を除いて、広く水田に利用されている。この水田地帯にはノミノフスマーケツネノボタン群集、ウリカワーコナギ群集、ミゾカクシーオオジンバリ群集、カモジグサーギンギン群団、



Fig. 40 チゴザサーヨシ群落, タチヤナギ群集の先駆相などが生育するウリカワーコナギ総和群集のタチヤナギ総和亜群集域 (富士市浮島, 海拔2m)。

Saliceto subfragilis-Subsigmetum des Sagittario-Monochoriecto-Sigmatum mit der Isachne globosa-Phragmites australis-Gesellschaft, als Pionierphase des Salicetum subfragilis u. a. (Ukishima, 2m ü. NN, Stadt Fuji).

ユウガギクーヨモギ群集、クコ群落、アキノノゲシーカナムグラ群集などが分布しており、これらの植物群落を標徴群落としてウリカワーコナギ総和群集がまとめられた。

ウリカワーコナギ総和群集域は平坦な地形が広がり、森林や単木的な樹木も少ない草原状を呈している。土地利用は水田耕作が主で、二次的雑草群落である夏季のウリカワーコナギ群集、春季のノミノフスマーケキツネノボタン群集が広い面積を占めている。また田の畔には帯状にミゾカクシーオオジシバリ群集、ユウガギクーヨモギ群集が生育している。

ウリカワーコナギ総和群集はチゴザサーヨン群落、タチャナギ群集、カサスゲ群集、イ植分、チゴザサーアゼスゲ群集によってタチャナギ総和亜群集とイノデータブノキ群集、セイタカアワダチソウ群落、ジュズダマ植分、メヒシパーエノコログサ群落によってイノデータブノキ総和亜群集に下位区分されている。タチャナギ総和亜群集はジャヤナギーアカメヤナギ群集を潜在自然植生とする市東部の三角洲沖積低地に広がっている。タチャナギ総和亜群集は浮島ヶ原に代表される湿地地帯を指標しており、地盤も軟弱で、水田以外の土地利用には適していない。イノデータブノキ総和群集域はイノデータブノキ群集、ムクノキーエノキ群集を潜在自然植生とする地域にまたがり、水田地帯もノミノフスマーケキツネノボタン群集キツネアザミ亜群集に代表される乾田地帯を指標している。したがって最近では根菜類や葉菜類の畑地、あるいはビニールハウス



Fig. 41 ウリカワーコナギ総和群集のイノデータブノキ総和亜群集域の畑地にはネギ、キャベツなどが栽培されている（富士市宮下、海拔 14m）。

Polysticho-Perseeto thunbergii-Subsigmetum des Sagittario-Monochoriecto-Sigmetum-Areal mit Gemüse wie *Allium fistulosum*, *Brassica juncea* var. *integrifolia* (Miyanoshita, 14m ü. NN, Stadt Fuji).

Tab. 44 富士市における垂直分布
Vertikale Verbreitung der Sigmassoziationen

<div>生育形 Wuchsformen</div> <div>潜在自然植生 Potentielle natürliche Vegetation</div>	<p>オオモミジガサープナ群落およびシコクスミレーブナ群落 <i>Miricacalio-Fagetum crenatae</i> und <i>Viola shikokiana-Fagus crenata</i>-Gesellschaft</p>
<p>高木類（環境保全林、郷土林など） Bäume für Umweltschutzwälder, Heimatwälder u.a.</p>	<p>ブナ、ヒメシャラ、クマシデ、ミズナラ、コミネカエデ、'リョ <i>Fagus crenata</i>, <i>Stewartia monadelphae</i>, <i>Carpinus japonica</i>, <i>commixta</i>, <i>Cornus kousa</i>, <i>Fraxinus lanuginosa</i>, <i>Betula</i></p>
	<p>サワシバ、ヒナウチワカエデ、オオモミジ、カジカエデ <i>Carpinus cordata</i>, <i>Acer tenuifolium</i>, <i>Acer palmatum</i> var. <i>amoenum</i>, <i>Acer diabolicum</i></p>
<p>低木類（林床低木、マント群落、生垣など） Strauchschicht (Mantelgesellschaft, Hecken u.a.)</p>	<p>マメザクラ、フジサンニシキウツギ、ツクバネウツギ、ニシキサルナシ、サラサドウダン、ミヤマガマズミ、ニワトコ、クロ <i>Prunus incisa</i>, <i>Weigela decora</i>, <i>Weigela decora</i> var. <i>rosea</i> <i>Hydrangea macrophylla</i> var. <i>acuminata</i>, <i>Hydrangea</i> <i>Sambucus sieboldiana</i>, <i>Lindera umbellata</i>, <i>Hydrangea hirta</i>,</p>
	<p>シラキ、ミツバウツギ、カジカエデ <i>Sapium japonicum</i>, <i>Staphylea bumalda</i>, <i>Acer diabolicum</i></p>
<p>草本植物類 Kräuter und Gräser</p>	<p>フジテンニンソウ、ヘビノネゴザ、シシウド、ツリフネソウ、 <i>Leucosceptrum japonicum</i> f. <i>barbinerve</i>, <i>Athyrium</i> <i>micranthum</i>, <i>Aster ageratoides</i> var. <i>harae</i> f. <i>leucanthus</i>,</p>
	<p>シコクスミレ、コミヤマカタバミ、ヤマタイミンガサ、イヌヤマハッカ、イトスゲ <i>Viola shikokiana</i>, <i>Oxalis acetosella</i>, <i>Cacalia yatabei</i>, <i>Plectranthus umbrosus</i>, <i>Carex fernaldiana</i></p>

からみた総和群集とその土地利用。
und ihre Bodennutzungen.

<p>ヤマボウシーブナ群集 Corno-Fagetum crenatae</p>	<p>ウラジロモミブナ群集 Abieti homolepidis-Fagetum crenatae</p>
<p>ウブ, ナナカマド, ヤマボウシ, アオダモ, ヨグソミネバリ, コハウチワカエデ <i>Quercus mongolica</i> var. <i>grosseserrata</i>, <i>Acer micranthum</i>, <i>Clethra barbinervis</i>, <i>Sorbus grossa</i>, <i>Acer sieboldianum</i></p>	
<p>アオハダ, コシアブラ, イトマキイタヤ, アカシデ <i>Ilex macropoda</i>, <i>Acanthopanax sciadophylloides</i>, <i>Acer mono</i> var. <i>trichobasis</i>, <i>Carpinus laxiflora</i></p>	<p>ウラジロモミ, オオイタヤメイゲツ, ハウチワカエデ, トウヒ, シナノキ, ダケカンバ <i>Abies homolepis</i>, <i>Acer shirasawanum</i>, <i>Acer japonicum</i>, <i>Picea jezoensis</i> var. <i>hondoensis</i>, <i>Tilia japonica</i>, <i>Betula ermanii</i></p>
<p>ウツギ, ウツギ, カマツカ, ミヤマイボタ, オオカメノキ, ヤマアジサイ, ノリウツギ, ヤマブドウ, モジ, コアジサイ, タンナサワフタギ <i>f. fujisanensis</i>, <i>Abelia spathulata</i>, <i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>, <i>Ligustrum tschonoskii</i>, <i>paniculata</i>, <i>Vitis coignetiae</i>, <i>Actinidia arguta</i>, <i>Enkianthus campanulatus</i>, <i>Viburnum wrightii</i>, <i>Symplocos coreana</i></p>	
<p>チチブドウダン, トウゴクミツバツツジ, ミツバツツジ, アセビ, ムラサキシキブ, アシタカツツジ <i>Enkianthus cernuus</i> var. <i>rubens</i>, <i>Rhododendron wadanum</i>, <i>Rhododendron dilatatum</i>, <i>Pieris japonica</i>, <i>Callicarpa japonica</i>, <i>Rhododendron komiyamae</i></p>	<p>ヒロハツリバナ, ニシキウツギ <i>Euonymus macropterus</i>, <i>Weigela decora</i></p>
<p>ミズタマソウ, イヌトウバナ, シロヨメナ, ヤマトリカブト <i>yokoscense</i>, <i>Angelica pubescens</i>, <i>Impatiens textori</i>, <i>Circaea hololettis</i>, <i>Clinopodium Aconitum japonicum</i> var. <i>montanum</i></p>	
<p>ヒメノガリヤス, ナカバコウヤボウキ, タテヤマギク, フクオウソウ <i>Calamagrostis hakonensis</i>, <i>Pertya glabrescens</i>, <i>Aster dimorphophyllus</i>, <i>Prenanthes acerifolia</i></p>	<p>カニコウモリ, シロバナノヘビイチゴ <i>Cacalia adenostyloides</i>, <i>Fragaria nipponica</i></p>

による促成栽培に転用される水田も増えている。イノデータブノキ総和亜群集域には古い集落も形成されており、クスノキ並木、サンゴジュ並木、イヌマキ生垣、アオキ、クロガネモチの庭木などが景観要素としてみられる。また新興住宅地も水田を埋めたててつくられている。イノデータブノキ総和亜群集域はもっとも都市化の波を受けやすく、多様な田園景観が破壊されやすい地域である。

3 ヤブコウジースダジイ総和群集

Ardisio-Castanopsieto sieboldii-Sigmetum (Tab. 42)

富士山麓のなだらかな丘陵地帯は、沖積低地の水田地帯とは異って、茶畑、みかん畑など畑地で占められている。常緑低木畑の中には点在するように小面積で、スダジイ萌芽林、スギの植林、コナラの薪炭林、モウソウチク林が広がっている。丘陵の家屋の多くは土台を火山岩で石積みしており、本地域の景観的な特徴ともなっている (Fig. 42)。この景観域はヤブコウジースダジイ群集、ササクサーコナラ群落、カラスビシャク—ニシキソウ群集、アラカン群落、クサイチゴータラノキ群集、ホソバカナワラビースダジイ群集、オオバヤシャブシー—ハコネウツギ群集を標徴群落としてヤブコウジースダジイ総和群集にまとめられた。

ヤブコウジースダジイ総和群集は海拔 25~280m のなだらかな丘陵で調査資料が得られている。この地域は新富士火山の旧期溶岩類がおおっており、表層には火山灰土が薄く堆積している。斜面の向きは南で日当たりが良く、また海風の影響を受けやすい。このような立地は常緑果樹のミ

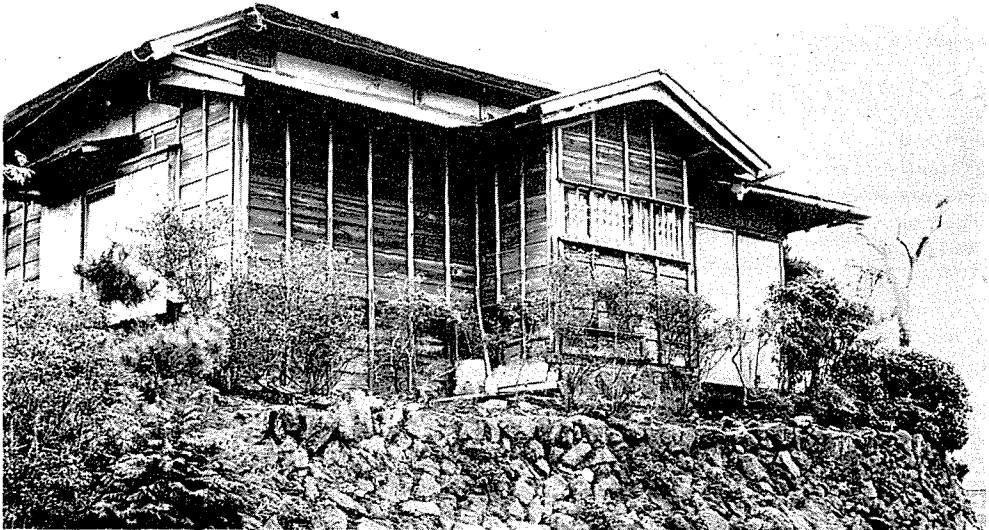


Fig. 42 ヤブコウジースダジイ総和群集域の家屋は丘陵地にある
ため石垣を積むことが多い (富士市今宮, 海拔 220m)。

Die Häuser auf den Hügel des *Ardisio-Castanopsieto sieboldii-Sigmetum* sind oft auf Steinmauern gebaut (Imamiya, 220m ü. NN, Stadt Fuji).



Fig. 43 ミカン畑，茶畑，ヤブコウジースダジイ群集，アズマネザサ植分などの景観要素によって特徴づけられるヤブコウジースダジイ総和群集（富士市広見本町，海拔 75m）。

Durch Mandarinen-Gärten, Tee-Gärten, *Pleioblastus chino*-Bestände und *Ardisio-Castanopsietum sieboldii* charakterisiertes *Ardisio-Castanopsietum sieboldii*-Sigmetum (Hiromihonmachi, 75m ü. NN, Stadt Fuji).

カン類や茶の栽培に適しており，葉菜や根菜の栽培面積はきわめて限られた面積となっている。栽培植物の中ではキャベツがもっとも多く，トウモロコシ，サトイモ，ナス，ゴボウもみられる。

ヤブコウジースダジイ総和群集域は標徴群落以外にもイヌマキ生垣，マサキ生垣，スギ植林，モウソウチク林などで特徴づけられている。標徴群落のヤブコウジースダジイ群集，ホソバカナワラビースダジイ群集はヤブコウジースダジイ総和群集域の気候，土壌，地形など環境条件の総和を指標する自然植生で，桑崎，鶺鴒ヶ淵などに社寺林として残されている。

ヤブコウジースダジイ総和群集は低海拔地の沖積低地と接した面でウリカワーコナギ総和群集，高海拔地では海拔約 250m でクリーコナラ総和群集に隣接している。

c. 森林景観域 Gebiet der Waldlandschaft

富士山麓に位置する富士市の海拔 300m 以上の丘陵はヒノキの一斉植林が広大な面積を占め，表富士周遊道路の通る海拔 1,400m 付近まで達している。高海拔地域には，まだシコクスミレーブナ群落，イワボタンーシオジ群集など自然植生が残されているが，低海拔地は，植林によりほとんど皆無で，丸火の自然公園にわずかにクリ，コナラの薪炭林が残されているにすぎない。

富士市の海拔 300m 以下が耕作地の多い田園景観域となっているのに対し，高海拔地は林業を

目的とした土地利用形態がみられる。

4 クリーコナラ総和群集

Castaneo-Querceto serratae-Sigmatum (Tab. 42)

茶畑，みかん畑の広く分布するヤブコウジースダジイ総和群集域は海拔約300mを境にしてヒノキ，スギ植林，クリーコナラ群集など森林形態を呈する景観域に変化する。もっとも広い面積を占めるのはヒノキの植林で，その中に点在するようにクリーコナラ群集の夏緑広葉樹林が残されている。まとまった植分は丸火の自然公園にみられる。林道沿いには，クサコアカソーフジテンニンソウ群落，ハナタデーアシボソ群集のソデ群落，フジサンニシキウツギーマメザクラ群集，センニンソウ群集のマント群落が配分されている。ヤブコウジースダジイ総和群集の隣接地域は茶畑，モウソウチク林，苗圃をもつ集落がヒノキ植林に囲まれるようにして分散している。この景観域はクリーコナラ群集，シキミーモミ群集，ハナタデーアシボソ群集，ヤクシソウータケニグサ群集を標徴群落としてクリーコナラ総和群集にまとめられた。

クリーコナラ総和群集は海拔250～800mから植生調査資料が得られている。分布域の潜在自然植生はシキミーモミ群集，ヤブムラサキモミ群落，クリーコナラ群集でヤブツバキクラス域か



Fig. 44 クリーコナラ総和群集域はヒノキの一斉植林で占められる
(富士市勢子辻，海拔720m)。

Im Castaneo-Querceto serratae-Sigmatum erstrecken sich heute
weithin *Chamaecyparis obtusa*-Forsten (Sekotsuji, 720m ü. NN, Stadt Fuji).

らブナクラス域にまたがっている。この範囲は南むきの5〜30度の斜面が続き、母材は新富士火山の中期玄武岩と火山灰によって被覆されている。また、丸火自然公園周辺にみられるように新期玄武岩類の大淵丸尾溶岩が分布し、起伏の激しい溶岩流の露出した立地もある。

クリーコナラ総和群集域には自然植生が残されていない。生態学的に調和のとれた林業システムは自然植生、代償植生、植林を空間的に配分し、時間的には植林により地力の落ちた立地を代償植生のクリーコナラ群集に置きかえるなどして、生態系を維持していくことである。現在の富士市のクリーコナラ総和群集域はヒノキ植林がきわめて多く、動物相、植物相の貧化をきたしている。同じ林業経営が続けば地力の低下、林業生産量の低下が心配される。

5 シコクスミレーブナ総和群落

Viola shikokiana-*Fagus crenata*-*Sigmagesellschaft*

(Tab. 42)

富士山山麓で海拔約900mからヒノキの植林面積も減少を始め、ウラジロモミ、モミ、カラマツの植林が出現する。またイワボタンーシオジ群集、シコクスミレーブナ群落の自然林、クリーコナラ群集、サワダツクマシデ群落の二次林など夏緑広葉樹林が広くみられるようになる。夏



Fig. 45 前景はウラジロモミ植林、遠景はシコクスミレーブナ群落の自然林が残されている（富士市、海拔1,420m）。

Im Vordergrund *Abies homolepis*-Forst, im Hintergrund noch erhaltener natürlicher Bestand der *Viola shikokiana*-*Fagus crenata*-Gesellschaft im Winteraspekt (1,420m ü. NN, Stadt Fuji).

緑広葉樹林の林縁部にはキクバドコロヤマブドウ群集、フジサンニシキウツギマメザクラ群集、クサコアカソーフジテンニンソウ群落、ツリフネソウ植分、また伐採跡地にはカワラマツバーススキ群落、クマイチゴータラノキ群集などが出現する。これらの景観域はシコクスミレーブナ群落、イワボタンーシオジ群集、キクバドコロヤマブドウ群集、カワラスゲーオオバコ群集、クマイチゴータラノキ群集などを標徴群集としてシコクスミレーブナ総和群落にまとめられた。

シコクスミレーブナ総和群落域は海拔約 700m 以上に生育する中性立地のシコクスミレーブナ群落、湿性立地のイワボタンーシオジ群集を潜在自然植生としている。土地利用形態は林業で、ウラジロモミ、カラマツなど高海拔地に適した有用樹木の植栽が特徴的である。地形は南向きの丘陵で 5～40度の傾斜からなる。母材は新富士火山の新期玄武岩類からなり、表層に厚く火山灰土の堆積した立地もみられる。

シコクスミレーブナ総和群落域には自然植生、代償植生、植林がモザイク状に配分されており、生態系を維持できる有効な土地利用形態がみられる。しかし最近の自然林伐採跡地の増加は、将来の一斉植林に発展する可能性もあり、さらに計画的な林業経営が望まれる。

d. そ の 他 Sonstige

6 ハマグルマーコウボウムギ総和群集

Wedelio-Carici kobomugi-Sigmatum (Tab. 42)

駿河湾に面した富士市の海岸線は幅の狭い砂浜と一部、礫浜（富士川河口部）からなり、後背部には帯状に長く防波堤がもうけられている。防波堤より前の海浜は海水の飛沫、風衝による砂の移動など厳しい環境規制を受けており、生育する植物群落も多肉肉質、匍匐枝による繁殖形態をもった植物で構成されている。このような海岸線の限られた景観域はハマグルマーコウボウムギ群集の断片、ハマエンドウ群落、ケカモノハン群落、ハマグルマーオニシバ群集の断片を標徴群落としてハマグルマーコウボウムギ総和群集にまとめられた。

ハマグルマーコウボウムギ総和群集は主に西日本の砂浜地帯に分布しているが、近年は海岸線の埋立てにより少なくなっている。

ハマグルマーコウボウムギ総和群集域は海から飛砂を防ぐ砂防帯の役目を果たしている。マサキートベラ群集の潜在自然植生域で、クロマツ植林に隣接していることが多い。

C. 潜在自然植生図

Karte der potentiellen natürlichen Vegetation

1 潜在自然植生概観

Übersicht der potentiellen natürlichen Vegetation

a. ヤブツバキクラス域

Camellietea japonicae-Gebiet

富士市の常緑広葉樹林帯；ヤブツバキクラス域は、海拔0 mからはじまるが富士山麓と愛鷹山地で異なる。富士山麓は、富士山のローンを何度かかぶりヤブツバキクラス域の上限は、およそ600mになるが、愛鷹山地は侵食が進んだ古い地質条件下にあり、およそ海拔850mまでヤブツバキクラス域が上がっている。

海岸際の砂の動く砂丘地にはハマボウフウクラスにまとめられる砂丘植生が潜在自然植生と判定される。現存植生は、ブルドーザーやテトラポット敷設の破壊により裸地化しているところが多い。現在、防潮林として植栽されているクロマツ植林は、海際の風衝の強い立地では昆比羅神社に残されているようなマサキトベラ群集が発達する。後背地の安定砂丘にはイノデータブノキ群集が発達し、後背地の沖積地につづいている。海拔およそ20mまでの沖積地がイノデータブノキ群集の潜在自然植生域である。沖積低地は浮島ヶ原にみられるようなタチヤナギ、ジャヤナギを主とするジャヤナギアカメヤナギ群集が広く湿田地をおおうものと考えられる。現在浮島ヶ原でみられるジャヤナギ、タチヤナギは古い水田の畔上に植栽されたものである。かつては広く、湿田地帯にみられた(杉本1972)。湿田の群落はノミノフスマーケキツネノボタン群集典型亜群集や、スズメノテッポウタガラシ群集で区分される。乾田地帯は、富士市西部の沖積低地に広がっている。乾田やナン果樹園などの沖積低地では、夏緑広葉樹が優占するムクノキーエノキ群集が潜在立地と判定される。海拔20～250mの丘陵地域ではヤブコウジースダジイ群集が発達する。岩本山、鶺鴒ヶ淵神明宮などに残存林がみられる。ヤブコウジースダジイ群集潜在自然植生域は現在開発され、住宅地、畑耕作地、茶畑、ササクサーコナラ群落の雑木林、ヒノキ植林などに利用されている。愛鷹山地では、海拔300mまで登っている。これは地史的に富士山よりも愛鷹山地が古いため、常緑広葉樹林の分布がのびている例とも考えられる。同様な地史的なちがいは、間門町浅間神社や愛鷹山麓にイズセンリョウ、ホソバカナワラビが分布し、ホソバカナワラビースダジイ群集が、大きな気候の差のない地域にみられることより、裏付けされる。ホソバカナワラビースダジイ群集は富士川沿岸の水神社とその周辺に潜在自然植生立地がみとめられる。

海拔250～600mには、シキミーモミ群集が分布すると考えられる。愛鷹山では常緑広葉樹の限界が850mまでみられ、シキミーモミ群集が850mまであがることが示される。この地域は、ほとんどがスギ、ヒノキ植林におきかえられているため、今宮神社の残存林と、植林内の常緑広葉樹の生育状態により判定された。富士山や愛鷹山から流れ出る渓谷ぞいにはイロハモミジケヤキ群集やコクサギーケヤキ群集の立地が、崩壊地にはタマアジサイーフサザクラ群集潜在自然植生域がみられる。丸火自然公園は溶岩流上にあり、海拔650mのシキミーモミ群集境界域に位置するが、まだ立地が貧弱で不安定なところもあり、クリーコナラ群集が、現在の潜在自然植生と判定される。

b. ブナクラス域

Fagetea crenatae-Gebiet

富士市の夏緑広葉樹林帯：ブナクラス域は富士山腹で標高 600～1,700m，愛鷹山地で標高 850～1,505m（分布上限）の範囲に広がっている。古い時代の火山であり，侵食が進んでいる愛鷹山地と現在なお活動を続けている火山である富士山の山腹では地質条件が異なり，ブナクラス域の潜在自然植生の分布域は大きく異なっている。

i) 富士山腹地区

富士山腹地区は新しい溶岩流が風化されずその上にうすく火山灰が覆った状態である。潜在自然植生およびそのフロラは愛鷹山地と比較して未発達と判定される。

富士山腹地区の標高600～850mはブナクラス域下部にあたりヤブムラサキモミ群落の潜在自然植生域と判定される。ヤブムラサキモミ群落は宮脇・大場・村瀬（1964）によって丹沢から報告された植生単位であり，相観的にはモミシンデ林である。この区域の現存植生は一面のスギ，ヒノキ植林であり残存自然林分は今回の調査では認められていない。ヤブツバキクラスの種はほとんど分布せず，またブナの下限より下に位置するこの区域はより下部のモミカンシ林であるシキミモミ群集との連続性からモミと夏緑広葉樹の混生林としてヤブムラサキモミ群落と判定された。ヤブムラサキモミ群落域で最も新しい溶岩流である大淵丸尾溶岩流上は土壌が未発達であり，より乾性地に発達するクリーコナラ群集潜在自然植生域と判定された。クリーコナラ群集は現在丸火公園にみられ，人為的影響が加えられているものの，ほぼ潜在自然植生と同質の林分と結論された。またヤブムラサキモミ群落域の谷部は溪谷林であるイワボタンーシオジ群集潜在自然植生域と判定される。

ヤブムラサキモミ群落域の上部はブナの残存木，残存林分がみられ，富士山腹に発達するブナの自然林であるシコクスミレーブナ群落の潜在自然植生域と判定される。シコクスミレーブナ群落域は850～1,500mの広い範囲を占めている。この地域は不透水性の溶岩流上に火山灰が堆積し立地は比較的湿潤である。そのため，この地域に発達するブナ林は愛鷹山地のブナ林であるヤマボウシブナ群集に生育するツツジ科植物などを欠き，特異な種類組成を示している。シコクスミレーブナ群落域の谷部はイワボタンーシオジ群集の溪谷林で占められている。海拔 650m 以上はイワボタンーシオジ群集の潜在自然植生域と判定される。また土壌が未発達な大淵丸尾溶岩流上はヤブムラサキモミ群落域のクリーコナラ群集と対応して，クリーミズナラ群集の潜在自然植生域と判定される。この溶岩流上の植生は遠山（1965 a）により報告されている。クリーミズナラ群集には溶岩流上に多く出現するヒノキ，ハリモミ，トウヒ，コメツガなどの針葉樹を伴うものと考えられ，林床にはアセビ，リョウブ，コキンレイカなどを伴うと推定される。

シコクスミレーブナ群落域の上部は，より上部のコケモモートウヒクラスの種群を一部含むカニコウモリーウラジロモミ群集域と判定される。カニコウモリーウラジロモミ群集は自然林分が残存している。優占種はウラジロモミであるが林内にはブナクラスの多数の夏緑広葉樹で占められており，種組成的にはブナクラスの植生に位置づけされる。カニコウモリーウラジロモミ群集の林床にはカニコウモリ，トウヒなどのコケモモートウヒクラスの種群が混生してきている。

ii) 愛鷹山地

愛鷹山地は地質が比較的古く、侵食が進んでおり、土壌条件が良く、さらに海洋性気候の影響を弱く受け、ヤブツバキクラス域は約 850m 付近まで上昇する。そのためブナ林の下限とはほぼ接し、富士山腹のような成帯的なモミシデ林の分布域はみられない。約 850m から広がるブナ林はツツジ科植物を多く伴うヤマボウシブナ群集と判定される。ヤマボウシブナ群集は部分的には 800m 付近から残存林分がみられ、現在も愛鷹山地には稜線部を中心に広面積の林分が発達している。ヤマボウシブナ群集域の溪谷部、崩積土上には土地の終局相としてサワダツクマンデ群落、さらに不安定な河辺にはタマアジサイフサザクラ群集が潜在自然植生として生育する。これらの植生はほぼ自然性の林分が一部ではあるが残されている。ヤマボウシブナ群集域の稜線部、風衝地はほぼ現存植生と対応してアシタカツジトウゴクミツバツツジ群落にまとめられる風衝低木林の潜在自然植生域と判定される。

ヤマボウシブナ群集は標高約 1,330m を境にして雲霧帯のブナ林であるオオモミジガサーブ

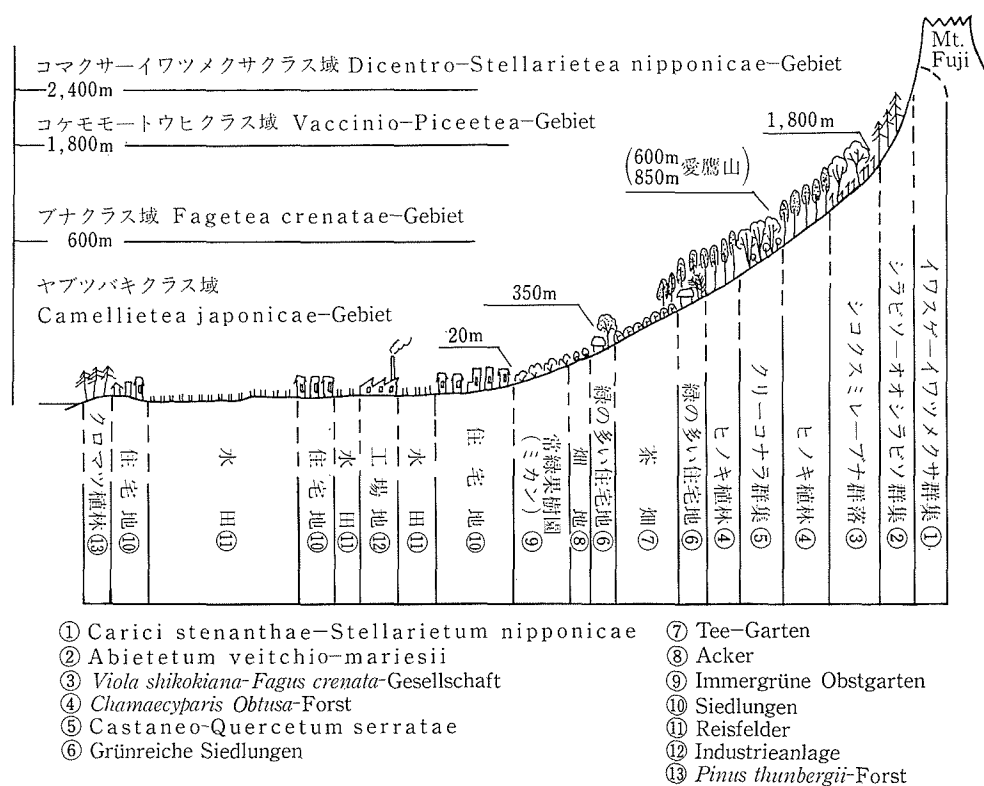


Fig. 46 富士市を垂直的にみた現存植生の配分図。

Vertikales Verteilungsschema der realen Vegetation in der Stadt Fuji.

ナ群集に移行する。オオモミジガサーブナ群集は、稜線にありながらも雲霧の影響により湿潤な立地となった地域に発達するブナ林であり丹沢（宮脇・大場・村瀬1964）で報告されている。ヤマボウシーブナ群集域の上部からオオモミジガサーブナ群集域は現在も残存自然林が広がっており、潜在自然植生が顕在化されている。オオモミジガサーブナ群集域の風衝尾根地はヤマボウシーブナ群集域と共通してアシタカツジートウゴクミツバツツジ群落域が、現存植生そして同時に潜在自然植生として帯状に広がっている。また鋸岳周辺の断崖部にはオノエランーハコネコメツツジ群集にまとめられる矮性のツツジ科低木林が現存植生、潜在自然植生ともに生育している。

c. コケモートウヒクラス域（亜高山帯）

Vaccinio-Piceetea-Gebiet (Subalpine-Stufe)

富士市におけるコケモートウヒクラス域は海拔約1,800m から始まる。これ以下も常緑針葉樹のウラジロモミ、岩角地ではヒノキの優占する常緑針葉樹林が海拔約1,450m まで降りているが種組成的にブナクラスの種群が多く、ブナクラス域；夏緑広葉樹林帯に位置づけられている。

富士市のコケモートウヒクラス域は太平洋側の寡雪地帯に位置し、新期火山の崩壊性に富んだスコリア質火山放出堆積物を基盤においている。現存する植生の気候的極盛相はシラビソ、オ

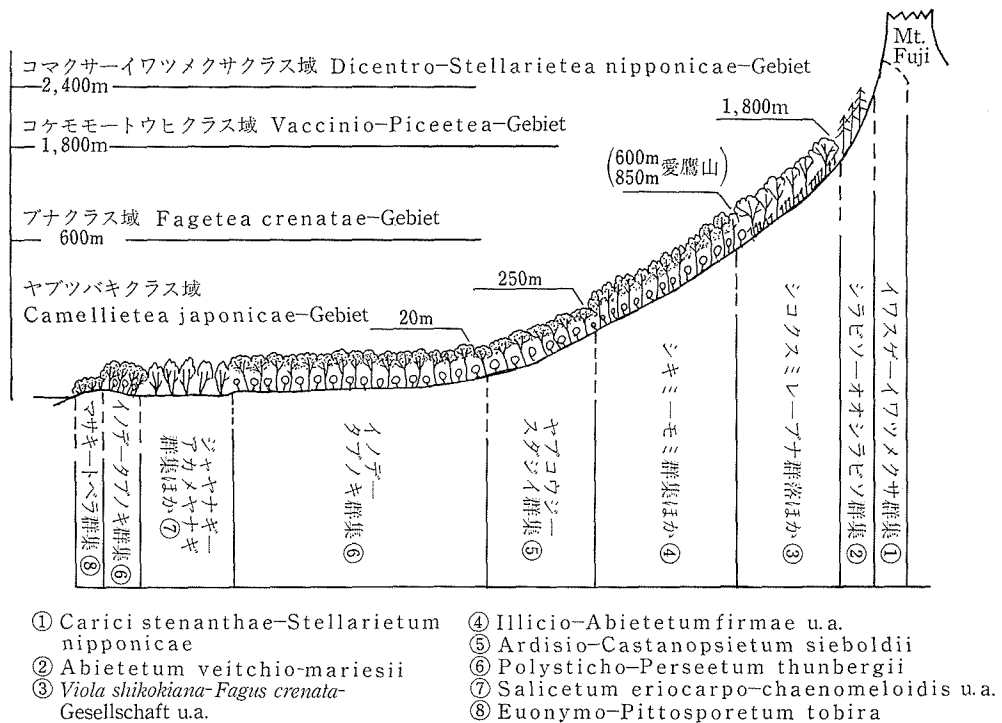


Fig. 47 富士を垂直的にみた潜在自然植生の配分図。

Vertikales Verteilungsschema der potentiellen natürlichen Vegetation in der Stadt Fuji.

オシラビソ、トウヒの優占するシラビソーオオシラビソ群集であるが、もっとも新しい寄生火山放出物の堆積した、あるいは森林限界付近のハイマツ帯におきかわる立地ではカラマツ優占林（コケモモ亜群集）が広がっている。また雪崩の多い急傾斜地には持続性の高いヤハズヒゴタイーダケカンバ群集の夏緑広葉樹林で指標されている。

d. コマクサーイワツメクサクラス域（高山荒原帯）

Dicentro-Stellarietea nipponicae-Gebiet

亜高山帯の森林限界を越えると、低温、風衝、砂礫の移動など厳しい環境規制がさらに強まり、単生するカラマツ、ミヤマヤナギも地這性になり、オンタデ、ミヤマオトコヨモギ、イワスゲなど多年生草本植物の生育する高山荒原にかわっていく。

コマクサーイワツメクサクラス域には新富士火山のスコリアを多く含む火山放出物が砂礫状に厚く堆積している。礫の大きさが1～10cm程度の移動しやすい立地に優占するオンタデは根系を約2m地中に発達させ、またイワツメクサやイワスゲは移動しにくい巨礫や溶岩上に生育している。冬季の少ない積雪も風衝地では吹きとばされ、極端な低温にさらされる立地も少なくない。

コマクサーイワツメクサクラス域は海拔約3,240mまで続き、それ以上ではコケ類主体の植生域に移行する。

2 富士市の潜在自然植生図凡例解説

Legende der Karte der potentiellen natürlichen Vegetation in der Stadt Fuji

a. ヤブツバキクラス域

Camellietea japonicae- Gebiet

1) マサキートベラ群集

Euonymo-Pittosporetum tobira



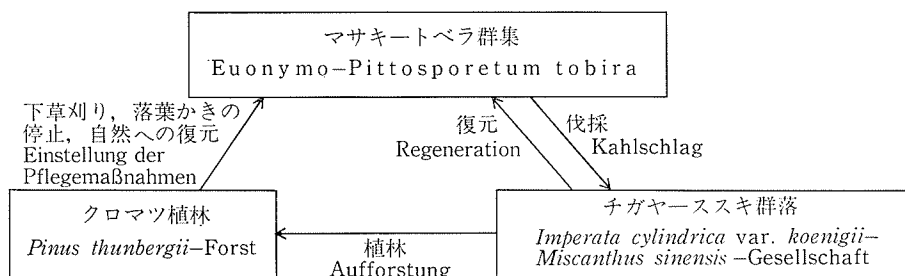
Fig. 48 富士市宮島新浜昆比羅神社に残されているマサキートベラ群集（海拔 10m）。

亜高木層にヤブニッケイが優占している植分。

Bestand des Euonymo-Pittosporetum tobira mit dominierender *Cinnamomum japonicum* in der Baumschicht (10m ü. NN, Kompira-Shintoistischer Schrein Miyajima, Nihama, Stadt Fuji).

- (1) 群落の相観：マサキ、トベラ、ヤブニッケイなどが優占する低木林，または亜高木林。時にクロマツが高木層にぬぎんでて，3層群落を形成する。
- (2) 標徴種および区分種：マサキ，トベラ，マルバノシャリンバイ，ツワブキ，オニヤブソテツ。

- (3) a. 優占種：トベラ、マルバノジャリンバイ、ヤブニッケイ、モチノキ、ヤブツバキ、時にクロマツ。
- b. 多く出現する植物：マサキ、トベラ、マルバノジャリンバイ、マルバグミ、ヤブニッケイ、ツワブキ。
- (4) 主な代償植生：クロマツ植林、チガヤ群落(砂丘)、イソギクハチジョウススキ群集(断崖地)。
- (5) 富士市における主な分布地：安定砂丘地。
- (6) 群落環(砂丘の場合)



- (7) 立地条件：多くの場合、海岸断崖地に風衝低木林として発達する。海岸砂丘では、飛砂が定止した安定砂丘の前縁に発達する。
- (8) 群落域の適性植栽種
- 潜在自然植生構成種：マサキ、トベラ、マルバノジャリンバイ、ヤブニッケイ、モチノキ、ヤブツバキ、サザンカ、クロマツ、ツワブキ、オニヤブソテツ、ウバメガシ、ハマヒサカキ。
- 代償植生構成種：オオバイボタ、テリハノイバラ、チガヤ。
- (9) 総和群集
- ウリカワーコナギ総和群集。
- (10) 土地利用：クロマツ植林。
- (11) 総合立地評価：マサキトベラ群集の立地は、乾燥しやすく、貧養で、強い潮風が当たる地域である。したがって、一度破壊されると自然に復元する力はきわめて弱い。大規模な造成などを行わず、現地形のまま、防風林として利用することが望ましい。

2) イノデータブノキ群集

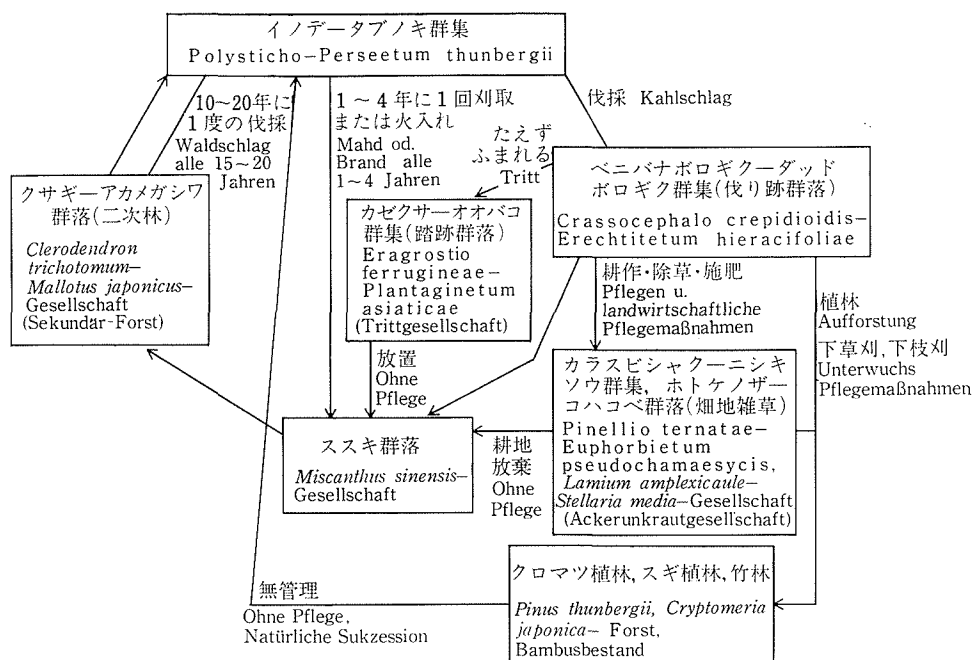
Polysticho-Perseetum thunbergii

Fig. 49 イノデータブノキ群集 (沼田新田, 海拔 7.6m)。

Polysticho-Perseetum thunbergii (Numata-shinden, 7.6m ü. NN).

- (1) 群落の相観：タブノキあるいはケヤキが優占した常緑広葉樹高木林。
- (2) 標徴種および区分種：イノデ，タブノキ，キチジョウソウ，エノキ，ケヤキ，ムクノキ。
- (3) a. 優占種：ケヤキ，ムクノキ，タブノキ。
b. 多く出現する植物：タブノキ，ヤブツバキ，アオキ，ヤブニッケイ，ヤツデ，クロガネモチ，マサキ，キチジョウソウ，（イノデ）。
- (4) 主な代償植生：スギ，ヒノキ植林，クロマツ植林，ホトケノザーコハコベ群落，クサイーオオバコ群落，ギンゴケツメクサ群集（クサギーアカメガシワ群落，ススキ群落）。
- (5) 富士市における主な分布地：海拔22m以下の沖積地，後背砂丘。

(6) 群落環



(7) 立地条件：沖積地などの地下水のやや高い，土壤湿度のよい排水良好な立地。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種：タブノキ，クスノキ，クロガネモチ，スダジイ，ヤブニッケイ，シロダモ，モッコク，（アラカシ，シラカシ），マサキ，トベラ，マルバノジャリンバイ，ヒメユズリハ，ケヤキ，ムクノキ，エノキ，クチナン，ウバメガシ，イヌツゲ，イヌマキ，ヤブツバキ，サザンカ，カンツバキ。

代償植生構成種：エゴノキ，ヤマザクラ，オオシマザクラ，アカメガシワ，イイギリ，ハゼ，センダン，ミズキ，カンヒザクラ，カンザクラ，コデマリ。

(9) 総和群集

ウリカワーコナギ総和群集のイノデータブノキ総和亜群集。

(10) 土地利用：クロマツ植林，スギ植林，畑耕作地，住宅地，工場地，果樹園，水田。

(11) 総合立地評価：立地が安定し，また肥沃地が多く，多方面に土地利用が行われやすい。表層土はできるだけ確保し，失った表層土は復元し，自然植生または，それに近い植生を形成して環境保全林を創造することが望まれる地域である。

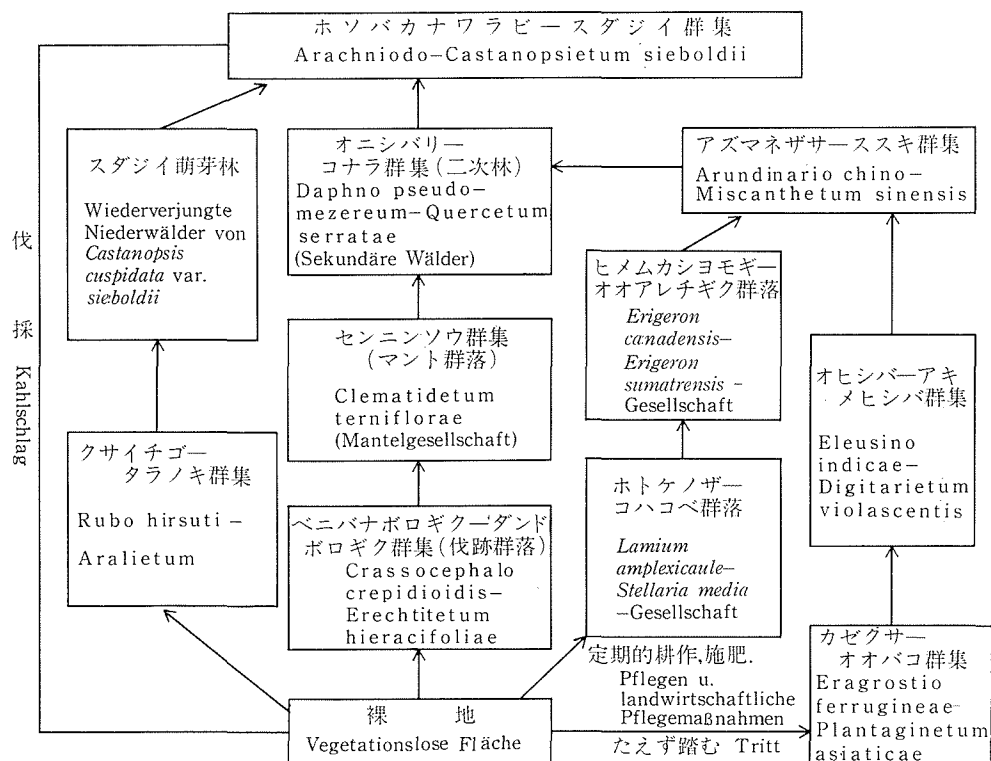
3) ホソバカナワラビースダジイ群集

Arachniodo-Castanopsietum sieboldii

Fig. 50 ホソバカナワラビースダジイ群集の相観（水神社，海拔 23m）。
Physiognomie des Arachniodo-Castanopsietum sieboldii
 (Shintoschrein Suijinja 23m ü. NN).

- (1) 群落の相観：タブノキ優占林，スダジイ優占林，あるいはタブノキ，スダジイ混交林をつくることが多い。常緑広葉樹高木林。
- (2) 標徴種および区分種：イズセンリョウ，ホソバカナワラビ，（タイミンタチバナ）。
- (3) a. 優占種：タブノキ，スダジイあるいはホルトノキ。
 b. 多く出現する植物：タブノキ，スダジイ，クロガネモチ，ヤブニッケイ，モチノキ，ヒサカキ，ヤブツバキ，イズセンリョウ，ヤツデ，トベラ，イヌガヤ，ベニシダ，オオバジャノヒゲ，ヤブラン，ヤブコウジ，テイカカズラ，ツルコウジ，ナガバジャノヒゲ，イヌマキ，マンリョウ。
- (4) 主な代償植生：スダジイ萌芽林，スギ，ヒノキ植林，果樹園，ホトケノザーコハコベ群落，ハゼーカラスザンショウ群落，アズマネザサーススキ群集，ベニバナボロギクーダンドボロギク群集，カゼクサーオオバコ群集，シバ群落。
- (5) 富士市における主な分布地：水神社，愛鷹山麓南斜面谷部。

(6) 群落環



(7) 立地条件: 排水のよい良質土壌堆積地で, 地史的に古い地域。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種: タブノキ, スダジイ, クロガネモチ, ホルトノキ, ヤマモモ, クチナン,
ヤブツバキ, カンツバキ, サザンカ, シロダモ, ヤブニッケイ, アオキ, ヤツデ, ヒサカキ,
イヌツゲ, トベラ, マサキ, マルバノシャリンバイ, ウバメガシ, ジンチョウゲ。

代償植生構成種: コナラ, エゴノキ, イヌザクラ, ヤマザクラ, オオシマザクラ, カンヒザク
ラ, カンザクラ, カラスザンショウ, ハゼ, アカメガシワ。

(9) 総和群集

ヤブコウジースダジイ総和群集。

(10) 土地利用: 神社の社叢林として残されている他に, 果樹園, 畑耕作地など生産緑地としての
利用が広い。

(11) 総合立地評価

自然環境維持と土壌侵食防止および保水作用を保つため, 大規模な樹林皆伐や土地造成は避
ける。

4) ヤブコウジースダジイ群集

Ardisio-Castanopsietum sieboldii

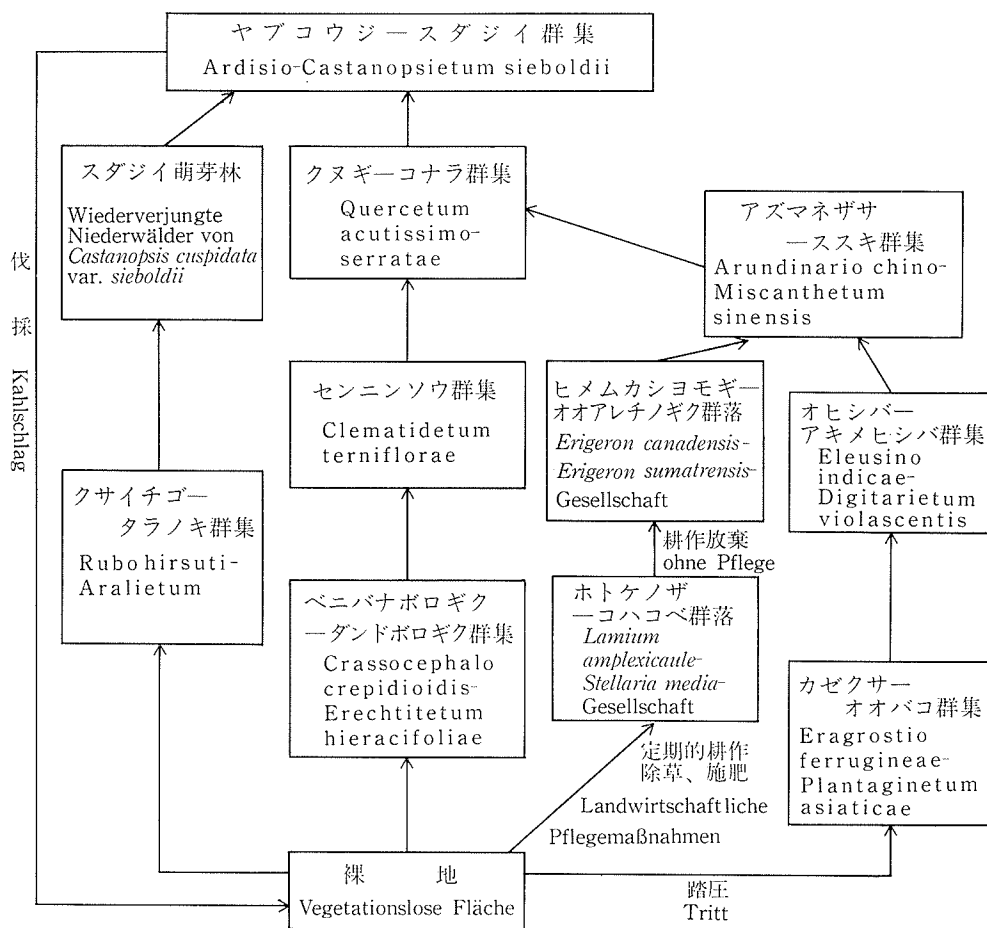
Fig. 51 富士市にわずかに残されているヤブコウジースダジイ群集
スダジイの胸高直径1.4mある（間門町浅間神社上，150m）。

Heute nur selten erhaltener Bestand von *Ardisio-Castanopsietum sieboldii* mit großem Baum der *Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* von 1.4m in DBH (Shintoistischer Schrein Sengenjinja 150m ü. NN, Makado-cho).

- (1) 群落の相観：スダジイ優占林。時にアカガシが混生する。
- (2) 標徴種および区分種：スダジイ，ヒイラギ，アリドオシ，アラカシ，ウラジロガシ，ジュズネノキ，モチノキ。
- (3) a. 優占種：スダジイ。
b. 多く出現する植物：スダジイ，タブノキ，ヤブツバキ，アオキ，アラカシ，ヤブラン，ツルグミ，テイカカズラ，ヤブコウジ，ベニシダ，マンリョウ，ビナンカズラ，ナガバジャノヒゲ，イヌツゲ，ヒメカンスゲ，ヤマイトチシダ。
- (4) 主な代償植生：スダジイ萌芽林，クヌギーコナラ群集，スギ，ヒノキ植林，茶畑，カラスビシャクーニシキソウ群集，クサコアカソーフジテンニンソウ群落，カゼクサーオオバコ群集，ベニバナボロギクーダンドボロギク群集。

(5) 富士市における主な分布地：海拔22m～250m（愛鷹山では350m）の斜面。

(6) 群落環



(7) 立地条件：排水のよい乾燥立地。黄褐色森林土。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種：スダジイ、タブノキ、アラカン、シラカン、アカガン、ウラジロガン、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、アオキ、ヒサカキ、チャノキ、サカキ。

代償植生構成種：コナラ、クヌギ、ヤマザクラ、エゴノキ、カマツカ、サワフタギ。

(9) 総和群集

ヤブコウジースダジイ総和群集。

(10) 土地利用：雑木林、スギ、ヒノキ植林、畑耕作地、住宅地、公園。

(11) 総合立地評価：富士山麓南斜面は、農耕地や林地としての利用が大きい。残存林分は急斜面や尾根地にみられる。したがって残存林分の厳重な保護による土壌の保水、侵食防止、崩壊防止、防風作用を促進させる。

5) シキミーモミ群集

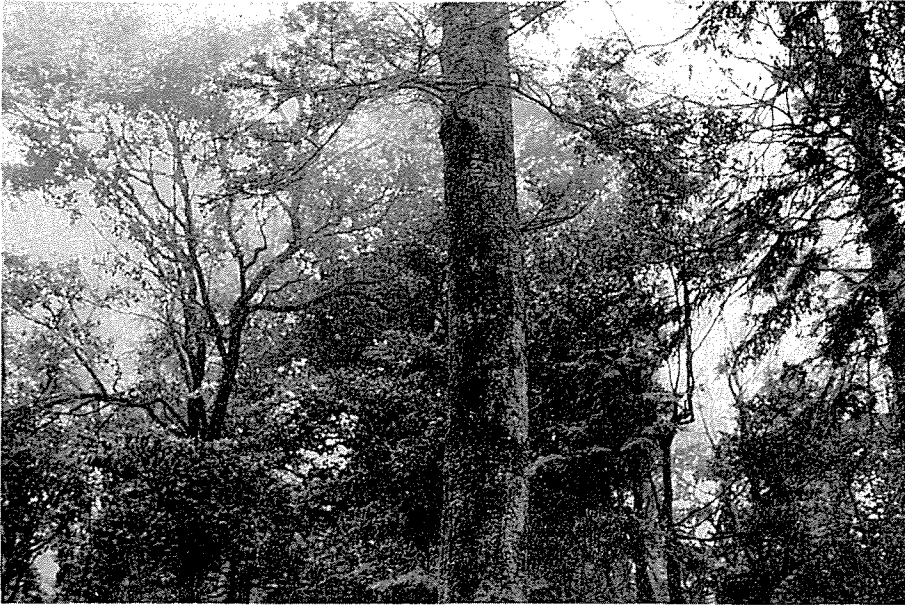
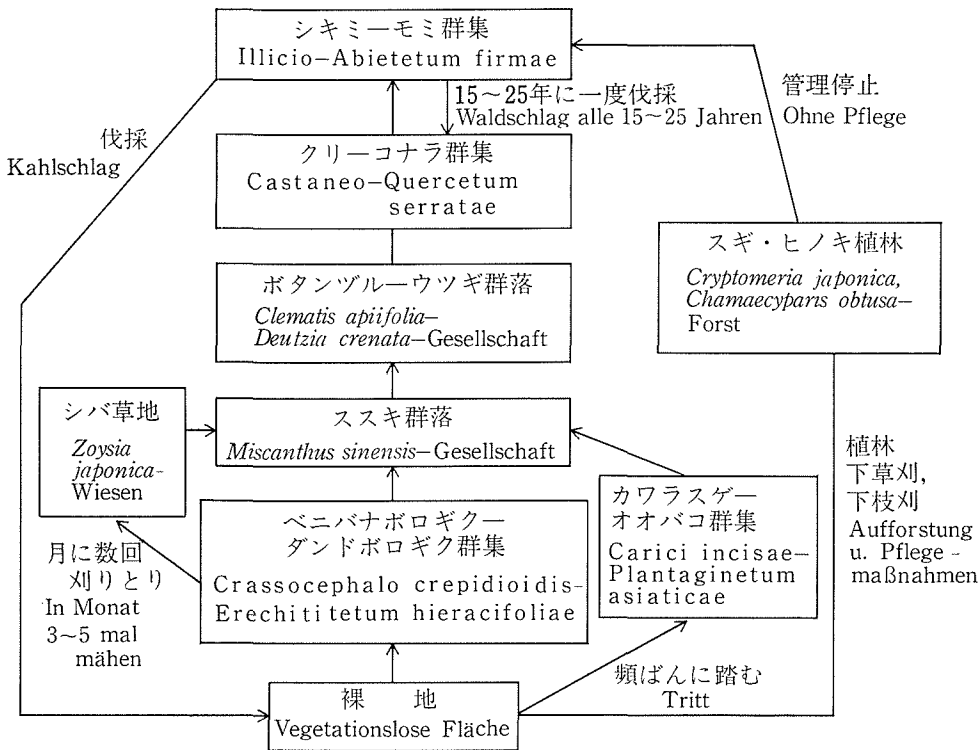
Illicio-Abietetum firmae

Fig. 52 富士市には現存する植生が現在ほとんどみられないシキミーモミ群集の断片的植分（富士市今宮浅間神社，海拔 250m）。
Im Stadtbereich Fuji ist heute seltener Bestand des *Illicio-Abietetum firmae* (Imamiya 250m ü. NN).

- (1) 群落の相観：モミ，アカガシ，ウラジロガシが優占する常緑高木林。
- (2) 標徴種および区分種：モミ，シキミ，ミヤマシキミ，アセビ，カヤ。
- (3) a. 優占種：モミ，アカガシ，ウラジロガシ。
b. 多く出現する植物：モミ，ウラジロガシ，アカガシ，シキミ，サカキ，ミヤマシキミ，アセビ，ヤブツバキ，ヒサカキ，アオキ，ネズミモチ，ベニシダ，キッコウハグマ。
- (4) 主な代償植生：クリーコナラ群集，スギ，ヒノキ植林，ボタンヅル—ウツギ群落，カワラスゲ—オオバコ群集，ベニバナボロギク—ダンドボロギク群集。
- (5) 富士市における主な分布地：海拔250～570mの富士山南斜面および海拔350～650mの愛鷹山南斜面。愛鷹山では一部ヤマボウシ—ブナ群集と逆転している。

(6) 群落環



(7) 立地条件：海拔570～800mに発達する。低温地域に発達するが、冬の寒さはブナ林が発達するほど低くない。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種：アカガシ、ウラジロガシ、シラカシ、モミ、ヤブツバキ、ヒサカキ、シキミ、ミヤマシキミ、アセビ。

代償植生：コナラ、クリ、リュウブ、カマツカ、ネジキ、ウリカエデ。

(9) 総和群集

クリーコナラ総和群集。

(10) 土地利用：雑木林、スギ、ヒノキ植林、ゴルフ場。

(11) 総合立地評価：

シキミーモミ群集は、ヤブツバキクラスとブナクラスの境界に位置している。現在そのほとんどが植林に利用されている。山地の立地保全林として、復元が望まれる。

6) イロハモミジーケヤキ群集およびコクサギーケヤキ群集

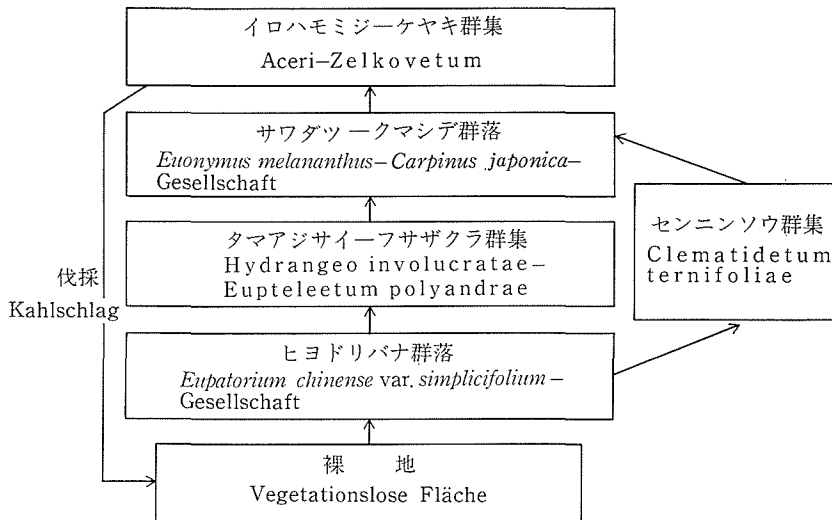
Aceri-Zelkovetum und Orixo Zelkovetum serratae

Fig. 53 富士溶岩流中の渓谷に発達したイロハモミジーケヤキ群集
(鵜無ヶ淵町赤淵川, 海拔 210m)。

Entlang des Tals in einem alten Lavastrom des Fuji entwickeltes *Aceri-Zelkovetum* (Fluß Akafuchi-gawa, Unashigabuchi-cho 210m ü. NN).

- (1) 群落の相観：イロハモミジーケヤキ群集は、ケヤキ、イロハモミジが優占する夏緑広葉樹、常緑広葉樹混生林。コクサギーケヤキ群集はケヤキが優占し、相観はイロハモミジーケヤキ群集に似ているが、春季に地中植物が林床を花で埋める。
- (2) 標徴種および区分種：イロハモミジ、ケヤキ、イヌガヤ、ヤマブキ（イロハモミジーケヤキ群集）、ニリンソウ、コクサギ、ヤマブキシソウ、レンブクソウ（コクサギーケヤキ群集）。
- (3) a. 優占種：ケヤキ、イロハモミジ。
b. 多く出現する植物：ケヤキ（共通）、イロハモミジ、ウラジロガシ、シロダモ、アオキ、ヤブツバキ、ヒサカキ（イロハモミジーケヤキ群集）、コクサギ、アブラチャン、サイハイラン、ヤブデマリ、ヤマブキシソウ、イチリンソウ、ジロボウエンゴサク（コクサギーケヤキ群集）。
- (4) 主な代償植生：タマアジサイーフサザクラ群集、スギ植林、モウソウチク林、ボタンヅルウツギ群落。
- (5) 富士市における主な分布地：富士山愛鷹山地南斜面の渓谷。

(6) 群落環



(7) 立地条件：山地常緑広葉樹林域の溪谷斜面にイロハモミジーケヤキ群集が発達する。コクサギーケヤキ群集は、火山灰が堆積した谷部のゆるやかな傾斜地。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種：(())はコクサギーケヤキ群集域にのみ適性，他は共通)

高木層*：イロハモミジ，ケヤキ，ウラジロガシ，クマシデ。

低木層：ヒイラギ，シロダモ，アオキ，イヌガヤ，ミツバウツギ，(コクサギ)，アブラチャン，ヤブデマリ。

草本層：オオバジャノヒゲ，オオバノイノモトソウ，ヤブソテツ，カブダチジャノヒゲ，
(イチリンソウ，ニリンソウ，サイハイラン，ヤマブキシソウ，セントウソウ)。

代償植生構成種

高木層：イヌシデ，ミズキ，アカシデ。

低木層：ヤマブキ，アブラチャン，ミツバウツギ，ニワトコ，イボタノキ。

草本層：シャガ，ヤマカモジグサ，イトスゲ，ヤブカンゾウ。

(9) 総和群集

ヤブコウジースダジイ総和群集，クリーコナラ総和群集。

(10) 土地利用：スギ植林，竹林，畑耕作地。

(11) 総合立地評価

環境保全林として，残存林分の保護と，積極的復元を図る。水源，水質保全のために，林内への不用物投棄はさける。

* 高木層は将来，高木層にまで生長する樹木の意

7) ジャヤナギーアカメヤナギ群集他

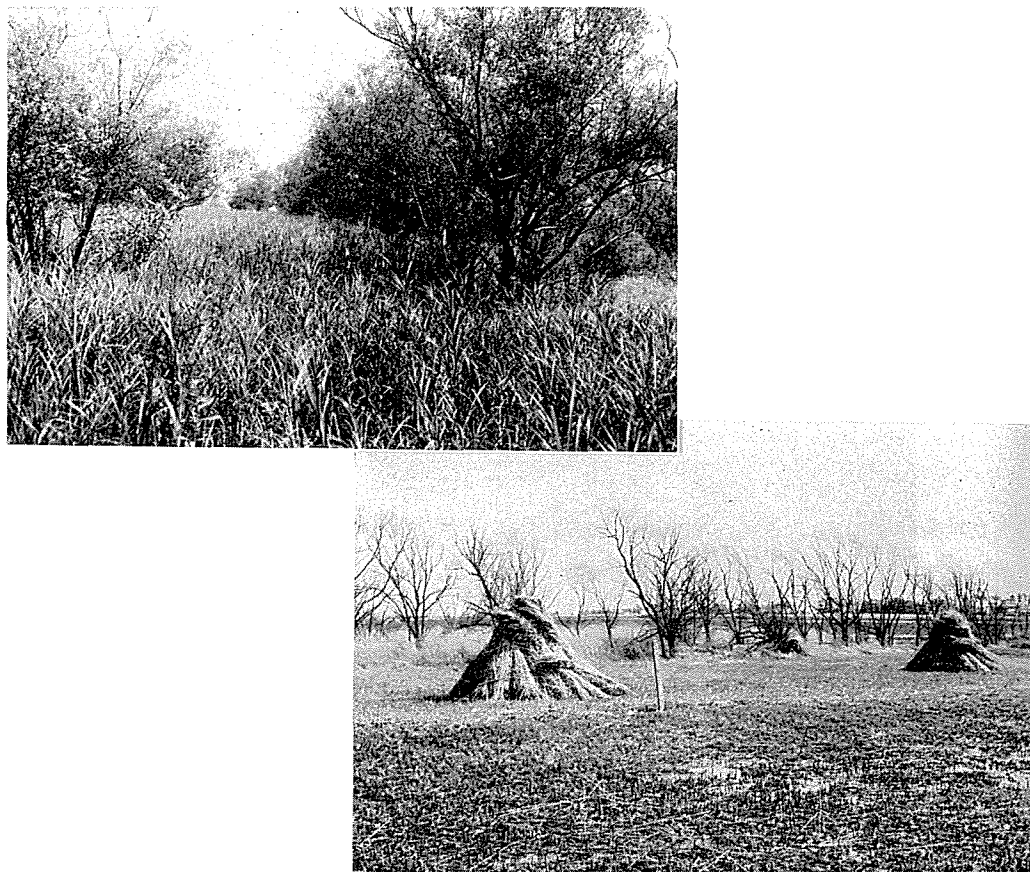
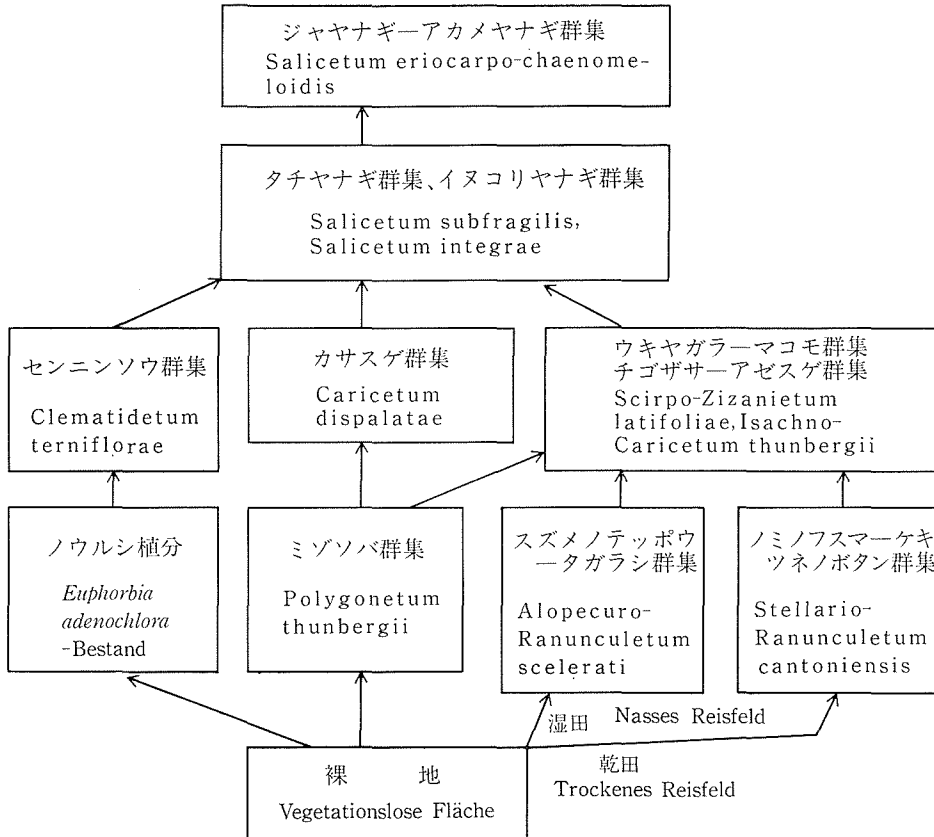
Salicetum eriocarpo-chaenomeloidites u. a.

Fig. 54 夏季のヤナギ群落（上）と冬季のヤナギ群落（下）（浮島ヶ原 2.7m）
 Der Sommeraspekt (oben) und der Winteraspekt (unten) der *Salix* spp.-
 Gesellschaft im Ukishimagahara-Moor (2.7m ü. NN).

- (1) 群落の相観：夏緑広葉樹高木林。林床の湿性草本植物と2層群落を形成している。
- (2) 標徴種および区分種：タチヤナギ，イヌコリヤナギ，ネコヤナギ，オノエヤナギ，コゴメヤナギ，ジャヤナギ，アカメヤナギ。
- (3) a. 優占種：ヤナギ類。
 b. 多く出現する植物：ヤナギ類，ギンギン，ヨシ。
- (4) 主な代償植生：ヨシ群落，オギ群集，カモジグサーギンギン群団，ミゾソバ群集，スズメノテッポウタガラシ群集，ノミノフスマーケキツネノボタン群集。
- (5) 富士市における主な分布地：富士市南東部の沖積低地。

(6) 群落環



(7) 立地条件：冠水が比較的少ない沖積地。地下水位が高い。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：カワヤナギ、コゴメヤナギ、アカメヤナギ、ジャヤナギ、オノエヤナギ。

低木層：タチヤナギ、イヌコリヤナギ、ネコヤナギ。

草本層：クサヨシ、カサスゲ、アゼスゲ、オオカサスゲ、ウキヤガラ。

代償植生

低木層：ノイバラ、コリヤナギ。

草本層：ハイコスカグサ、クサヨシ、セリ、タガラシ、ムツオレグサ、カズノコグサ。

(9) 総和群集

ウリカワーコナギ総和群集のタチヤナギ総和亜群集。

(10) 土地利用：水田，屋外レクリエーション地。

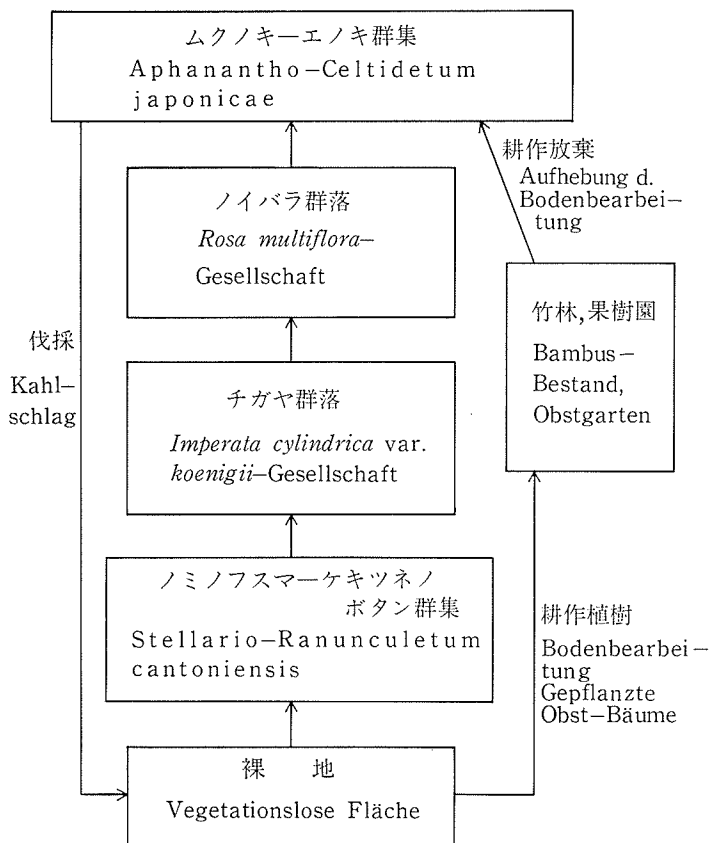
(11) 総合立地評価

洪水や増水の際の遊水池。環境保全林，または水質浄化機能をもつ植生として重要。

8) ムクノキーエノキ群集

Aphanantho-Celtidetum japonicae

- (1) 群落の相観：夏緑広葉樹高木林。
- (2) 標徴種および区分種：ムクノキ，エノキ。
- (3) a. 優占種：ムクノキ，エノキ，アオキ。
- b. 多く出現する植物：ムクノキ，エノキ，アラカシ，アオキ，シロダモ，キチジョウソウ。
- (4) 主な代償植生：ノミノフスマーケキツネノボタン群集，ホトケノザーコハコベ群落，ナガハギンギンーギンギン群集，果樹園。
- (5) 富士市における主な分布地：富士市東部の砂質地の乾田，果樹園地。
- (6) 群落環



(7) 立地条件：年に数回冠水する砂質立地。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：エノキ，ムクノキ，ケヤキ，アラカシ。

低木層：シロダモ，アオキ。

草本層：オオバジャノヒゲ，キチジョウソウ。

代償植生

高木層：クヌギ，ミズキ。

低木層：ノイバラ，イボタノキ，クサギ，ヌルデ，ゴマギ。

草本層：エナンヒゴクサ，ヨモギ，ヨメナ，セイトカアワダチソウ，メダケ，オギ。

(9) 総和群集

ウリカワーコナギ総和群集のノイデータブノキ総和亜群集。

(10) 土地利用：生産緑地（畑，果樹園，水田）。

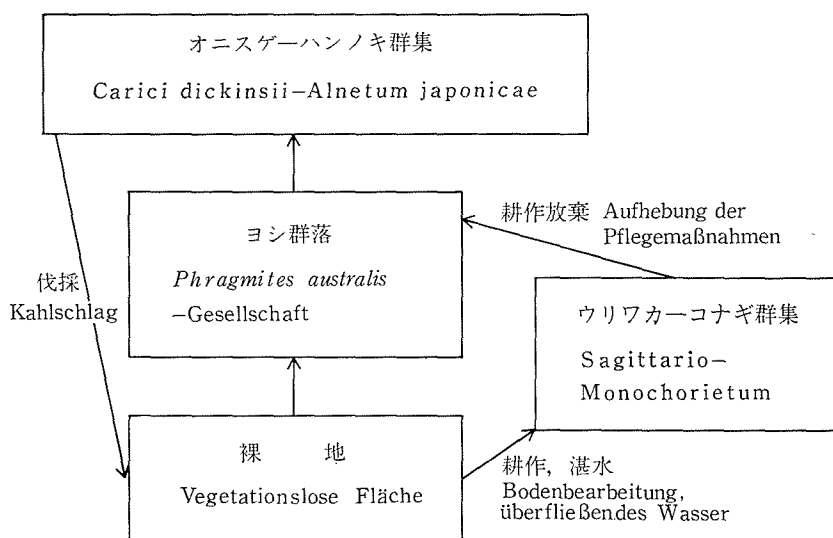
(11) 総合立地評価

肥沃な河川堆積物からなる立地は，今日，護岸工事により水害が防止されていることもあり，生産性の高い農耕地となっている。平坦部も多く，都市化が進行しやすいため，計画的な土地利用が行政的に進められるべきである。

9) オニスゲーハンノキ群集

Carici dickinsii-Alnetum japonicae

- (1) 群落の相観：夏緑広葉樹高木林。
 (2) 標徴種および区分種：ハンノキ，イボタノキ，コムラサキ，オニスゲ，カサスゲ。
 (3) a. 優占種：ハンノキ，オニスゲ，カサスゲ。
 b. 多く出現する植物：ハンノキ，イボタノキ，ウメモドキ，オニスゲ，コバノギボウシ。
 (4) 主な代償植生：ウリカワーコナギ群集，ヨシ群落。
 (5) 富士市における主な分布地：富士市西北部の水田地帯。
 (6) 群落環



- (7) 立地条件：谷戸状の湿地。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：ハンノキ，ヤナギ類，ネムノキ。

低木層：イボタノキ，ウメモドキ，コムラサキ。

草本層：オニスゲ，コバノギボウシ，シラコスゲ，カサスゲ，オニナルコスゲ，ウキヤガラ。

代償植生構成種

高木層：クスギ，ヤシャブシ。

低木層：メギ，イヌコリヤナギ，タチヤナギ。

草本層：アゼスゲ，トダシバ，ヨシ，ミゾソバ，クサヨシ，チゴザサ，チダケサシ。

(9) 総和群集

ウリカワーコナギ総和群集のタチヤナギ総和亜群集。

(10) 土地利用：水田耕作地。

(11) 総合立地評価

地下水が高く，弱い植生域であるため，大規模な開発を行なわないことが望ましい。

10) ハマボウフウクラス

Glehnieta littoralis

Fig. 55 砂丘地に残された数少ない自然植生—コウボウムギ群落（鮫島 2 m）。

In der Stadt Fuji seltene heute vorkommende *Carex kobomugi*-Gesellschaft auf den Küsten-Dünen (Samejima 2m ü. NN).

(1) 群落の相観

多年生草本植物群落。

(2) 標徴種および区分種

コウボウムギ，ハマヒルガオ，ハマニガナ，ケカモノハシ，ハマグルマ。

(3) a. 優占種：コウボウムギ，ケカモノハシ，ハマヒルガオ。

b. 多く出現する植物：ハマヒルガオ，コウボウムギ，ハマニガナ。

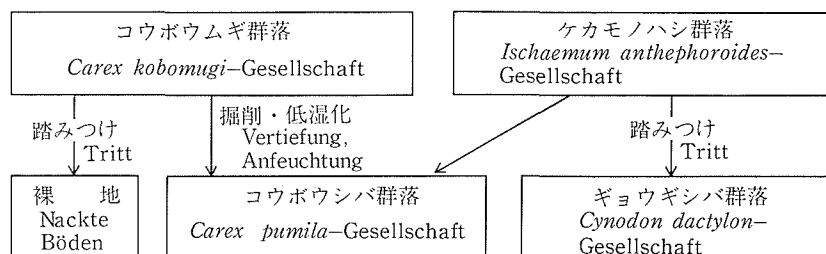
(4) 主な代償植生

コウボウシバ群落，ギョウギンバ群落。

(5) 富士市における主な分布地

鮫島前田新田。

(6) 群落環



(7) 立地条件

海岸砂丘の不安定地に発達する。土壌表層は強い風衝，日照，乾燥を受け，また表砂は風のため流動する。植物体は海水の飛沫をしばしば受ける。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

コウボウムギ，ハマヒルガオ，ケカモノハシ。

代償植生構成種

コウボウシバ，ギョウギシバ，コマツヨイ，チガヤ。

(9) 総和群集

ハマグルマーコウボウムギ総和群集。

(10) 土地利用

人工的に飛砂や風衝を防止し，土壌改良，灌漑を行なって畑耕作地として利用している例が御前崎にある。

(11) 総合立地評価

植生が発達する限界域に生育しており，人為的立地改変にきわめて弱い。富士市内でも現存植生はまれであり，植生および立地の保護地区として保全されることが望ましい。

11) カモジグサーギンギン群団

Agropyro kamoji-Rumicion japonici

(1) 群落の相観

多年生草本植物群落。

(2) 標徴種および区分種

カモジグサ, ギンギン, ナガバギンギン。

(3) a. 優占種: カモジグサ, ギンギン, オニウシノケグサ。

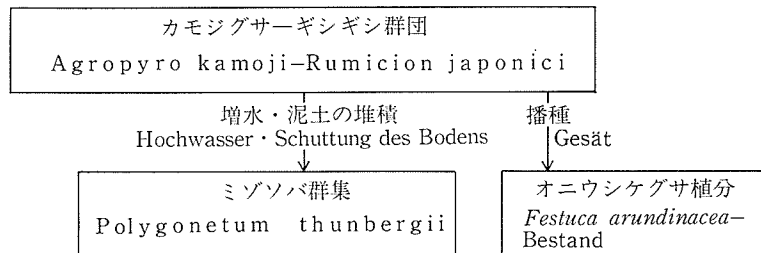
b. 多く出現する植物: カモジグサ, ギンギン, エゾノギンギン, スギナ, ヤエムグラ, ウシハコベ, オランダミミナグサ, ノゲシ, コハコベ。

(4) 主な代償植生

ミゾソバ群集などタウコギクラスの植生, オニウシノケグサ植栽地。

(5) 富士市における主な分布地: 吉原, 松岡, 弥生などの河辺。

(6) 群落環



(7) 立地条件

河川による泥土と有機物が堆積した河辺に生育している。年数回の増水時に冠水するが土壌、地下部は流亡しない。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種: カモジグサ, ギンギン, ナガバギンギン, エゾノギンギン。

代償植生構成種: イヌムギ, ネズミムギ, ミゾソバ, オニウシノケグサ, オオイヌタデ。

(9) 総和群集

ウリカワーコナギ総和群集。

(10) 土地利用

土堤を築き, 河川の影響を防止すれば, 採草地, 水田などに利用可能である。

(11) 総合立地評価

河川の増水による年数回の冠水を受ける不安定な立地で生産的な土地利用はむずかしい。河岸保全の目的で現存植生の保持が必要である。

12) ヒルムシロクラス

Potamogetonetea

(1) 群落の相観

浮葉沈水植物群落。

(2) 標徴種および区分種

センニンモ、エビモ、クロモ、ヤナギモ、ヒルムシロなど。

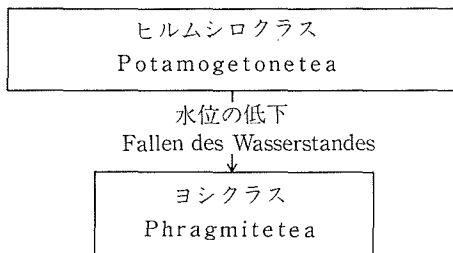
(3) a. 優占種：ヒルムシロ、ヒシ、オニビシ、ジュンサイ。

b. 多く出現する植物：ヒシ、オニビシ、ジュンサイ、ヒツジグサ。

(4) 主な代償植生：なし。

(5) 富士市における主な分布地：低地のため池など。

(6) 群落環



(7) 立地条件

水深約50cm～数mの比較的富養なため池，沼や，ゆるい流水の中に生育している。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

ヒルムシロ，ヒシ，ジュンサイ，ヒツジグサ，オヒルムシロ。

(9) 総和群集

ウリカワ－コナギ総和群集。

(10) 土地利用

ジュンサイ，スイレン，ヒツジグサなどの植栽地，ハス田，つり堀。

(11) 総合立地評価

池沼中の植生で農業用のため池などにも生育する。池沼としての利用が可能。

b. ブナクラス域

Fagetea crenatae-Gebiet

13) カニコウモリーウラジロモミ群集

Cacalio-Abietetum homolepidis

Fig. 56 表富士周遊道路沿いにみられるカニコウモリーウラジロモミ群集

(富士市, 海拔 1,540m)。

Entlang der Straße wächst das *Cacalio-Abietetum homolepidis*
(Stadt Fuji, 1,540m ü. NN).

- (1) 群落の相観：常緑針葉樹夏緑広葉樹混生林。
 (2) 標徴種および区分種：ウラジロモミ，トウヒ，オオイタヤメイゲツ，ヒロハツリバナ。
 (3) a. 優占種

高木層：ウラジロモミ，オオイタヤメイゲツ，ブナ。

草本層：スズタケ。

b. 多く出現する植物

高木層：ウラジロモミ，オオイタヤメイゲツ，ブナ，ヒメシャラ。

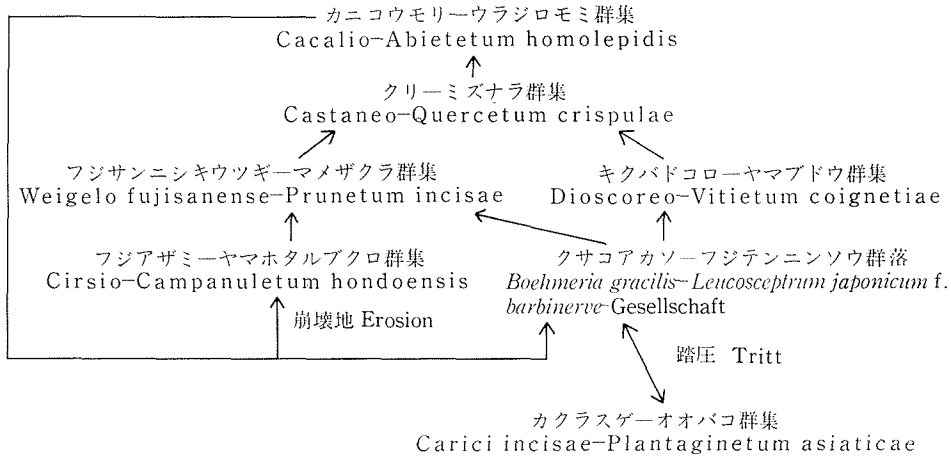
低木層：ヒロハツリバナ，ミヤマイボタ，ツルアジサイ，オオカメノキ。

草本層：スズタケ，イワガラミ，ツタウルシ。

(4) 主な代償植生

クリーミズナラ群集，アカショウマニシキウツギ群落，クサコアカソーフジテンニンソウ群落，フジアザミーヤマホタルブクロ群集。

(5) 群落環



(6) 富士市における主な分布地

表富士周遊道路より高海拔地の1,400～1,800mの山腹に分布する。

(7) 立地条件

亜高山性の気候に近く、低温で落葉層の分解が活発でなく酸性粗腐植土が形成されやすい。

水分条件は良く、雲霧の発生も多い。土壌母材はスコリア質火山灰、溶岩など風化しにくい多孔質火山岩類からなる。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：ウラジロモミ、オオイタヤメイゲツ、ブナ。

低木層：オオカメノキ、ヒロハツリバナ、ミヤマイボタ、ミヤマガマズミ。

草本層：スズタケ、イトスゲ、イワセントウソウ。

代償植生構成種

高木層：ミズナラ、ヤマハンノキ、ダケカンバ。

低木層：ニワトコ、ニシキウツギ、ヤマブドウ、ノリウツギ。

草本層：フジアザミ、ホソエノアザミ、ヤマホタルブクロ、シンウド、イタドリ。

(9) 総和群集

シコクスミレーブナ総和群落。

(10) 土地利用：ウラジロモミ、カラマツ植林，風致林。

(11) 総合立地評価：表富士周遊道路や登山道路沿いに発達した自然林が生育しており，風致林として保護されるべきである。

14) ヤマボウシーブナ群集

Corno-Fagetum crenatae

Fig. 57 愛鷹山地に広くみられるヤマボウシーブナ群集。
(袴腰岳 1,230m)

Auf dem alten Vulkan Ashitaka-Bergland von 850~1,330m ü. NN weit wachsendes *Corno-Fagetum crenatae* (Berg Hakamagoshi-dake 1,230m ü. NN).

(1) 群落の相観：夏緑広葉樹高木林。

(2) 標徴種および区分種：ヤマボウシ、トウゴクミツバツツジ、マメザクラ、ミツバツツジ、アシタカツツジ。

(3) a. 優占種

高木層：ブナ、ヒコサンヒメシャラ。

低木層：アセビ、スズタケ、コアジサイ。

草本層：イトスゲ、イワガラミ、コカンスゲ。

b. 多く出現する植物：ブナ、ヒメシャラ、コハウチワカエデ、ミズナラ、ミヤマガマズミ、タンナサワフタギ、オオカメノキ、クロモジ、リョウブ、ツクバネウツギ、マメザクラ、アオダモ、アオハダ、ツタウルシ、コカンスゲ。

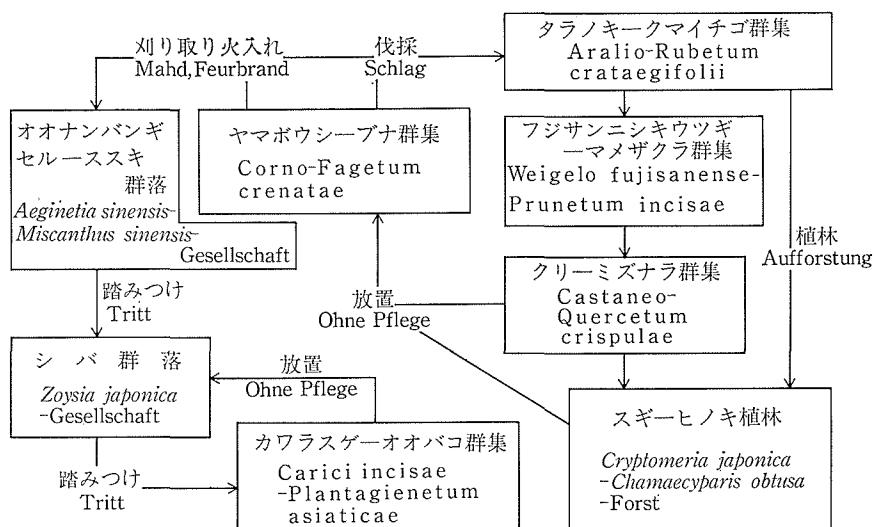
(4) 主な代償植生

クリーミズナラ群集。フジサンニンキウツギ—マメザクラ群集、キクバドコロ—ヤマブドウ群集、タラノキ—クマイチゴ群集、スギ、ヒノキ植林。

(5) 富士市における主な分布地

愛鷹山地の標高約850~1,330m。

(6) 群落環



(7) 立地条件

海拔約850～1,330mの山地。主に火山灰土の堆積した山腹斜面やゆるやかな尾根部。水分条件は中庸～やや乾性。

(8) 群落域の適性植栽種

潛在自然植生構成種

高木層：ブナ，ヒメシャラ，リョウブ，イトマキイタヤ，コハウチワカエデ，ヤマボウシ。

低木層：アセビ，アオダモ，コミネカエデ，ミヤマガマズミ。

草本層：シシガシラ， コカンスゲ， ツクバネソウ。

代償植生構成種

高木層：ミズナラ、イヌシデ、アカシデ、クマシデ、ヨグソミネバリ。

低木層：マメザクラ，フジサンニシキウツギ，ヤマツツジ，カマツカ。

草本層：ススキ，フジテンニンソウ，ミヤコザサ。

(9) 総和群集

ヤマボウシーブナ総和群集のオノエランーハコネコメツツジ総和亜群集（宮脇，鈴木 1981による）。

(10) 土地利用：林地（スギ，ヒノキ）。

(11) 総合立地評価

ブナクラス域のもっとも中心的な広い立地を占めている。土壌条件、水分条件いずれも中庸であり、多方面に土地利用が可能である。そのため現存する自然林は少なくなっており、十分な保護が望まれる。

15) オオモミジガサーブナ群集

Miricacalio-Fagetum crenatae

Fig. 58 愛鷹山位牌岳に生育するオオモミジガサーブナ群集 (1,340m)。
Miricacalio-Fagetum crenatae auf dem Ihardake (1,340m ü. NN)
 des Bergs Ashitakayama.

(1) 群落の相観

夏緑広葉樹高木林。

(2) 標徴種および区分種

シモツケソウ, フジテンニンソウ, シロヨメナ, シラネワラビ, アカショウマ。

(3) a. 優占種

高木層：ブナ。

亜高木層：サラサドウダン, ヒコサンヒメシャラ。

低木層：アブラチャン, コアジサイ, トウゴクミツバツツジ。

草本層：イトスゲ, ヒメノガリヤス。

b. 多く出現する植物

ブナ, アオダモ, ヒコサンヒメシャラ, ナナカマド, リョウブ, タンナサワフタギ, ノリウツギ, コアジサイ, トウゴクミツバツツジ, アブラチャン, ヒメノガリヤス, シモツケソウ, フジテンニンソウ, シロヨメナ, ハリガネワラビ, ツタウルシ, イトスゲ。

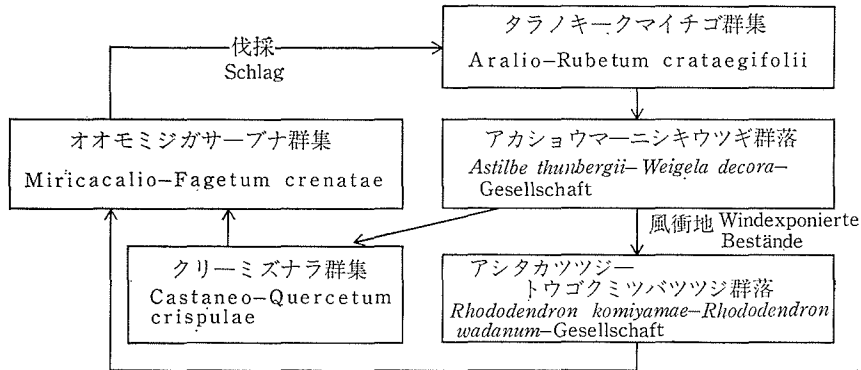
(4) 主な代償植生

クリーミズナラ群集, アシタカツツジ-トウゴクミツバツツジ群落, アカシヨウマーニシキウツギ群落, タラノキークマイチゴ群集。

(5) 富士市における主な分布地

愛鷹山地の 1,330m 以上。

(6) 群落環



(7) 立地条件

海拔 1,330m 以上のブナクラスの雲霧帯に発達している。空中湿度が高く、水分条件は適潤である。土壌は、稜線であるためやや浅い。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：ブナ、ヒコサンヒメジャラ、リョウブ。

低木層：トウゴクミツバツツジ、タンナサワフタギ、アブラチャン、コアジサイ。

草本層：ヒメノガリヤス、シモツケソウ、フジテンニンソウ、シロヨメナ。

代償植生構成種

高木層：ミズナラ、ヨグソミネバリ。

低木層：ニシキウツギ、ノリウツギ、クマイチゴ、ベニバナツクバネウツギ。

草本層：ススキ、フジテンニンソウ。

(9) 土地利用

林地（スギ）。

(10) 総合立地評価

愛鷹山の稜線部に生育するブナ林で、現存林分も比較的残されている。土壌流亡が起きやすい立地であり、林分の保全が必要である。

16) シコクスミレーブナ群落

Viola shikokiana-Fagus crenata-Gesellschaft

(1) 群落の相観

夏緑広葉樹高木林。

(2) 標徴種および区分種

サワシバ, ヒナウチワカエデ, カジカエデ, ミツバウツギ, シラキ, シコクスミレ, コミヤマカタバミ。

(3) a. 優占種

高木層: ブナ。

亜高木層: ヤマボウシ, サワシバ。

低木層: コクサギ, スズタケ。

草本層: イワガラミ, ヤマカモジグサ, ツルシロカネソウ。

b. 多く出現する植物

ブナ, オオモミジ, ヒメシャラ, キハダ, ヒナウチワカエデ, カジカエデ, シラキ, サワシバ, オニイタヤ, エンコウカエデ, ミヤマイボタ, アブラチャン, ミツバウツギ, シコクスミレ, コミヤマカタバミ, イワガラミ。

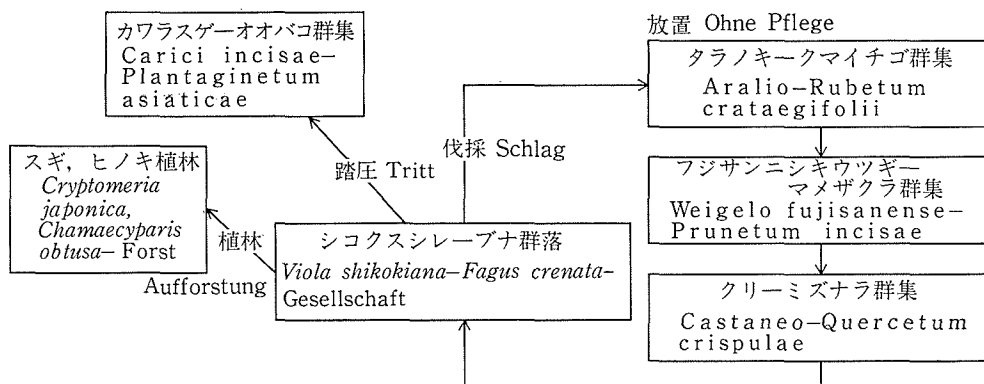
(4) 主な代償植生

クリーミズナラ群集, フジサンニシキウツギーマメザクラ群集, タラノキークマイチゴ群集, スギ, ヒノキ植林。

(5) 富士市における主な分布地

富士山腹の標高 990m 付近。

(6) 群落環



(7) 立地条件

海拔約850～1,500mの山地溶岩流上に火山灰が堆積した立地で尾根部以外は湿潤となりやすい。水分条件は適潤～湿潤。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：ブナ、ヒメシャラ、オオモミジ、サワシバ、カジカエデ。

低木層：アブラチャン、コクサギ、ミヤマイボタ、ミツバウツギ、スズタケ。

草本層：シコクスミレ、コミヤマカタバミ、ツルシロカネソウ、ハシカグサ。

代償植生構成種

高木層：ミズナラ、クリ、クマシデ、アカシデ、ヨグソミネバリ。

低木層：マメザクラ、フジサンニシキウツギ、ニワトコ、タラノキ。

草本層：ススキ、フジテンニンソウ、シシウド、ムカゴイラクサ。

(9) 総和群集

シコクスミレーブナ総和群落。

(10) 土地利用

林地（スギ、ヒノキ）。

(11) 総合立地評価

現存林分は、スギ、ヒノキの造林のためにほとんどみられなくなっている。富士山腹のブナクラス域の中核的存在であり、残存林分の科学的価値は高い。現在行われている針葉樹植林中にも自然植生構成種を下層に許容し、土壌保全をはかることが望ましい。

17) イワボタンーシオジ群集

Chrysosplenio-Fraxinetum spaethianae

Fig. 59 緩斜面に生育するイワボタンーシオジ群集（富士山大淵林道，海拔1,250m）。

Auf den sanften Hängen wachsendes *Chrysosplenio-Fraxinetum spaethianae* (1,250m ü. NN, beim Forstweg-Obuchi, Berg Fuji).

(1) 群落の相観：夏緑広葉樹林。

(2) 標徴種および区分種：ケヤキ，チドリノキ，イトマキイタヤ，セントウソウ，イヌワラビ，ミズヒキ，テバコモミジガサ，タニソバ，タニギキョウ。

(3) a. 優占種

高木層：ケヤキ，ホソエカエデ，オオモミジ，イトマキイタヤ，サワグルミ。

低木層：アブラチャン，ガクウツギ。

草本層：スズタケ，ミヤマカンスゲ，ムカゴイラクサ，オオイトスゲ。

b. 多く出現する植物

高木層：イトマキイタヤ，ケヤキ，チドリノキ，オオモミジ，サワグルミ。

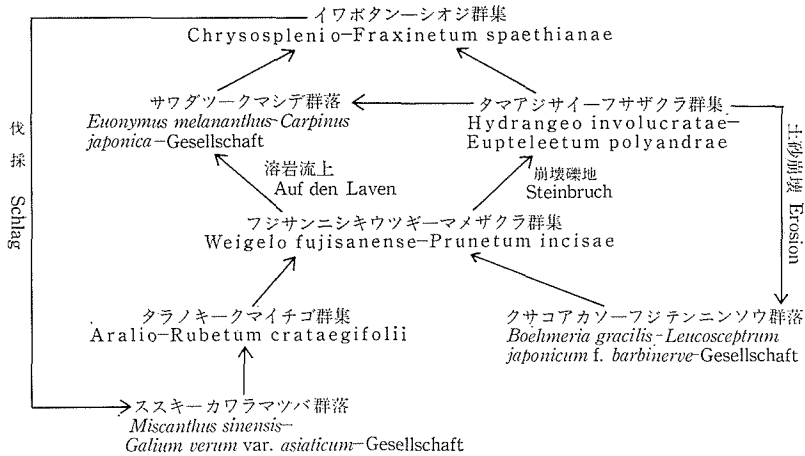
低木層：アブラチャン，ミヤマイボタ，ゴマギ，ガクウツギ。

草本層：セントウソウ，イヌワラビ，テバコモミジガサ，ムカゴイラクサ，タニギキョウ，シコクスミレ，サワハコベ，ツルシロカネソウ。

(4) 主な代償植生

サワダツクマシデ群落，タマアジサイーフサザクラ群集，フジサンニシキウツギ—マメザクラ群集，クサコアカソーフジテンニンソウ群落，カワラマツバーススキ群落。

(5) 群落環



(6) 富士市における主な分布地：海拔700～1,700mの沢に沿って帯状に分布する。

(7) 立地条件：富士山山麓のブナクラス域に多く、沢沿いの崩壊地や火山放出物を堆積した溶岩流のやや凹状湿潤地を指標する。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：サワグルミ、シオジ、ケヤキ、オオモミジ、イトマキイタヤ、エンコウカエデ、ミツデカエデ、ホソエカエデ、カジカエデ、チドリノキ。

低木層：アブラチャン、ゴマギ、ミツバウツギ、ヤブデマリ、コクサギ、カントウマユミ。

草本層：クルマバソウ、ハクモウイノデ、テバコモミジガサ、セントウソウ、オオイトスゲ、ムカゴイラクサ、シコクスミレ、エンレイソウ、サワハコベ。

代償植生構成種

高木層：ミズキ、クマシデ、フサザクラ、ヤマハンノキ。

低木層：ニワトコ、キブシ、タマアジサイ、コアカソ、クマイチゴ、マタタビ、サルナシ。

草本層：ツリフネソウ、ノブキ、カワラスゲ、オトコエシ、シロヨメナ、カワラマツバ、バライチゴ。

(9) 総和群集：シコクスミレーブナ総和群落。

(10) 土地利用 風致林、植林。

(11) 総合立地評価

種組成は豊富で60種以上になり、富士山麓ではもっとも多様な植物群落を構成している。したがって、土地的に不安定な立地は風致林、水源涵養林として保護し、植林の可能な立地でも部分的な利用にとどめたほうが良い。

18) サワダツークマシデ群落

Euonymus melananthus-Carpinus japonica-Gesellschaft

Fig. 60 愛鷹山須津川上流の急斜面に生育するサワダツークマシデ群落（愛鷹山鋸岳下、海拔 950m）。

Auf dem steilen Hang am Oberlauf des Flusses Sutsu-gawa im Berg As-hitaka bedeckt sich mit der *Euonymus melananthus-Carpinus japonica*-Gesellschaft (Nokogiri-dake, 950m ü. NN, Berg Ashitaka).

(1) 群落の相観：夏緑広葉樹林。

(2) 標徴種および区分種：ヒナウチワカエデ、モミ、ミヤマイタチンダ、サワダツ、シンガシラ。

(3) a. 優占種

高木層：クマシデ、サワシバ。

低木層：スズタケ、アブラチャン。

草本層：イトスゲ、オオイトスゲ、ミヤマカンスゲ、コカンスゲ。

b. 多く出現する植物

高木層：クマシデ、アカシデ、オオモミジ、モミ、サワシバ。

低木層：アブラチャン、カマツカ、クロモジ、ミヤマイボタ、マメザクラ、ツノハシバミ。

草本層：イトスゲ、オオイトスゲ、ミヤマカンスゲ、コカンスゲ、カンスゲ、ミヤマイタチンダ、サワダツ。

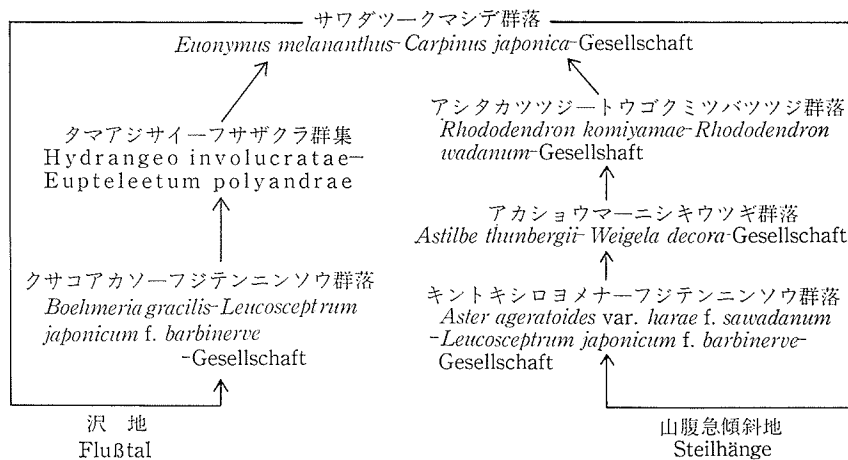
(4) 主な代償植生

タマアジサイーフサザクラ群集、キクバドコロヤマブドウ群集、クサコアカソーフジテンニンソウ群落。

(5) 富士市における主な分布地

愛鷹山系の海拔約 600m 以上の渓谷部。

(6) 群落環



(7) 立地条件

溪谷部の空中湿度が高く、山影となるような日射時間の限られる傾斜地を指標する。土壌も湿潤であるが表層土がうすく、土壌構造も未発達である。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：クマシデ、アカシデ、イヌシデ、サワシバ、オオモミジ、エンコウカエデ、チドリノキ。

低木層：アブラチャン、クロモジ、ミヤマイボタ、ツリバナ、タンナサワフタギ、サラサドウダン、トウゴクミツバツツジ、ミツバツツジ。

草本層：カンスゲ類、サワダツ、ミヤマイチタシダ、ゴトウヅル、オオイトスゲ、イトスゲ。

代償植生構成種

高木層：フサザクラ、ヤマハンノキ、ミズキ。

低木層：ニシキウツギ、タマアジサイ、ヒメウツギ、ガクウツギ、コアカソ、マタタビ、サルナシ、ニワトコ、ミツバウツギ。

草本層：フジテンニンソウ、フキ、イタドリ、ヒメノガリヤス、ウラハグサ、テキリスゲ、クサコアカソ、クマイチゴ、エビガライチゴ。

(9) 総和群集：宮脇・鈴木（1981）のヤマボウシ—ブナ総和群集のオノエラン—ハコネコメツツジ総和亜群集に該当する。

(10) 土地利用：災害防止林、水源涵養林。

(11) 総合立地評価

現存する自然植生の保護と、たびたび崩壊する立地では、積極的に植生復元がはかられるべきである。

19) クリーミズナラ群集

Castaneo-Quercetum crispulae

(1) 群落の相観

夏緑広葉樹林。

(2) 標徴種および区分種

オオカメノキ, ヒメシャラ, アオダモ, サラサドウダン, コミネカエデなどササブナオーダーの種と, ミズナラ, コアジサイ, オトコヨウゾメ, ウラジロノキ, ウスノキなどコナラミズナラオーダーの種で区分される。

(3) a. 優占種

高木層: ミズナラ, ヒノキ。

低木層: アセビ, サラサドウダン, チチブドウダン, トウゴクミツバツツジ, ミツバツツジ。

草本層: カンスゲ類, キンレイカ, ヒメノガリヤス。

b. 多く出現する植物

高木層: ミズナラ, ヒノキ, エンコウカエデ, マルバアオダモ。

低木層: サラサドウダン, トウゴクミツバツツジ, ミツバツツジ, アセビ, リョウブ, マメザクラ, コアジサイ。

草本層: キンレイカ, ヒメノガリヤス, イワセントウソウ, ヘビノネゴザ, イワガラミ。

(4) 主な代償植生

フジサンニシキウツギーマメザクラ群集, クマイチゴータラノキ群集, カワラマツバースキ群落, フジアザミーヤマホタルブクロ群集。

(5) 群落環



(6) 富士市における主な分布地

富士山の東臼塚（1,578m）より下方へ幅約700mの帯状となって分布する。その下限域は約850m でクリーコナラ群集潜在自然植生領域に接している。

(7) 立地条件

新富士火山のもっとも新しい新期寄生火山活動により噴出した溶岩流は、富士市の海拔1,400m付近より下方へ流れでており、小天狗溶岩と東臼塚を起点とする東臼塚溶岩とよばれている。これらの溶岩流は地表に露出し、多孔質の起伏に富んだ地形を形成している。表層土は火山放出物が一部に堆積するものの、うすく、また植物遺体の分解、還元による有機質土壌の形成も十分でない。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：ミズナラ、ヒノキ、エンコウカエデ、ハリモミ、クマシデ、ヤマボウシ。

低木層：サラサドウダン、トウゴクミツバツツジ、ミツバツツジ、チチブドウダン、アセビ、ナンキンナナカマド、リョウブ、コアジサイ、カマツカ、クロモジ、ウリハダカエデ。

草本層：ヒメノガリヤス、キンレイカ、イワセントウソウ、ツタウルシ、ツマトリソウ、ヘビノネゴザ。

代償植生構成種

高木層：ミヤマハンノキ、ヤシャブシ。

低木層：フジサンニシキウツギ、サンショウイバラ、ノリウツギ。

草本層：ヒメノガリヤス、フジアザミ、ヤマホタルブクロ、ススキ、チダケサシ、アブラシバ、カワラマツバ。

(9) 総和群集

シコクスミレーブナ総和群落。

(10) 土地利用

薪炭林、植林。

(11) 総合立地評価

クリーミズナラ群集潜在自然植生域のヒノキ植林は少く、比較的広い面積でクリ、ミズナラの薪炭林が残されている。これは起伏の激しい、しかも表層土の少ない立地が植林に不適当なためである。富士市のクリーミズナラ群集潜在自然植生域には自然生のヒノキが生育する。したがってヒノキの抜き切りによる林業形態が維持できれば、生態系の保全にもつながる。

20) クリーコナラ群集

Castaneo-Quercetum serratae

(1) 群落の相観

夏緑広葉樹林。

(2) 標徴種および区分種

コウヤボウキ, ナガバノコウヤボウキ, ウメモドキ, オトコヨウゾメ, ウラジロノキ, シラキ, アワブキ。

(3) a. 優占種

高木層: コナラ。

低木層: クロモジ, コゴメウツギ, メツクバネウツギ。

草本層: ナガバノコウヤボウキ, コウヤボウキ, ツタウルシ。

b. 多く出現する植物

高木層: コナラ, クリ, モミ, ホオノキ, ウラジロノキ, マメザクラ, シラキ, アオハダ。

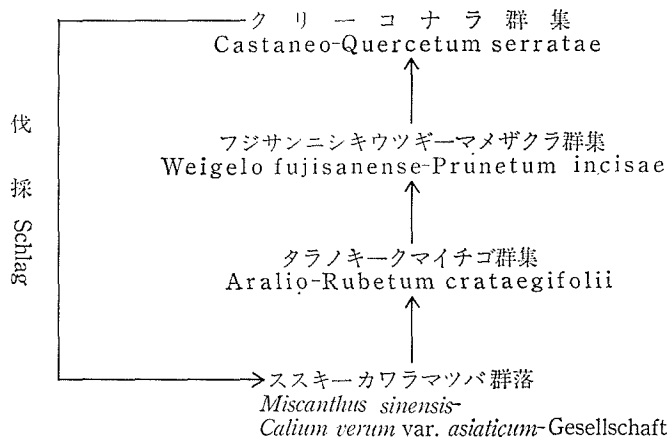
低木層: ハナイカダ, ウメモドキ, タマアジサイ, コマユミ, オトコヨウゾメ, メツクバネウツギ, クロモジ, コゴメウツギ。

草本層: ナガバノコウヤボウキ, コウヤボウキ, ツタウルシ, ヒメノガリヤス, ヒメヤブラン, ハンショウヅル。

(4) 主な代償植生

フジサンニシキウツギ-マメザクラ群集, クマイチゴ-タラノキ群集, カワラマツバーススキ群落。

(5) 群落環



(6) 富士市における主な分布地

丸火自然公園など海拔500m以上の溶岩流の露出した地域で、高海拔地では海拔850m付近に及んでいる。

(7) 立地条件

新富士火山の新时期溶岩流である大淵丸尾溶岩流に代表される起伏の激しい溶岩の露出した立地を指標している。表層土はうすく、スコリアを含む火山灰土壌からなる。クリーコナラ群集潜在自然植生領域は、火山灰土壌の深い立地でヤブムラサキモミ群落潜在自然植生域、高海拔地でクリーミズナラ群集潜在自然植生域に接している。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：コナラ、クリ、モミ、ウラジロノキ、シラキ、アオハダ、リョウブ。

低木層：ハナйкаダ、ウメモドキ、コマユミ、オトコヨウゾメ、メツクバネウツギ、クロモジ、コゴメウツギ。

草本層：ナガバノコウヤボウキ、コウヤボウキ、ツタウルシ、ヒメノガリヤス、ヒメヤブラン、ハンショウヅル、イヌツゲ。

代償植生構成種

高木層：ヤシャブシ、オオバヤシャブシ、ヤマハンノキ。

低木層：フジサンニシキウツギ、サンショウイバラ、ノリウツギ、ヌルデ、キハギ、ヤマハギ。

草本層：チダケサシ、カワラマツバ、ススキ、クマイチゴ、トダシバ、フキ、ニガナ。

(9) 総和群集

クリーコナラ総和群集。

(10) 土地利用

薪炭林、植林。

(11) 総合立地評価

クリーコナラ潜在自然植生域は、溶岩流が露出し、土地利用については不適当な立地である。自然の生態系に適合したクリ、コナラの二次林を薪炭林として利用する以外は風致林として保全するのが得策である。このような観点から丸火の潜在自然植生と同じ種組成の現存夏緑広葉樹林が自然公園として保全、利用されたのは適当な土地利用といえる。

21) ヤブムラサキーモミ群落

Callicarapa mollis-Abies firma-Gesellschaft

富士山麓の海拔600～850mには現存する自然植生が確認されておらず、その多くはヒノキの植林におきかえられている。潜在自然植生の判定は、おもに植林下の貧弱な林床植生に頼った。ヤブツバキクラスの常緑指標植物は海拔約600m以上には、ほとんど出現せず、またササーブナオーダーの種群も海拔850m以下には降りて来ない。植林下の林床植物はブナクラス域の林縁に多い植物で、確実な潜在自然植生判定の種とはならないが、海拔600～850mの地域はブナクラス下部に相当し、シデ属、コナラ属、モミ属などのコナラーミズナラオーダーの植生が潜在自然植生に判定される。このコナラーミズナラオーダーの植生は、比較的新しい火山地帯に生育し、いわゆる堆積岩地帯のコハクウンボクーイヌブナ群集、ハクウンボクーイヌブナ群落などとは異なった植生単位にまとめられるものである。本報では仮にヤブムラサキーモミ群落とし、三ツ峠（宮脇ほか1977）、富士山（遠山1965, 1966）、丹沢（宮脇・大場・村瀬1964）の資料が参考にされた。

(1) 群落の相観

夏緑広葉樹林。

(2) 標徴種および区分種

ヤブムラサキ、コバノガマズミ、アワブキ、ハクウンボク、イヌブナ、ミヤマクロモジ、アカシデ、マツブサ。

(3) a. 優占種

高木層：イヌブナ、アカシデ、モミ、ヒノキ、シラキ。

低木層：アブラチャン、クロモジ、コゴメウツギ、アセビ。

草本層：カンスゲ類、チゴユリ、ホンモンジスゲ。

b. 多く出現する植物

高木層：モミ、アカシデ、アワブキ、ハクウンボク、ヤマボウシ、シラキ。

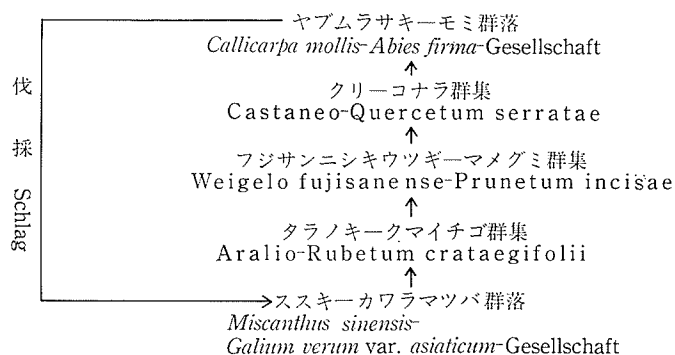
低木層：アセビ、アブラチャン、コゴメウツギ、ヤブムラサキ、ミヤマクロモジ、コバノガマズミ、メツクパネウツギ、ムラサキシキブ。

草本層：カンスゲ類、ホンモンジスゲ、シュンラン、イヌツゲ、ツルリンドウ、チゴユリ。

(4) 主な代償植生

クリーコナラ群集、フジサンニシキウツギーマメザクラ群集、クマイチゴータラノキ群集、カワラマツパーススキ群落。

(5) 群落環



(6) 富士市における主な分布地

海拔600～850mの富士山山麓で新期溶岩流（大淵丸尾溶岩流）上を除く地域に分布する。

(7) 立地条件

ブナクラス域でも雲霧のかからない低海拔地に位置している。母材は旧期、中期の玄武岩類（溶岩流）と表層を火山放出物、火山灰によって被覆されている。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：モミ、アカシデ、ハクウンボク、イヌブナ、シラキ、ヨグソミネバリ。

低木層：ヤブムラサキ、アセビ、アブラチャン、クロモジ、ダンコウバイ、コゴメウツギ、メツクバネウツギ、コバノガマズミ。

草本層：カンスゲ類、ミヤマイタチンダ、ホンモンジスゲ、チゴユリ、イヌツゲ、シュンラン、ホソバトウゲシバ、キッコウハグマ、ツルリンドウ。

代償植生構成種

高木層：コナラ、ミズナラ、クリ、ヤマザクラ、イヌザクラ、ミズキ。

低木層：クサギ、ニワトコ、キブシ、フジサンニシキウツギ、サンショウイバラ、ウツギ。

草本層：チダケサシ、ススキ、フキ、ヒヨドリバナ、シシウド、イタドリ。

(9) 総和群集

クリーコナラ総和群集。

(10) 土地利用

植林、畑地、ゴルフ場。

(11) 総合立地評価

広い面積を占めるヒノキ植林はきわめて貧弱な生態系となっている。夏緑広葉樹林の復元による生態系の回復は、林業資源の長期的な保全のためにも必要なことである。

23) タマジサイーフサザクラ群集

Hydrangeo involucratae-Eupteleetum polyandrae

Fig. 61 溪谷斜面の崩積地に生育したタマアジサイーフサザクラ群集
(須津川溪谷, 海拔 800m)。

Auf dem Hangschutt des Bergtals wachsendes *Hydrangeo involucratae*-
Eupteleetum polyandrae (Sutsugawa-Tal 800m ü. NN).

(1) 群落の相観

夏緑広葉樹低木林。

(2) 標徴種および区分種

タマアジサイ, フサザクラ。

(3) a. 優占種

低木層: フサザクラ, ヤマハシノキ。

草本層: コアカソ, ウワバミソウ。

b. 多く出現する植物

低木層: フサザクラ, タマアジサイ, キブシ, ウツギ, ヤマアジサイ。

草本層: コアカソ, ムカゴイラクサ, エイザンスミレ, フキ, コチヂミザサ。

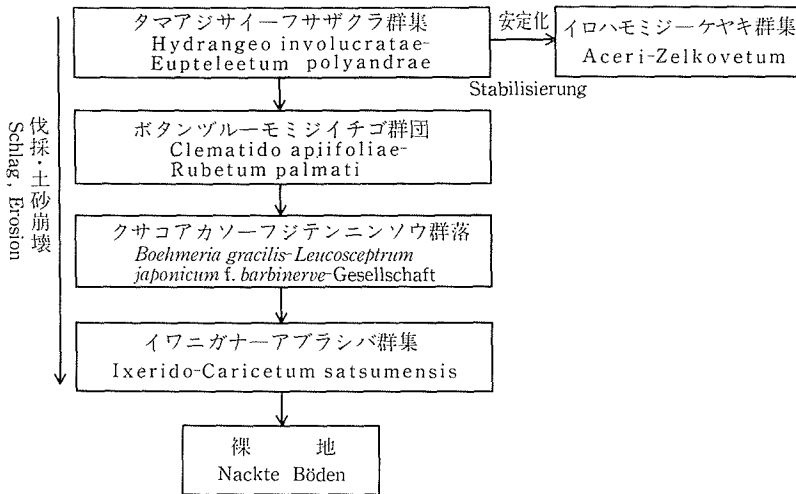
(4) 主な代償植生

ボタンヅル—モミジイチゴ群団, クサコアカソ群落, イワニガナーアブラシバ群集。

(5) 富士市における主な分布地

愛鷹山地山麓の溪谷辺。

(6) 群落環



(7) 立地条件

急斜面の岩盤上に薄く礫が堆積した不安定立地に発達している。空中湿度が高く、また土壌は滲出水にうるおされて適潤である。洪水時などには水流による破壊作用を受けることもある。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

低木層：フサザクラ, タマアジサイ, ヤマハンノキ。

草本層：ウワバミソウ, ムカゴイラクサ, フキ, ジュウモンジシダ。

代償植生構成種

低木層：モミジイチゴ, コゴメウツギ, マタタビ, ボタンヅル, フジ。

草本層：クサコアカソ, アブラシバ, ミズヒキ, ダイコンソウ, イワニガナ。

(9) 総和群集

シコクスミレーブナ総和群落。

(10) 土地利用

砂防林。

(11) 総合立地評価

河辺の土壌, 植生を保護する目的で, 現存植生の保全が必要。

23) アシタカツツジ—トウゴクミツバツツジ群落

Rhododendron komiyamae-*Rhododendron wadanum*-Gesellschaft

(1) 群落の相観

夏緑広葉樹低木林。

(2) 標徴種および区分種

アシタカツツジ、マメザクラ、トウゴクミツバツツジ、ベニバナツクバネウツギ。

(3) a. 優占種

低木層：トウゴクミツバツツジ、サラサドウダン。

草本層：ヒメスゲ、ヒメノガリヤス、コアジサイ。

b. 多く出現する植物

クロモジ、トウゴクミツバツツジ、コアジサイ、ナナカマド、サラサドウダン、ミヤマガマズミ、スノキ、リョウブ、ヒナスゲ、ヘビノネゴザ、ミヤコザサ。

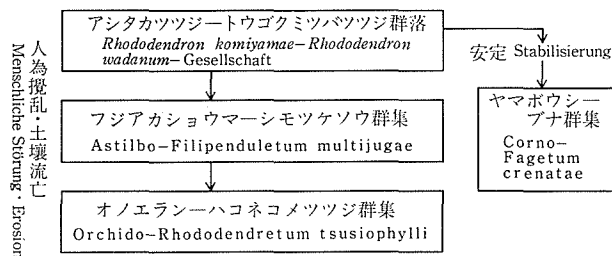
(4) 主な代償植生

オノエラン—ハコネコメツツジ群集、フジアカショウマーシモツケソウ群落。

(5) 富士市における主な分布地

愛鷹山越前岳、位牌岳の稜線部。

(6) 群落環



(7) 立地条件

風衝の強い土壌の浅い岩盤地に生育している。土壌は乾燥しやすく、空中湿度により水分の供給を受ける。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

低木層：アシタカツツジ、サラサドウダン、トウゴクミツバツツジ、スノキ、ベニバナツクバネウツギ、ナナカマド。

草本層：ヒナスゲ、コイワカガミ、ツクバネソウ。

代償植生構成種

草本層：フジアカショウマ，シモツケソウ，ヒメノガリヤス。

(9) 総和群集

ヤマボウシーブナ総和群集のオノエラニーハコネコメツツジ総和亜群集（宮脇・鈴木1976による）。

(10) 土地利用

植生にとって厳しい条件下に生育しており，生産的土地利用，人の踏みつけなども困難である。

(11) 総合立地評価

極端な立地の自然植生として立地，植生，植物相の総合的保護の観点から，現存植生の保全が必要。

24) オノエラン—ハコネコメツツジ群集

Orchido-Rhododendretum tsusiophylli

Fig. 62 断崖地の岩隙に根をはって生育するオノエラン—ハコネコメツツジ群集
(愛鷹山鋸岳, 海拔 1,250m)。

Auf der Felsenklippe vorkommendes *Orchido-Rhododendretum tsusiophylli* (Nokogiridake 1,250m ü. NN, Berg Ashitakayama).

(1) 群落の相観

夏緑広葉樹矮生低木林。

(2) 標徴種および区分種

ハコネコメツツジ。

(3) a. 優占種

ハコネコメツツジ。

b. 多く出現する植物

ハコネコメツツジ, キンレイカ, コメススキ, ヒメノガリヤス。

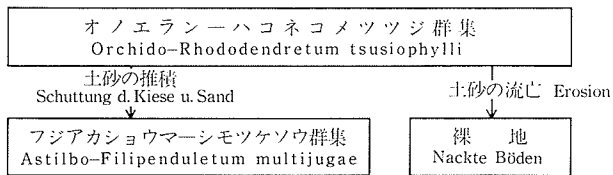
(4) 主な代償植生

なし (現存植生が破壊されると裸地化する)。

(5) 富士市における主な分布地

愛鷹山地位牌岳, 鋸岳稜線部。

(6) 群落環



(7) 立地条件

断崖のテラス地のごくわずかに土砂が堆積した立地に生育している。土壌の保水力は低く空中湿度により生育水分を得ている。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

ハコネコメツツジ、コイワカガミ、キンレイカ、コメススキ、シモツケ。

(9) 総和群集

ヤマボウシーブナ総和群集のオノエラン—ハコネコメツツジ総和亜群集（宮脇・鈴木1981による）。

(10) 土地利用

困難である。

(11) 総合立地評価

岩棚上の自然植生で立地および植生の改変は禁止されねばならない。植生、植物相上貴重な群集で、とくに盗採などを監視し、厳重な保護が望まれる。

c. コケモモートウヒクラス域

Vaccinio-Piceetea-Gebiet

25) シラビソ—オオシラビソ群集

Abietetum veitchio-mariesii



Fig. 63 海拔 2,300~2,400m の安定した立地でシラビソの優占するシラビソ—オオシラビソ群集。(富士山, 海拔 2,260m)。

Abietetum veitchio-mariesii mit dominierendem *Abies veitchii*, das von 2,300 bis 2,400m ü. NN, wo Standort stabilisiert ist (2,260m ü. NN, Südhang des Bergs Fuji).

シラビソ—オオシラビソ群集はカラマツの優占するコケモモ亜群集とシラビソ, オオシラビソの優占する安定した立地の典型亜群集に下位区分され, 凡例の上でも亜群集の段階で植生図化されている。

(1) 群落の相観: 常緑針葉樹林。

(2) 標微種および区分種: シラビソ, オオシラビソ, トウヒ, コメツガ。

(3) a. 優占種

高木層: シラビソ, オオシラビソ, トウヒ, カラマツ。

低木層: シラビソ, ナナカマド。

草本層: ヒメノガリヤス, マイヅルソウ, カニコウモリ。

コケ層: イワダレゴケ, タチハイゴケ, シッポゴケ。

b. 多く出現する植物

高木層: シラビソ, オオシラビソ, トウヒ, コメツガ。

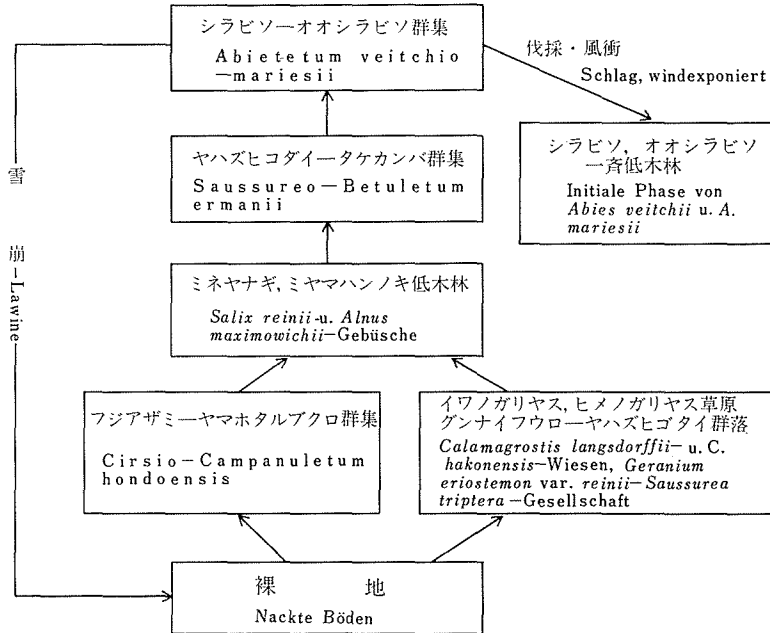
低木層: ナナカマド, シラビソ, トウヒ。

草本層: コガネギク, ヤハズヒゴタイ, マイヅルソウ, コバノイチヤクソウ, コイチヤクソウ, ジンヨウイチヤクソウ。

コケ層：イワダレゴケ、タチハイゴケ、シッポゴケ、セイタカスギゴケ、ハイイロカブトゴケ。

(4) 主な代償植生：フジアザミーヤマホタルブクロ群集，グンナイフウローヤハズヒゴタイ群落。

(5) 群落環



(6) 立地条件：海拔1,800m～2,300mのなだれの少ない安定した斜面。風衝，温度条件の厳しくなる森林限界付近の高海拔地や新期寄生火山放出物の堆積した不安定な立地ではカラマツの優占するコケモモ亜群集がみられる。

(7) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：シラビソ，オオシラビソ，コメツガ，トウヒ，カラマツ。

低木層：コヨウラクツツジ，ヒロハツリバナ，オオバスノキ，ハクサンシャクナゲ。

草本層：ジンヨウイチヤクソウ，コバノイチヤクソウ，コイチヤクソウ，キソチドリ，マイヅルソウ，イワセントウソウ，カニコウモリ。

代償植生構成種

高木層：ダケカンバ，ミヤマハンノキ，ヤハズハンノキ。

低木層：タカネイバラ，ウラジロハナヒリノキ，ミヤマハンショウヅル。

草本層：ホソエノアザミ，ヒメノガリヤス，イワノガリヤス，フジアザミ，ヤマホタルブクロ。

(8) 総和群集：調査資料なし。

(9) 土地利用：風致林。

(10) 総合立地評価：シラビソ-オオシラビソ群集は伐採されると復元が困難であるから，積極的な利用としても，観光が最大限許される許容範囲である。

26) ヤハズヒゴタイーダケカンバ群集

Saussureo-Betuletum ermanii

Fig. 64 なだれの起きやすい傾斜地に生育するヤハズヒゴタイーダケカンバ群集
(富士山五合目, 海拔 2,500m)。

Auf den Schneelawinenhängen wachsendes *Saussureo-Betuletum ermanii*
(2,500m ü. NN, Südhang des Bergs Fujis).

(1) 群落の相観

夏緑広葉樹亜高木林。

(2) 標徴種および区分種

ミヤマハンノキ, ダケカンバ, ウラジロハナヒリノキ, ヤハズヒゴタイ, ミヤマハンショウヅル。

(3) a. 優占種

高木層: ダケカンバ, ミヤマハンノキ。

低木層: ハクサンシャクナゲ, ミヤマハンノキ。

草本層: ヒメノガリヤス, イワノガリヤス。

b. 多く出現する植物

高木層: ダケカンバ, ミヤマハンノキ。

低木層: ミヤマハンノキ, ナナカマド。

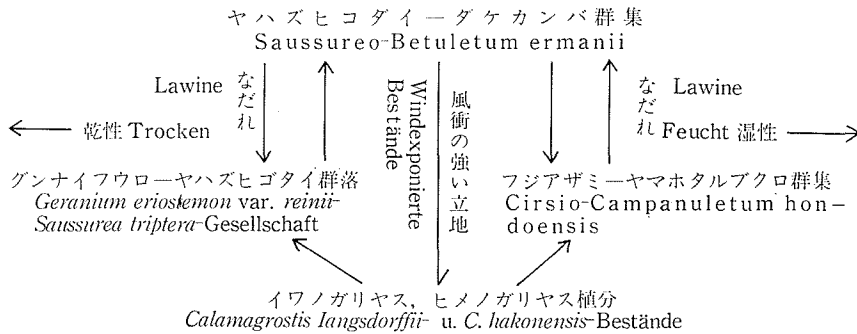
草本層: ヤハズヒゴタイ, ヒメノガリヤス, イワノガリヤス, マイヅルソウ, コガネギク。

(4) 主な代償植生

フジアザミーヤマホタルブクロ群集, グンナイフウローヤハズヒゴタイ群落, イワノガリヤス植分。

(5) 群落環

ヤハズヒゴタイ—ダケカンバ群集



(6) 富士市における主な分布地

富士山三合目周辺。

(7) 立地条件

海拔約2,100m～2,470mの亜高山帯に位置し、傾斜角20度以上の急勾配で、冬季におけるなだれの発生頻度が高い。土壌は中礫をまじえる礫質から細砂質で、湿潤であるが透水性がよい。

(8) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

高木層：ダケカンバ, ミヤマハンノキ, ヤハズハンノキ。

低木層：ナナカマド, ウラジロハナヒリノキ, タカネイバラ。

草本層：ヤハズヒゴタイ, ヒメノガリヤス, マイヅルソウ。

代償植生構成種

低木層：ミヤマハンショウヅル, タカネイバラ, ウラジロハナヒリノキ。

草本層：ホソエノアザミ, オオヨモギ, イワノガリヤス, フジアザミ。

(9) 総和群集

調査資料なし。

(10) 土地利用

風致林, 砂防林。

(11) 総合立地評価

なだれ頻度の高い急傾斜地に生育し、土砂崩壊防止の役割を果たしている。草本植物にはお花畑を構成する美しい植物が多く、観光客の目を楽しませる。

d. コマクサーイワツメクサクラス域

Dicentro-Stellarietea nipponicae-Gebiet

27) イワスゲーイワツメクサ群集

Carici stenanthae-Stellarietum nipponicae

Fig. 65 海拔 2,500m 以上に広い面積で生育するイワスゲーイワツメクサ群集
(富士山 6 合目, 海拔 2,850m)。

Über 2,500m vom Meer kommt große Fläche spärlich wachsendes *Carici stenanthae-Stellarietum nipponicae* vor, wo vulkanische Kiese und Sande bedeckt sind, und die Oberfläche der Böden mehr oder weniger labil und beweglich sind (2,850m ü. NN).

(1) 群落の相観

高山荒原多年生草本植物群落。

(2) 標徴種および区分種

オンタデ, フジハタザオ, イワツメクサ, ミヤマオトコヨモギ。

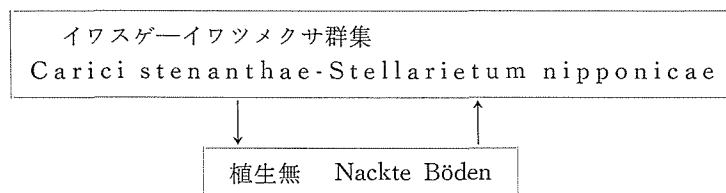
(3) a. 優占種

オンタデ, ミヤマオトコヨモギ。

b. 多く出現する植物

オンタデ, イワスゲ, ミヤマオトコヨモギ, イワツメクサ。

(4) 群落環



(5) 富士市における主な分布地

富士山五合目の海拔2,500m周辺から八合目の海拔3,200m付近まで広く分布している。

(6) 立地条件

森林限界以上の高山帯に位置し、立地は移動しやすいスコリアからなる。

(7) 群落域の適性植栽種

潜在自然植生構成種

オンタデ、ミヤマオトコヨモギ、イワスゲ、コタヌキラン。

(8) 総和群集

イワスゲ—イワツメクサ群集，オノエイトドリ植分の多年生草本植物群落により構成される。
未調査。

(9) 総合立地評価

風衝，融雪時のなだれによりスコリアの崩落がおこりやすい地域である。オンタデの根茎は発達したもので50～70cmも深く根をはりスコリアの移動をおさえるのに役だっている。登山客の自由な立入り，登山道その他の施設づくりは極力抑える。